

令和５年度 第１回社会教育委員会議

日時 令和５年７月１３日（木） １０：００～１２：００

場所 北九州市立生涯学習総合センター３階 ホール

１ 市民文化スポーツ局局長挨拶

２ 委員紹介

３ 議長挨拶

４ 議題

（１）令和５年度生涯学習推進計画の主要事業について（取組予定）〔資料１〕

（２）令和５年度の社会教育関係団体補助金について 〔資料２〕

（３）協議テーマ「“学びと活動の環” からつながる地域づくり・人づくりについて」
についての取りまとめ（案）に関する意見交換 〔資料３〕

令和5年度
生涯学習推進計画の主要事業について
(取組予定)

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(1)「学び」と「活動」の 情報提供の拡充								
①「学び」と「活動」の 一元的な情報提供	1	「まなびネットひまわり」(管理運営)	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	《目的》 ホームページ「まなびネットひまわり」を活用して、市内の生涯学習に関する学習機会や講師の情報等、様々な情報を一元的に提供し、生涯学習活動の促進を図る。	200 の一部	218 の一部	218 の一部	学んだ成果を自ら活動に踏み出せるよう、「いつでも・どこでも」、学習から活動、活動から学びへとつなげられるように情報の一元化に努める。 また「まなびネットひまわり」が多くの方に利用していただけるように、様々な機会を捉えて周知する。
②多様な媒体による 情報提供	2	高齢者いきがい活動支援事業	保健福祉局 長寿社会対策課	《目的》 高齢者の社会参加やいきがいづくりを促進するため、高齢者の参加しやすいボランティア・生涯学習情報等に関する情報の収集・提供等を行う。	8,834	8,834	8,834	引き続き利用の状況等を見ながら、リモートを活用するなどし、高齢者の社会貢献やいきがいづくりの推進を行う。特に、スマホ講座等、高齢者のデジタル機器への関心の高まりに対応していく。
	3	生涯学習総合センターだより「まいなび21」の発行	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	《目的》 生涯学習総合センター主催事業や生涯学習関連情報等を掲載した市民向けの情報紙を発行する。	288	288	273	より読者に有益な情報を提供できるよう、他の生涯学習施設の紹介や、すでに実施した事業の報告だけでなく、今後実施される事業の案内を中心とした紙面へのリニューアルを行う。
(2)気軽に相談できる 体制づくり								
①「学び」の相談 体制づくり	4	生涯学習総合センター学習相談事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	《目的》 施設ボランティアの協力のもと、学習相談コーナーを定期的に開設し、生涯学習に関する様々な相談にきめ細かく対応する。	予算措置 なし	予算措置 なし	予算措置 なし	昨年度に引き続き「パソコンなんでも相談」を毎週実施する。 また、施設ボランティアと当センター主事・主事補との定例会議を開催し、情報共有と双方のスキルアップを図る。
(3)多様な「学び」の機会 の提供								
①「学び」のきっかけ づくり	5	年長者研修大学校 (周望学舎・穴生学舎)	保健福祉局 長寿社会対策課	《目的》 高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。	181,969 の一部	187,408 の一部	190,299 の一部	事業を継続し、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを促進するとともに、高齢者の学習機会の提供の充実を図る。また、修了生の地域活動への参加促進を図るためのプログラムを研修コースの中で実施する。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ①「学び」のきっかけ づくり	6	生涯学習市民講座の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 市民の学習活動を支援し、一人一人が健康で心豊かな生活を送り、個人のいきがいくつりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題を解決するため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施する。	8,622	9,784	9,784	より地域の特色を生かした講座、地域課題解決に向けた講座となるよう市民センター館長研修の充実を図り、多くの方に多様な学習機会を提供していく。 また、オンラインやウェブ動画を活用した講座を実施できるよう、オンライン環境の整備を進めるとともに、市民センター館長・職員等の研修を充実させる。
	7	ESD推進事業	環境局 環境学習課	<<目的>> 持続可能な社会の実現に向けて、産学官民の多様な主体から成る「北九州ESD協議会」や誰もが利用できるコミュニティスペースである「北九州まなびとESDステーション」をプラットフォームとして、環境はもとより人権・平和など幅広い視野から総合的に取り組む人材の育成を図る。【ESD＝持続可能な開発のための教育】	19,174	20,179	19,913	「北九州ESDアクションプラン2021～2025」で定められているチーム活動推進事業を中心に、コロナ禍で十分に行えなかった事業を積極的に実施する。 また、引き続き様々な主体との協働により、これまでの活動の更なる推進を図る。
	8	北九州市民カレッジ事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	<<目的>> 市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。	3,292 (八幡西総合含む)	4,438 (八幡西総合含む)	4,635 (八幡西総合含む)	休日及び平日時間外に実施する講座を増やし、新たな受講者層の獲得を図る。 また、より深い学びを得られるよう、グループワーク中心の講座を増やしていく。
	9	北九州ひとみらいプレイスの充実	市民文化スポーツ局 八幡西生涯学習総合センター	<<目的>> 各施設の特徴や専門性を生かし、子供から高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組み、幅広い人づくりを支援する。	2,178	3,693	3,224	「人づくり支援事業」及び「にぎわい創出事業」の実施内容について検討を重ね、委託の見直し等を行うことにより、効率的な事業実施とコスト削減を目指す。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ①「学び」のきっかけづくり ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実	10	デジタル活用講座	デジタル市役所推進室 デジタル市役所推進課	<<目的>> 社会のデジタル化が進展する一方、2020年市民調査では約25%の市民がインターネットを利用していない状況であり、インターネット未利用理由で上位の「機器操作が難しい」等の課題に対応するため、高齢者等、スマートフォン等の操作に不慣れな方がスマートフォン等の操作にチャレンジするための第一歩となるような講座を市民センターと連携して実施する。	1,402	8,000	62,400	デジタル・デバインド対策の強化を図るため、従来から実施してきた「デジタル活用講座(スマホの基本的な使い方などのレクチャー)」及び「デジタル活用相談会(スマホに関する疑問等に関し1対1で相談)」を、文科省の補助金を活用し、大幅に拡充して実施する。
	11	育児サークル・フリースペース活動への支援	子ども家庭局 子育て支援課	<<目的>> 乳幼児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援する。また、自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援する。	5,171	5,729	5,861	子育てに関わる団体の自主的活動をさらに活発化させるため、補助件数の増加等、支援内容について継続的に検討していく。
	12	親子ふれあいルーム運営事業	子ども家庭局 子育て支援課	<<目的>> 子育て中の親と子が気軽に集い、相互に交流を図る場である親子ふれあいルームを運営し、施設の充実や利用日の拡大、相談対応の充実などの機能強化を図る。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と連携し、ネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組む。	35,499	38,660	38,607	親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修の実施等、更なる取り組みを検討していく。
	13	青少年体験活動の啓発・広報の推進	子ども家庭局 青少年課	<<目的>> 市や市民団体・NPO団体等が実施している青少年体験活動についての情報発信を行う。	6,076 の一部	12,509 の一部	12,000 の一部	年2回発行の体験情報冊子「キッズチャレンジ」の掲載範囲を見直し、これまで掲載できていなかった10月、11月をカバーするとともに紙面の都合上掲載できないイベント等については、HPを活用することで、より多くの団体のイベントに関する情報が市内の小学生に届くよう務める。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ②ライフステージや 多様性に応じた 学習機会の提供・ 充実	14	北九州市立大学 i-Designコミュニティカレッ ジ	企画調整局 総務課	《目的》 当カレッジのためにデザインされた必修科目と、大学の多彩な科目の中から学生と一緒に学べる科目等を選択できるプログラムを提供し、社会人の学び直しを支援する。	-	-	-	引き続き、「学問と人生」、「地域創生」、「こころの科学」、「多様な世界との対話」、「社会人のためのデータサイエンス基礎」の5つの領域を開講する。また、次年度へ向けて、広報活動を幅広く行い、より多くの履修生受入れを目指す。
	15	社会参加講座開催事業 (障害者福祉会館の指定 管理事業の一部)	保健福祉局 障害福祉企画課	《目的》 障害のある人の日常生活に役立つ知識の習得や、社会参加の促進を図る。	障害者福祉会館運営費 172,485 の一部	障害者福祉会館運営費 174,184 の一部	障害者福祉会館運営費 174,184 の一部	引き続き、障害のある人の自立の援助や生きがいを高める講座を開催していく。令和5年度は、アンケート等を元に講座内容を精査し、ニーズに基づいた講座を充実させることにより、参加者数の増加を図る。
	16	日本語教育体制整備事業	企画調整局 国際政策課	《目的》 日本語でのコミュニケーションが困難な外国人市民のために、日本語教室を運営するとともに、市内で日本語学習支援を行っているボランティアグループ(13団体)との連携や、助成金の交付、広報協力、スキルアップ研修などを実施することで、日本人と外国人の相互理解および学習機会の充実を図る。	(公財)北九州国際交流協会 運営補助金36,403の 一部	文化芸術振興費補助金10,000 の一部等	文化芸術振興費補助金10,000 の一部等	(公財)北九州国際交流協会が直接運営する日本語教室について、より学習者の日本語レベルに合った教室を受講できるよう4つから5つに再編成する。 また、ボランティアによる13の地域日本語教室の支援を継続するとともに、日本語教室の空白地域であった門司区での新規教室の立ち上げ支援も行う。
	17	障害者スポーツ教室等開催事業	保健福祉局 障害福祉企画課	《目的》 障害のある人がスポーツを通じて体力の維持・増強、機能回復を図る。	2,360	障害者スポーツ振興事業 55,490 の一部	障害者スポーツ振興事業 54,490 の一部	障害者スポーツセンターや障害者スポーツ協会を中心に、地域での活動を支援していくとともに、パラリンピックで注目された種目を取り入れるなど、障害者スポーツを通じた共生社会のまちづくりを進める。
	18	北九州市障害者芸術祭	保健福祉局 障害福祉企画課	《目的》 障害のある人の芸術・文化活動への参加を通じて、本人の生きがいや自信を創出し、社会参加を推進するため、北九州市障害者芸術祭(ステージイベント、作品展)を開催する。	5,200	障害者芸術文化活動等推進事業 8,155 の一部	障害者芸術文化活動等推進事業 8,155 の一部	芸術文化応援センター(東部障害者福祉会館内)等の関係機関との連携を強め、事業の周知等を充実するとともに、関連するイベント(ふれあいフェスタ)との一体的な開催を継続し、魅力的なイベント内容とすることにより、参加者数・来場者数の更なる拡大を図る。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ②ライフステージや 多様性に応じた 学習機会の提供・ 充実 ③現代的・社会的な 課題の解決に向け た学習機会の提供・ 充実	19	多様性が輝く地域へ「心の バリアフリー」事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 地域全体で「心のバリア」をなくし、相互理解 を深めていくため、障害のある人や国籍・言 語の違う人などと住民が共生した地域づくりを 目指す。	8,091	1,000	1,000	障害のある人・外国人住民等と地域住民 が、共に認め合い、地域での孤立予防・解消 と活力ある地域社会づくりを支援する学習機 会を提供していく。
	20	人権市民講座	教育委員会 企画調整課	《目的》 人権問題に関する市民の正しい理解と認識 を深めるため、市民センターにおいて人権学 習を推進する。		11,074 の一部	10,888 の一部	市民が親しみやすい人権市民講座等を開 催できるように、題材や学習内容・方法など工 夫を行う。
	21	企業や地域等でのワーク・ ライフ・バランスの取り組み 支援	総務局 女性が輝く社会推進室	《目的》 企業等の事業者に対して、仕事と子育て等 との両立への理解促進や働きやすい職場環 境づくりを働きかける。また、毎年11月をワー ク・ライフ・バランス推進月間とし、その意義や 必要性を企業等事業者や市民に周知する。	5,677	7,475	6,911	仕事と生活の両立が図られていると感じる 人の割合が上昇するように、女性活躍・ワー クライフバランス表彰の実施や企業へのアド バイザー等の派遣、各種セミナーの開催等、 企業への支援を継続して実施するとともに、 事業の効果的なPRを図る。
	22	読み聞かせ・読書ボラン ティア養成講座	教育委員会 子ども図書館	《目的》 読書を通して、子どもの豊かな感性を育む ため、読み聞かせなどが行えるボランティア の育成を図る。	132	318	318	読書をする子どもを増やすには、大人の協 力は欠かせない。子どもが読書活動に親し み、読書の大切さを知ることができるよう、力 強く支える大人を増やし、市立図書館や学校 など市内で活動している読み聞かせボラン ティアなど読書に係るボランティアの育成、連 携支援に取り組む。
	23	・DIG(住民参加型災害図 上訓練) ・HUG(避難所運営ゲーム)	危機管理室 危機管理課	《目的》 ・DIG(ディグ)は、参加者が自分たちの住むま ちの地図を囲み、書き込みを行いながら議論 することで、わがまちに起こりうる災害像をよ り具体的にイメージできる訓練。 ・HUG(ハグ)は、避難所に見立てた模造紙や 避難者に見立てたカードなどを活用し、参加 者がプレイヤー(避難所運営者)となり、避難 所で起こる様々な出来事に対してゲーム感覚 で避難所の運営を学ぶ訓練。	57	955	914	市政だより等を通じて市民へ広報を行い、コ ロナ感染症対策を行いながら訓練実施でき るようDIG及びHUG事業を展開していく。 また、中学生を対象としたJ-DIGの実施につ いても多くの中学校の参加を促せるよう、教 育委員会と連携し、効果的な取り組みとして いく。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
④生涯学習実施機関 のネットワークによる 学習機会の充実	24	学びから活動への仕組み づくり	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	≪目的≫ 行政や大学など様々な学習の場で、学んだ 人にアンケートを行い、「学んだ成果を活動に 活かしたい」と答えた人を、市民センターや市 民活動推進課、ボランティア・市民活動セン ターを通じて、活動を行っている団体(自治 会・まちづくり協議会、NPO、ボランティア等) へとつなぐ事業を実施する。	178 の一部	150	予算措置 なし	昨年度、アンケート実施のデジタル化を行 い、受講生・講座実施者双方から好評であっ たことから、この方式での実施を継続する。 また、アンケート実施を近隣大学等に拡大 することにより、幅広いボランティア希望者の 掘り起こしを検討する。
	25	【新規】 巡る！学ぶ！描く！子ども のための地域の魅力体感・ 発信事業	教育委員会 企画調整課	≪目的≫ 北九州市制60周年を迎える令和5年度に、 これまで実施してきた「こども文化パスポート 事業」の取組を更に深化させた「子どもたちを 対象にした地域の魅力体感発信事業」を実施 する。 具体的には、夏休み・冬休み期間に、子ども たちが参加施設で各種特典が受けられるよう にすることで、子どもたちが施設を巡るきっか けを増やし、地域の魅力を学ぶ機会を提供す る。また、子どもの視点で「住みたいと思える 地域像」や「地域の魅力・誇り」などを「描く」機 会を提供し、表彰することで、地域に対する理 解を深めるとともに、その魅力を発信できる キーパーソン輩出の一助とする。	—	—	10,100	市制60周年事業として実施。対象施設で特 典を受けられる期間を、従来の夏休み期間に 加えて、冬休み期間も実施することで、施設を 「巡る」きっかけを増やし、地域の魅力を「学 ぶ」機会を提供する。 また、お絵かきコンテストを開催し表彰す ることで、子どもたちに学びを「描く」機会を提供 する。
	26	北九州ひとみらいプレイス の充実 (再掲)	市民文化スポーツ局 八幡西生涯学習総合セ ンター	≪目的≫ 各施設の特徴や専門性を生かし、子供から 高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無 を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の 学びの充実、さまざまな団体の活動支援、す べての市民の交流促進に取り組み、幅広い 人づくりを支援する。	2,178	3,693	3,224	「人づくり支援事業」及び「にぎわい創出事 業」の実施内容について検討を重ね、委託の 見直し等を行うことにより、効率的な事業実施 とコスト削減を目指す。
(4)学びと活動の場づくり								
①学んだ成果を生か す仕組み	27	「まなびネットひまわり」(講 師登録及び依頼)	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	≪目的≫ 「まなびネットひまわり」の機能である講師登 録及び、講師を依頼したい人と登録講師との マッチングをすることで「学び」と「活動」の循 環を目指す。	200 の一部	218 の一部	218 の一部	講師情報の活用並びに講師登録数を増や すため、様々な機会を捉えて周知する。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ①学んだ成果を生かす仕組み ②生涯学習関連施設の整備	28	市民センタークラブ	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 生涯学習市民講座終了後、さらに継続的な学習を希望する人々で作られたクラブや自主的なサークル活動からスタートしたクラブ活動を支援、促進する。	予算措置 なし	予算措置 なし	予算措置 なし	クラブ員の高齢化等により、クラブ数が減少している中、生涯学習市民講座等を受講された方々がその後、クラブとして発足するよう事業の充実、また、より活発な活動に繋がるような制度の見直しを検討する。
	29	美術館企画展充実事業	市民文化スポーツ局 美術館	《目的》 美術館において、多彩で魅力ある展覧会を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	104,299	118,519	118,088	「ミュージアム・ツアー」事業と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究し、より効果的な広報PRを行うなど、来館者数の増加につなげたい。
	30	博物館企画展・特別展充実事業	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	《目的》 入館者の増加につながる、魅力ある大型特別展を開催し、さらなる賑わいの創出を図る。	48,285	63,570	55,570	引き続き魅力ある特別展を企画していく。また、令和4年度の開館20周年を迎え、リニューアルした博物館をPRし、新規の来館者やリピーターの増加につなげる。
	31	平和のまちミュージアム管理・運営事業	総務局 平和のまちミュージアム事務局	《目的》 戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集、保存、展示等を行うこと等により、戦争の悲惨さを伝え、もって市民が平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする。		42,000	39,185	ミュージアムの運営を通じて、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけづくりを進めるとともに、幅広い世代の来館を図るため、近隣施設と連携した取組み等を実施する。 また、戦争体験や戦時資料の保存・継承にも努める。
	32	北九州市科学館スペースLABO運営経費	子ども家庭局 科学館	《目的》 北九州市科学館スペースLABOを魅力ある施設として運営することにより、将来を担う技術系人材の育成を図るとともに、修学旅行生や観光客を呼び込むことで、東田地区全体の賑わいに寄与するもの。		567,578	510,123	スペースLABOの運営を通じて、将来を担う技術系人材の育成を進めるとともに、幅広い世代の来館を図るため、近隣施設と連携した取組を実施し、東田地区全体の活性化にも務める。
	33	折尾まちづくり記念館の整備・充実	市民文化スポーツ局 地域振興課	《目的》 折尾のまちづくりの歴史に関する情報の収集及び提供を行うとともに、住民等の交流及び自主的活動の場を提供することにより、折尾のまちづくりを推進する。		17,510	17,510	[指定管理業務] ・折尾のまちづくりの歴史に関する展示(常設展示・特別展示・企画展示)の実施による折尾のまちづくりの活性化、地域のにぎわいづくりへの貢献する。 ・折尾まちづくりの歴史の解説動画の作成および発信する。

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの発掘・育成	34	みんな de Bousai まちづくり人材育成事業	危機管理室 危機管理課	<<目的>> 大学と協働し、防災科目を新設するなど、市内の大学生を対象に、防災教育を実施し、学生自身が災害時に主体的に判断し行動できる知識を身につけ、地域コミュニティにおいて新たな地域防災の担い手として活動できる人材を育成する。	4,968 の一部	11,443 の一部	10,724 の一部	引き続き対面での授業に加え、オンラインでのライブ配信やアーカイブ配信を行い、学生に多様な学習の機会を提供することで、地域防災を担う人材の育成と発掘を行う。
	35	子育てネットワークの充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成する。	663	598	598	子育てサポーター登録者数の増加及びフォローアップ研修の内容の充実を図る。 子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、子育てサポーターが活躍できる講座を開講や活動の場の提供など、活動の充実を図る。
	36	ボランティア活動促進事業	保健福祉局 地域福祉推進課	<<目的>> 地域福祉の振興を図るため、北九州市社会福祉協議会が実施しているボランティアの育成、コーディネート、活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等のボランティア活動促進事業に対して補助している。	34,252	34,904	30,858	令和5年度は従来から実施している福祉教育事業を拡充する。また、若者の自立相談機関と連携したボランティア活動の支援に取り組む。
	37	社会福祉ボランティア大学校運営事業	保健福祉局 地域福祉推進課	<<目的>> 地域ニーズに対応した研修内容の充実、研修機会の拡大に努め、地域福祉やボランティア活動を担う人材の養成を行う。	31,380	31,381	30,936	ニーズ・関心の高まっている「新たな福祉課題」に対応するためのボランティアの養成や、活動者の資質向上を図るための取組を進める。
	38	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)(再掲)	保健福祉局 長寿社会対策課	<<目的>> 高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。	181,969 の一部	187,408 の一部	190,299 の一部	事業を継続し、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを促進するとともに、高齢者の学習機会の提供の充実を図る。また、修了生の地域活動への参加促進を図るためのプログラムを研修コースの中で実施する。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ①地域ボランティアの 発掘・育成 ②地域リーダーの 発掘・育成	39	NPO・市民活動促進事業	市民文化スポーツ局 市民活動推進課	《目的》 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動サポートセンターを拠点として、NPO・市民活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、講座の開催、NPO法人設立・運営支援などを行う。	16,939	17,434	17,434	市民活動の裾野を広げるため、市民活動を担う団体の育成及び新たな人材の掘り起こし等が必要であり、NPOの入門講座や講演会を引き続き実施するとともに、NPOの運営力を向上させる取組を実施し、NPO団体の組織・運営の基礎強化を図る。
	40	地域力アップセミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	《目的》 地域への帰属感や連帯感を共有でき、学んだ成果を地域で活かすことができる人材の育成を目的としており、受講生が自ら学習し、主体的に関わることで地域づくりを実践的に学ぶ講座となっている。	3,292 の一部	4,438 の一部	4,229 の一部	地域活動に活かせる学びになるよう、より実践的な講義内容に変更する。 また、最終回に実施する成果報告発表を企画提案型に改めることで、より実践的な人材育成を図る。
	41	健康づくり推進員養成・活動支援事業	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	《目的》 市民主体の健康づくりを推進するため、地域における健康づくり活動のリーダーの育成を行う。	3,887	4,024	3,963	健康づくり・介護予防活動を安全に継続できるようにする。今年度はフレイル予防や高血圧予防に関する活動を強化していく。
	42	生涯学習指導者育成セミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 地域課題に対する地域福祉活動、まちづくり推進活動、子育て活動などに総合的に取り組める、生涯学習を推進するための人材育成を目指す。	750	750	750	講義内容のより一層の充実と情報周知の強化を行い、受講希望者の増加を図る。
	43	女性リーダー国内研修	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	《目的》 市内で活動している女性や学習グループのリーダー、今後リーダーとして活動しようとする意欲のある人を先進他都市等に派遣し、生涯学習活動に必要な専門的知識や技術についての学習を深め、地域活動の中心となる人材の育成及びスキルアップを図る。	44	516	138	応募条件の緩和及び現地研修を日帰りにすることで幅広い層の受講者獲得を目指す。 また、従来は市の施策を中心とした講義内容であったが、より実践的な人材育成のため、企業役員など現在活躍している女性講師による講義を行う。
	44	住民主体の地域づくりの促進	市民文化スポーツ局 地域振興課	《目的》 地域コミュニティの重要性の理解促進を図ることを目的とした各種事業を通じて、住民主体の地域づくりを促進する。	210	2,480	560	まちづくり協議会等の地域団体に地域の課題解決に主体的に取り組んで頂くため、まちづくり専門家派遣制度の活用など、地域の実情やニーズに応じた支援を行う。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(2)「学び」と「活動」をつな ぐ人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」を コーディネートする 人材の発掘・育成	45	社会教育・生涯学習関係 職員研修の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	≪目的≫ 社会教育施設や市民センター、地域におけ る学習・交流の機会の提供は、現代的・社会 的課題の解決に向けてますます重要になって くる。 今後もこれらの施設で、多様かつ有効な生 涯学習事業等を推進することができるよう、関 係する職員等の研修の充実を図る。	[生涯学習 課] 178 の一部 [生涯学習 総合セン ター] 153	532	640	研修の中で、社会教育・生涯学習事業に関す る事例発表や市民センターの館長同士、職員 同士の情報交換を行う機会を設ける。
	46	生涯学習推進コーディネ ーター配置事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	≪目的≫ 全市の生涯学習推進コーディネーターが 一堂に会し、意見交換や情報交換を行い、交流 を深めることで、より地域の学びと活動を活性 化する専門人材となるよう研修会を実施す る。	6,016	6,686	6,052	令和4年度に要項の見直しを行った影響や効 果などを検証し、コーディネーター配置事業のあ り方について検討を行う。
	47	地域学校協働活動推進員 (地域学校協働活動事業)	教育委員会 学校教育課	≪目的≫ 地域等と学校とのパイプ役として、学校の要 望に応じて、スクールヘルパー等の人材を発 掘し、「地域学校協働活動」を推進する。	20,898 の一部	48,900 の一部	45,554 の一部	国型・市型学校運営協議会と地域学校協働活 動について説明した動画を用いて、活動内容を 周知する。また、地域学校協働活動推進員への 研修を行い、地域と学校のパイプ役として地域 学校協働活動を推進できるようにする。

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	48	家庭教育学級の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 家庭の教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。	959	3,362	3,362	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、家庭教育を充実させるため、市民センターが主体となって家庭教育学級を実施・運営していく方法等について、関係者から意見を聞きながら、引き続き検討していく。 家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、引き続き、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画等をインターネットで配信し、情報提供を行う。
	49	地域・子ども交流事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 地域の特色を活かし、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高めることを目的に家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な体験活動の機会を提供する。	8,662 の一部	9,784 の一部	9,784 の一部	引き続き、家庭・地域・学校等が連携した、世代間交流や様々な体験活動の機会等を提供していく。
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成(地域文化、生涯スポーツ)	50	伝統文化の発掘・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	《目的》 指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。	1,033 の一部	1,127 の一部	1,127 の一部	市内の指定文化財について、その保存・継承と普及・啓発を支援するため、相談体制の維持と活動に関する補助金を交付している。 コロナ禍でも保存団体の意欲は高く、引き続き、優先順位をつけながら文化財の保存・活用に努める。
	51	文化財の保存・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	《目的》 文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。	4,224	6,400	1,000	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を実施し、市内の文化財を保護・活用していく。
	52	博物館セカンドスクール事業	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	《目的》 いのちのたび博物館を「第2の学校(教室)」と位置づけ、博物館への誘致事業・学校教育支援事業・家庭教育支援事業の3つの柱をかけた、学校教育現場と博物館の結びつきの強化を図る。	1,685	1,143	1,143	ICTを活用したオンライン授業などで学校教育支援をさらに推進する。 また、教員研修等の対象を市外の学校にも広げるなど学校団体誘致を強化する。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
(続き) ①シビックプライドの 醸成(地域文化、 生涯スポーツ)	53	生涯スポーツ振興事業 (旧地域スポーツ振興事業)	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	《目的》 各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。	14,675	16,506	15,845	各競技団体への補助金を通して、スポーツ教室やニュースポーツ体験会、指導者養成講座などを継続して実施することにより生涯スポーツの振興を図る。
	54	総合型地域スポーツクラブ 育成・支援事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	《目的》 子どもたちをはじめ地域の住民が誰でも、どこでも、いつでもスポーツを楽しむことができるよう、総合型スポーツクラブへの育成・支援を行う。	2,600	2,600	2,496	総合型地域スポーツクラブへの補助金を通して、市内9スポーツクラブの活動を継続的に支援する。
	55	北九州マラソン開催事業	市民文化スポーツ局 国際スポーツ大会推進室(市民文化スポーツ局スポーツ振興課)	《目的》 スポーツの振興やまちのにぎわいづくりを図るため、1万人規模のマラソン大会を開催する。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力をPRし、シビックプライドの醸成を図る。	88,132	88,543	88,040	アフターコロナでの大会開催に向けて他大会の状況を注視し、安全・安心な実施を目指すとともに、積極的な広報を行い、認知度の向上を図る。
	56	ホームタウン推進事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	《目的》 本市をホームタウン・準ホームタウンとする、トップスポーツチーム等の市民観戦事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	54,254	68,000 の一部	68,000 の一部	トップスポーツチーム同士の連携を強化し、市民に愛されるチームになるような取組を行うと共に、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施する。
(3)学校と家庭・地域が つながる教育力の向上 ①家庭教育支援の 充実	57	家庭教育学級の充実 (再掲)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 家庭の教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。	959	3,362	3,362	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、家庭教育を充実させるため、市民センターが主体となって家庭教育学級を実施・運営していく方法等について、関係者から意見を聞きながら、引き続き検討していく。 家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、引き続き、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画等をインターネットで配信し、情報提供を行う。
	58	親力アップ情報発信	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 核家族化や共働き世帯など、子どもや家庭を取り巻く環境の変化に合わせて、いつでもどこでも家庭教育の役立つ情報が得られるよう、子育て支援につながる情報提供を行う。	3,992	1,190	1,190	新たなテーマを追加し、家庭教育力の更なる向上を図る。 家庭などに課題を抱え、子育て支援が必要なより多くの保護者へ情報が届くよう、PR方法に力を入れる。

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R3年度 決算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	令和5年度に向けて強化・見直した内容 または 令和5年度の取組み予定
②家庭・地域・学校の 連携促進 ③地域における子ども たちの発達・育成を 促す環境づくりと体 験活動の推進	59	コミュニティ・スクール事業	教育委員会 学校教育課	≪目的≫ 学校運営及び学校運営に必要な支援に関 して協議する「学校運営協議会」を設置、地域 住民が学校運営への参画を促進し、学校と地 域との連携を促進し、「地域とともにある学校 づくり」を進める。	20,898	48,900	45,554	国型・市型学校運営協議会の運営について示 すプレゼン動画資料を用いて、広く周知を図るこ とにより、円滑な運営を進めていく。
	60	地域で育もう「未来の種」 事業 ～市民太陽光発電所・市 民還元事業～	市民文化スポーツ局 生涯学習課	≪目的≫ 地域づくりの未来の担い手である子どもたち の健全な発達・育成に向けて、市民センター が中心となって、まちづくり協議会などの地域 団体、子育て支援団体、NPO、企業などと協 働で、世代間交流・体験活動を実施する。	1,922	3,000	3,000	市民センターを主体として、地域全体で子ども たちの健全な発達・育成を促す講座や活動に取 組んでいるが、高齢化等により地域だけで継続 的な活動を行うことが難しくなっている。そのた め、子育て支援団体、NPO法人、企業などのノ ウハウを活用し、また、今までにない新たな発想 を取り入れ、より充実した世代間交流や体験活 動を実施する。
	61	地域学校協働活動事業	教育委員会 学校教育課	≪目的≫ 多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画 し、また、活動を通じて地域社会全体の教育 力の向上を図り、地域全体で子どもたちの成 長を支え、地域を創生する活動を推進する。	20,898 の一部	48,900 の一部	45,554 の一部	国型・市型学校運営協議会と地域学校協働活 動について説明した動画を用いて、活動内容を 周知する。また、地域学校協働活動推進員への 研修を行い、地域と学校のパイプ役として地域 学校協働活動を推進できるようにする。
	62	地域・子ども交流事業 (再掲)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	≪目的≫ 地域の特色を活かし、地域ぐるみで子どもを 見守り育てる意識を高めることを目的に家庭・ 地域・学校等が連携して、世代間交流や様々 な体験活動の機会を提供する。	8,662 の一部	9,784 の一部	9,784 の一部	引き続き、家庭・地域・学校等が連携した、世 代間交流や様々な体験活動の機会等を提供し ていく。
	63	青少年ボランティアステ ーション推進事業	子ども家庭局 青少年課	≪目的≫ 青少年の成長に欠かすことのできない様々 な体験活動等を通じ、青少年が社会の構成 員として規範意識や社会性、協調性等を身に 付けることができるよう、青少年ボランティア ステーションを拠点に、青少年の体験活動を 支援、促進する。	842	1,523	1,462	ホームページを活用し、最新のボランティア募 集の情報や活動の実施の有無を発信する。こ れにより、多くの青少年に様々な活動の場を与 えるとともに、円滑に活動できるようにする。 また、様々な機会を利用してボランティアス テーションの活動内容をPRし募集依頼の増加を 図ることで、幅広い内容のボランティア活動を紹 介することにつなげ、北九州市の青少年のより 豊かな人間性を育んでいく。

資料2

**令和5年度
社会教育関係団体補助金について**

令和5年度社会教育関係団体補助金一覧表

団体名	1 北九州市婦人会連絡協議会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	800	800	0
団体の活動目的	北九州市各区地域婦人会の発展や安全・安心な地域社会づくりに資するための連絡機関であるとともに、その連携協力により共通の目的達成のために連絡協議する。		
補助対象事業	・機関紙発行事業 ・地域婦人会指導者研修事業		
補助対象の 事業内容(概要)	・機関紙発行事業[600千円] 団体の活動状況を幅広く会員にアピールし、連帯の環を広げるとともに意識の向上を図った。 (令和4年度 発行回数:年2回 発行部数:7,000部/1回) ・地域婦人会指導者研修事業[150千円] ・全国指定都市研究集会[50千円] 各種研修会の参加及び研修大会の実施により、各種意見交換や情報交換を行うなど、会員自らが学習し、能力の向上を図った。		

団体名	2 北九州市PTA協議会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	1400	1,400	0
団体の活動目的	子どもたちの心身の健全な発達を願い、家庭教育学級や学年・学級活動などに主体的に参画することを通して、自らが進んで実践する生涯学習活動に取り組んでいる。		
補助対象事業	・機関紙発行事業 ・各種研修大会参加事業		
補助対象の 事業内容(概要)	・機関紙発行事業【1,100千円】 広報紙「PTA新聞」を通して、市内のPTAの活動状況を幅広く会員に紹介し、会員の連帯の輪を広げ、意識の向上を図った。 ・各種研修大会参加補助【300千円】 PTA全国大会・九州大会への参加に対する補助を行い、PTA活動への見識を広げ、市内での活動に還元した。		

団体名	3 北九州市子ども会連合会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	2,500	2,500	0
団体の活動目的	子どもたちに生きる力と輝きを育み、体験を通して感動が生まれ、輝く夢を与える活動を行う。		
補助対象事業	・北九州市子ども会連合会事業		
補助対象の 事業内容(概要)	地域における青少年の健全育成を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して補助金を交付し支援を行う。		

団体名	4 日本ボーイスカウト福岡県連盟		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	1,100	1,400	▲ 300
団体の活動目的	自立心や責任感、リーダーシップなど、子どもたちが「生きていく力」を身に着けることができる貴重な体験の場である野外活動や奉仕活動などを通じて、青少年を育成をすること。		
補助対象事業	・日本ボーイスカウト北九州地区協議会事業		
補助対象の 事業内容(概要)	地域における青少年の健全育成を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して補助金を交付し支援を行う。		

団体名	5 ガールスカウト福岡県北九州地区		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	300	300	0
団体の活動目的	一人ひとりの育ちをていねいに支え、行動できる力をはぐくむ。		
補助対象事業	・ガールスカウト福岡県北九州地区事業		
補助対象の 事業内容(概要)	地域における青少年の健全育成を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して補助金を交付し支援を行う。		

団体名	6 門司海洋少年団		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	100	200	▲ 100
団体の活動目的	海洋に親しむ機会を与え、甘えを無くし、責任感のある子の育成を目的としている。		
補助対象事業	・海洋少年団事業		
補助対象の 事業内容(概要)	地域における青少年の健全育成を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して補助金を交付し支援を行う。		

団体名	7 北九州地区(市)少年補導員連絡協議会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	1000	1,000	0
団体の活動目的	各連絡会の相互連携、少年の非行防止及び保護に関する活動など少年の健全育成に寄与する。		
補助対象事業	・北九州地区(市)少年補導員連絡協議会事業		
補助対象の 事業内容(概要)	地域における青少年の健全育成や非行防止活動を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して補助金を交付し支援を行う。		

団体名	8 校区青少年育成会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	300	409	▲ 109
団体の活動目的	地域における青少年の健全育成、非行防止のための日常的な活動の推進。		
補助対象事業	・校区青少年育成会事業		
補助対象の 事業内容(概要)	地域における青少年の健全育成や非行防止活動を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して補助金を交付し支援を行う。		

団体名	9 その他青少年育成団体		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	600	600	0
団体の活動目的	青少年の健全育成(NPO団体等)		
補助対象事業	・遊びの広場促進事業補助金		
補助対象の 事業内容(概要)	異年齢集団での遊びや自然体験、社会体験活動など、地域での体験活動、遊びの広場の輪を広げるため、他の団体・グループ活動の参考になる取組みに対して補助金を交付し活動の支援を行う。		

団体名	10 (公財)北九州市スポーツ協会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	11,320	11,800	▲ 480
団体の活動目的	スポーツを振興して北九州市民の体力向上を図り、健康で明るい市民生活を確立することを目的とする。		
補助対象事業	・各競技団体の指導育成 ・スポーツ大会の開催及び助成 ・スポーツ指導者の養成 ・スポーツの普及、競技力の向上 ・スポーツ少年団の指導育成		
補助対象の 事業内容(概要)	市民向けのスポーツ教室・健康教室や指導者養成講習会、選手強化講習会等を実施。		

団体名	11 北九州市レクリエーション協会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	960	1,000	▲ 40
団体の活動目的	全国レクリエーション活動の先駆者として北九州市のレクリエーションの啓発・普及・拡大を目的とする。		
補助対象事業	・レクリエーション活動の普及、大会の開催 ・レクリエーション指導者の養成 ・レクリエーションに関する調査研究 ・レクリエーション団体の指導育成		
補助対象の 事業内容(概要)	市民向けの教室・大会やレク・インストラクター養成講座等を開催。		

団体名	12 北九州市スポーツ推進委員協議会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	240	250	▲ 10
団体の活動目的	北九州市におけるスポーツの推進やその体制の整備を図ることを目的とする。		
補助対象事業	・各種スポーツ・レクリエーション行事の企画・立案 ・ニュースポーツの普及・振興		
補助対象の 事業内容(概要)	ニュースポーツ普及のためスポーツ推進委員を対象に座学と実技研修会を年1回ずつ実施。 また、活動報告として「スポーツ推進委員だより」を年2回発行。		

団体名	13 北九州市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会		
予算額 (千円)	R5年度	R4年度	比較(R5-R4)
	2,496	2,600	▲ 104
団体の活動目的	市民のスポーツ・レクリエーションの普及・振興を図る活動を支援する。		
補助対象事業	・総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業		
補助対象の 事業内容(概要)	市内の総合型地域スポーツクラブの相互の連絡、研修、質の向上のため組織された「北九州市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」を通じ、各クラブへの指導者の育成等の支援を行うとともに、各区クラブ間の交流事業や勉強会等を開催する。		

協議テーマ「“学びと活動の環”から
つながる地域づくり・人づくり
～SDGsの達成を目指して～」
意見とりまとめ（案）について

案

「“学びと活動の環” からつながる

地域づくり・人づくり

～SDGs の達成を目指して～」

(意見とりまとめ)

令和5年 月

北九州市社会教育委員会議

【目次】

I	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	協議テーマの決定と背景等について・・・・・・・・	2
III	共同学習について(野依議長講話・令和3年度第2回会議) 「北九州市戸畑区三六公民館の婦人学級から」	3
IV	本市の市民センターについて(令和3年度第3回会議資料)・・・・・・・・	6
V	市民センターの取組みと委員意見・・・・・・・・	9
	(1)地域防災力の向上及び子どもの健全育成・体験活動・・・・・・・・	9
	①平野市民センター・足原市民センター実践事例・・・・・・・・	9
	②グループワークの内容・・・・・・・・	16
	(2)デジタル化への対応・・・・・・・・	17
	①企救丘市民センター実践事例・・・・・・・・	17
	②グループワークの内容・・・・・・・・	21
	(3)地域づくりにつながる館長の役割・・・・・・・・	23
	①西門司市民センター実践事例・・・・・・・・	23
	②グループワークの内容・・・・・・・・	27
	(4)地域の健康増進・・・・・・・・	29
	①沢見市民センター実践事例・・・・・・・・	29
	②グループワークの内容・・・・・・・・	34
VI	【まとめ】地域づくり・人づくりにつながる取組みについて・・・・・・・・	37
VII	参考資料	
	(1)社会教育委員名簿・・・・・・・・	39
	(2)社会教育委員関係法令(抜粋)・・・・・・・・	40
	(3)今期の北九州市教育委員会議・・・・・・・・	41
	(4)協議テーマ検討意見(令和3年度第1回・第2回会議 委員意見)・・・・・・・・	42
	(5)令和3年度第2回社会教育委員会議資料・・・・・・・・	44
	(6)令和3年度第3回社会教育委員会議資料・・・・・・・・	45
	(7)令和4年度第1回社会教育委員会議資料・・・・・・・・	53
	(8)令和4年度第2回社会教育委員会議資料・・・・・・・・	73
	(9)令和4年度第3回社会教育委員会議資料・・・・・・・・	76
	(10)北九州市政ラジオ番組「地域で育もう『未来の種』事業」特集のまとめ・・・・・・・・	85

I はじめに

社会教育法第15条に「都道府県及び市長村に社会教育委員を置くことができる」とあり、これにより、北九州市では15名の委員を委嘱し、任期を2年としている。

社会教育委員の職務は同法第17条に規定されており、その職務のうち、第17条第1項第2号「定時または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること」により、社会教育委員会会議を開催している。

振り返れば、令和2年度、令和3年度は、コロナ禍による活動自粛の影響のため、社会教育・生涯学習活動もままならない状況にあった。また、去年はコロナ禍だけでなく、ロシアによるウクライナ侵攻や円安、物価高など、先行きの見通しが不透明な2年間であった。

しかし、このような社会情勢であっても「SDGsの達成」に向けて、様々な取り組みに努めていく必要があると考え、今任期（令和3年8月29日～令和5年8月28日）の会議においては、令和3年11月に、「“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり～SDGsの達成を目指して～」という協議テーマを設定した。

そして、困難な状況の中でも「学びを止めない」ために、様々な工夫を凝らして活動を継続・展開し、地域課題に取り組む市民センターの事例を取り上げ、令和4年1月から令和5年7月までの5回に亘り議論を重ね、このたび、北九州市に対する意見としてとりまとめた。

この意見が、本市におけるこれからの生涯学習振興の施策に活かされることを期待する。

北九州市社会教育委員会議

議長 野依 智子

Ⅱ 協議テーマの決定と背景等について

○少子高齢化や人口減少の進行、急速な社会環境の変化の中、持続可能な地域づくりを進めるため、住民主体で地域課題に取り組むことが期待され、社会教育・生涯学習を通した「地域づくり・人づくり」が必要とされている。

○そのためには、本市が令和3年度に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」の施策について、具体的な取り組み事例を踏まえて考察し、計画を推進していく必要がある。

○そこで、今期の社会教育

- ① 子どもの健全育成・体験活動
- ② 地域防災力の向上（危機管理）
- ③ 地域の健康増進
- ④ デジタル化への対応

に関する取り組みを取り上げ、本市における「地域づくり・人づくり」に必要とされること等について、新たな視点から提言する。

○また、生涯学習推進計画の具体的な施策・取り組みは、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGsにつながっている。各ゴールの視点から現在の取り組みを見直すことにより、SDGsの達成を目指すもの。

以上のことを踏まえ、協議テーマを下記のとおり決定した。

“学びと活動の環” からつながる地域づくり・人づくり

～SDGsの達成を目指して～

Ⅲ 共同学習について

社会教育・生涯学習の概念と方法について（野依議長講話）

（令和3年11月9日 令和3年度第2回社会教育委員会議）

社会教育・生涯学習とは何かという共通認識を、皆さんと一緒に持てればと思っています。

社会教育・生涯学習の概念ということと定義、また具体的な事例から少し考えていただけたらということで、戸畑の婦人学級の例をお話しさせていただきます。それから社会教育の特徴の1つでもあります共同学習ということ。そして、学習のサイクルとはどういうことなのか、社会教育・生涯学習の専門職員に求められる役割はどういうことかというところで話をさせていただきます。

1 社会教育・生涯学習の概念

まず概念ですけれども、日本社会教育学会というものがあまして、学会は **Studies in Adult and Community Education** と英訳しております。欧米のほとんどの国は **Adult Education**、成人教育というのが一般的な内容になっております。日本は、いろいろ変化をしております、この社会教育がどのような概念で変化してきたかということを軽くお話ししたいと思います。

社会教育・生涯学習の概念

- 社会教育学会の標記 **Studies in Adult and Community Education**
- 戦前：1921（T10）年、文部省「通俗教育」を「社会教育」と改称
- 戦後：1946（S21）年、寺中文化次官通牒「公民館の設置運営について」
 - ・ 公民教育：政治制度や政治行動の民主化→憲法学習が盛ん→コミュニティ（生活レベル）の民主化→ **Community Education** としての社会教育の展開
 - ・ 1990年、生涯学習振興法により「社会教育・生涯学習」と表記

そもそも、戦前、1921年に文部省が通俗教育というものを「社会教育」という名称に改称した、ここが社会教育の始まりです。通俗教育というのは何かというと、「国民皆学」、子どもをみんな学校にやろうという明治政府の方針に従って、実際には全ての子どもが学校に行けたわけではないので、その保護者に向けて、学校教育をきちんと受けさせようという講演をした、それが通俗教育の始まりです。それが、社会教育の始まりだというふうにいわれております。

その後、少し省きますが、日露戦争のあとには農村復興のために青年団をつくろうというのが、内務省、文部省から通達が出ております。ですので、農村復興、地域振興といった領域も含まれました。その後、社会事業的社会教育ということで、福祉の視点も入れるというような社会教育の位置づけもありました。そして、1946年、戦後、寺中文化次官通牒で、「公民館の設置運営について」というものが出されまして、ここではっきりと社会教育は公民館を拠点としていくという通牒が出ました。

今現在、公民館という名称はかなり減ってきておりますが、一時期全国に2万あまりの公民館がありました。中学校よりも多く、小学校よりはすこし少ないという程度に全国に公民館が設置されました。そのとき、戦後すぐは公民教育ということで、それまで戦前のいろいろな軍事的なことの反省も踏まえて、政治制度や政治行動の民主化ということで、憲法学習が盛んに行われました。そこから、コミュニティ、生活レベルの民主化にも発展していき、そして **Community Education** としての社会教育が展開してきたというような、大ざっぱな流れになります。

その後、1990年に生涯学習振興法というものができまして、そこで「社会教育」という名称ではなく、「生涯学習」というのが盛んに使われるようになりました。しかし、学会においては社会教育を残そうという意味もありまして、「社会教育・生涯学習」という表記の仕方をしています。ですので、教育委員会等におきましても生涯学習課と変化しているところもございます。

2 社会教育・生涯学習の定義

定義ですけれども、大きくこの4つです。地域課題・生活課題の解決、これが目的。そして、その方法として、上から言われたり誰かに教えられたりということではなく、住民、学習者が自ら学習を計画して実施する自主的学習。そして、共同学習、相互学習。つまり、ただ本を読んだり、知識を入れるだけ

ではなくて、みんなで話し合いながら学習を展開していくという共同学習、相互学習。この共同学習について、後ほど事例を見たいと思います。そしてもう1つは、いつでもどこでも誰でも、この社会教育を享受することができる。ですので、先ほど言ったように中学校よりも多くの公民館が設置されたという流れがございます。

社会教育法で定められている社会教育施設は、公民館、図書館、博物館、青少年施設、婦人教育施設等々ですが、北九州もそうですが、公民館から市民福祉センターになり、現在は市民センターになりということで、他都市でも多くが名称を変えてきております。ですので、非常に多様化していますので、現在は「社会教育関連施設」というふうにくくって呼んでおります。

社会教育・生涯学習の定義

- ①地域課題・生活課題の解決が目的
- ②自主的学習
- ③共同学習・相互学習
- ④いつでも、どこでも、だれでも

◇社会教育法で定められた社会教育施設とは、公民館・図書館・博物館・青少年施設・婦人教育施設

⇄多様化して、社会教育関連施設

3 共同学習の事例から（婦人学級における公害学習）

戸畑の三六公民館で、戦後すぐの高度経済成長期に、実際に行われた非常に進んだ事例です。

共同学習の事例：戸畑区三六公民館の婦人学級による「公害学習」

1960年代はじめ、戸畑区三六公民館の婦人学級による「公害学習」は、主婦たちによる地域課題(工場の煙によって洗濯物が黒ずむ)解決のための社会教育の好事例として、今なお語り継がれている。講義を聞くだけではなく話し合いの中から課題を発見し、調査し、また話し合いを重ね、大学に実験を依頼し、分析して結果をまとめるというその作業は、共同学習の典型である。この三六公民館婦人学級の取り組みは、戸畑区婦人会協議会の組織をあげての取り組みに発展した。また、婦人学級の経験をいかして、リーダーが講師となって研修も行った。まさに、主婦の学習が地域を動かし、次なる人材を育成していったともいえよう。

〈出典〉野依智子「北九州市の地域づくりを支える女性たちの学び」(『社教連会報』88号、一般社団法人 全国社会教育委員連合 令和3年)

4 共同学習とは

まず最初に、地域課題の共有、これを学級生たちが話し合いの中から発見していく、そして学習をしていく。自分たちで、実態を知るということで情報収集を行う。知識を得るということで、講師をお呼びして講義を聞いたり、自分たちでそういった内容をまとめる資料づくりをして、さらに問題の理解を深めていく。さらに

自分たちでもアンケート調査をしたり、インタビュー調査をしたりして、実態を深めたり、問題の理解を深めていく。そして、実際に調査の分析を行い、解決策を探る。工場見学に行くなどの行動をする。と、こういったことをグループで行う、こうした一連の学習活動、これが「典型的な共同学習」といわれています。

共同学習とは

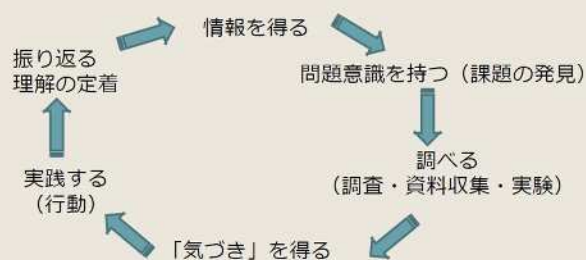
- 地域課題の発見・共有
 - 情報収集（実態を知る）
 - 知識を得る（講師による講義）
 - 資料づくり（問題の理解を深める）
 - 調査（アンケート調査・インタビュー調査）
 - 実験・分析
 - 解決策を探る
 - 行動する
- ⇒グループで行う、こうした一連の学習活動をいう

5 学習のサイクル

今言ったエッセンスのつながりを見ると、学習のサイクルということで、こういったサイクルになります。まずは問題意識を持つ、課題の発見。そして調べる、気づきを得る、実際に行動する。そして振り返って、さらに次なる問題に対してまた情報を得る。また、

さらなる課題を発見していき、そこからまた学習をしていくという、こういう学習をぐるぐる循環して、サイクルというか、そういう中で、地域といろいろな共有をしたり、地域のいろいろな団体と連携して、課題解決や情報収集をしていくということも、必然的に起こっています。そうした地域のいろいろな団体との連携を通して、いろいろな人を巻き込んでいく。先ほどありました婦人会とか、PTA、母の会、そういったものを巻き込んでいく中で地域づくりが進んでいくというふうに考えられています。

学習のサイクル



6 社会教育・生涯学習に関わる専門職員に求められる役割

最後になりますが、こうした当時の婦人学級という一連の学習の「場の創出」や、そこでの「学習の組織化」、そして、そこで学習する「学習者（地域住民）の組織化」。こういったことを行うのが、「コミュニティオーガナイザー」といういわれ方もしているのですけれども、オーガナイザー、まとめ役です。今でいう市民センターの館長、職員、そして、以前は公民館主事、そういった社会教育・生涯学習に関わる専門職員の役割というのは、この3つになるのではないかと思います。

こういったものが社会教育・生涯学習の理想的な見方といえますか、ひとつの地域づくりになるとまとめております。

以上で、私の概念と方法についてのお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

IV 本市の市民センターについて

(令和3年度第3回社会教育委員会議資料より)

1 市民センターの機能について

本市では令和3年4月現在、市民センターは130館（サブセンター6館）あり、生涯学習に関する講座や教室等の事業の開催、地域の団体への貸館、文化祭などの交流活動を行い、地域住民にとって最も身近な学習施設である。また、運営を委託しているまちづくり協議会をはじめ、自治会等地域団体や学校とも密接につながっており、地域づくりの重要な拠点施設となっている。

2 市民センターの生涯学習事業について

現在、市民センターで実施している生涯学習事業

(1)	生涯学習市民講座
(2)	学習情報の提供（市民センターだより）
(3)	文化祭の開催
(4)	市民センタークラブの育成
(5)	家庭教育学級
(6)	人権教育
(7)	青少年関連事業

【補足】(4) 市民センタークラブは、趣味や健康づくりなど、市民センターで幅広くサークル活動を行っているもの。令和3年度4月時点で、4,391クラブある。

3 生涯学習市民講座について

子どもから大人まで多様な要素を持つ地域の方が、地域課題や社会的課題等の解決を目指す講座、社会貢献活動につながる講座、生きがいづくりを目指す講座など、幅広い分野にわたる講座を学び、そこから得た知識や技術等を個人レベルに留めず家庭・地域・団体活動などに活かしていくよう、年間3講座以上（1講座3回以上、但し4講座目からは1回でも可）の講座を実施する。

《参考》

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
生涯学習市民講座 参加者数	85,864人	84,426人	130,619人	124,765人	44,429人
市民センターでの 子ども交流事業や 体験活動事業 への参加者数	54,254人	53,080人	(56,563人)	(55,370人)	(14,390人)

※平成30年度以降の市民講座参加者数は、事業の統合により、子ども交流事業の参加者数を含む。

4 地域で育もう「未来の種」事業について

(1) 地域で育もう「未来の種」事業

ア 目的

現在、少子化や地域コミュニティ意識の希薄化などにより、子ども会活動をはじめ地域における子どもの活動は全体的に低迷している。

そのため、

- ① 子どもたちに豊かな人間性を育み、自ら学び、自ら考える「生きる力」の基盤をつくり、子どもの成長につなげる。
- ② 地域づくりの未来の担い手である子どもたちの育ちを地域で支えることで、地域の活性化につなげる。

イ 具体的な実施内容

市民センターを主体とし、地域団体、子育て支援団体、NPO、企業などのノウハウを活用し、地域全体で子どもたちの健全な発達・育成を促す世代間交流・異学年交流等につながる体験活動を実施している。

地域団体・NPO等との協働・連携により、例えば、「校歌」を学習媒体にした世代間交流や、「環境」を重視したまちづくり構想の取り組みを体験する活動など、市民センターだけでは思いつかなかった様々な取り組みが実施できている。

	内 容
実施主体	市民センター、地域団体（まちづくり協議会等）
コーディネーター	子育て支援団体、NPO、企業など （事業全体のテーマ、企画及び内容の策定等）
実施館数	17館（各区2館程度。予算編成時は14館を予定）
令和3年度予算額	2,000千円（1館あたり142千円）

【参考】市民還元事業

本市の市民太陽光発電所特別会計（港湾空港局）では、市制50周年記念事業として建設した「市民太陽光発電所」の売電収入の一部を活用して、市民生活の向上に繋がる「市民還元事業」を実施している。

なお、当該事業は単年度で終了する事業で、同じ事業を継続して選定するのは、原則3年までとなっている。

「地域で育もう『未来の種』事業」は、生涯学習課が令和3年度市民還元事業に応募し、選定決定されたものである。

5 市民センターの活動にかかわる主な人材について

	補 職	役割・位置付け
1	市民センター館長	・市民センターの管理・運営の総括 ・まちづくり協議会との調整及び施設運営 ・地域団体との連絡調整 ・行政機関との連絡調整 ・各種事業の実施(生涯学習など) <u>⇒地域活動の拠点となる施設運営</u>
2	まちづくり協議会会長・役員 市民センター職員など	・まちづくり協議会の統括・運営 ・住民主体の地域づくり活動 ・市民センターの日常的な管理運営(市から受託) ・地域の様々な団体との調整 <u>⇒地域の特性や課題に応じた、地域づくり</u>
3	生涯学習推進コーディネーター	・市民センター館長からの推薦により、各市民センターに配置するボランティア ・市民センター等での生涯学習事業の企画・運営への参画 ・地域住民からの学習相談への助言 ・館報作成等の広報活動 <u>⇒地域との橋渡しによる、地域の活動支援</u>
4	地域・人づくりアドバイザー (社会教育主事)	・社会教育主事の資格保持者、社会教育主事講習を修了した人などで、各区役所コミュニティ支援課、生涯学習総合センター等へ配置 ・生涯学習活動支援・振興 ・社会教育を行う者への専門的、技術的な指導・助言 ・市または区における生涯学習に関する事業の企画立案・実施 ・地域振興活動の支援 <u>⇒地域や市民センターへの生涯学習・地域づくり支援</u>

※他に子育てサポーターを配置：市民センターのフリースペース等において、子どもの見守りや子育て支援に関する事業の企画・運営に携わっている。

V 市民センターの取組みと委員意見

事例発表及びグループワークについて

令和4年1月から4回にわたり、市民センターの取組み事例を発表した。

出席委員はA、B、Cの3グループに分かれ、進行役、ファシリテーターとして、社会教育主事が1名ずつ各グループに参加し、毎回協議テーマを設定してグループワークを行った。

(1) 地域防災力の向上及び子どもの健全育成・体験活動

(令和4年1月18日 令和3年度第3回社会教育委員会議)

【グループワーク協議テーマ】

地域づくり・人づくりの観点から良い点を数多く挙げ、その中から事業の成功の要因を探る

【事例発表1】



「平野地区みんなで取り組む防災」

～大雨災害での犠牲者をゼロに！～

北九州市立平野市民センター 館長 伊藤 須美子

「平野地区みんなで取り組む防災」ということで、平成30年度から令和3年度まで取り組んだ事例について発表する。

平野地区は、豊かな自然に恵まれ、二つの自治区会から構成されている。高齢化率が42.4%。かなり高齢化が進む中、美化、防犯、防災などの活動や世代間交流に積極的に取り組んでいる。

このような取り組みの実施に至った経緯としては、高齢者や一人暮らしが多く、土砂災害警戒区域に指定された地域も多いことがある。また、近年、自然災害が激しさを増し、集中豪雨、台風被害のニュースを目の当たりにして、全国的に地域での共助が重視されたことも挙げられる。

「1. 地域の概要」

世帯数 1,665

人口 3,620

高齢化率(65歳以上) 42.4%

JR八幡駅から血倉山への麓へ続き、二つの自治区会から構成されている。

過去には大きな災害はないが、土砂災害警戒区域に指定された地域も多い。

住民の防災意識に温度差がある。



また、平成30年7月6日に、近くの平野川が大雨で氾濫し、災害がどこでも起こるという意識が高まることに繋がったのではないかと思います。

まず、平成30年度取り組みとして、北九州市危機管理室支援事業「地区 Bousai 会議」に申し込んだ。年5回、NPO法人「好きっちゃ北九州」から講師を迎え、講習会を実施した。

各町会別に問題点を洗い出し、具体的に判定ルールというのを決めた。そして、各町会別に計画書を作成。この計画書は町内会長が所持し、町内会に入っていない人にも避難が伝えられるように、民生委員とも関係づくりを行った。

後日、伝達連絡方法DVDを作成し、まちづくり協議会のメンバーや顔なじみのお隣さんが出演するということで、住民が大変関心を寄せるものができた。

第3回の訓練は地区住民70名が参加し、近くの花尾小学校体育館で実施した。連絡や伝達方法の実践をして、参加住民の方がかなり意識を高める結果が得られた。

平成31年度には、前年度のフォローアップ講座を受講。ここで、毎年、防災訓練を定例実施することを、まちづくり協議会と防災部会、部会長等で決定した。訓練後には、備蓄品のアルファ化米を使ってカレーライスをふるまった。災害時にはこういった非常食が大変役立つということを参加者は認識したと思う。

次に、令和2年度の実施である。このあたりからかなりコロナの影響があり、講座を継続するかどうか迷ったが、まちづくり協議会・自治区の要請で、危機感の高まりもあり、さらにフォローアップの2回目を受講した。感染症対策を万全にした中で、前回作成した平野地区防災計画書について、新たな疑問や問題点などを掘り起こして、見直しをした。その中で、町会の一つから、自衛組織である「東川頭お助け隊」が結成された。防災防犯員7名のメンバー構成で、「東川頭から1人の被災者も出さない」を目標としている。

住民アンケートを実施したところ、回答の中には、「これ以上町会の仕事を増やすことはやめて欲しい」、「災害対応などは行政の仕事じゃないか」、「災害が発生しても放置してくれ」などの意見もあった。役員で再度話し合いが持たれ、「あの人が避難しないなら私もしない」という、負の連鎖は作らないよう、できるだけ個別の事情を把握して、避難したくないという人の気持ちに寄り添いながら、避難を促すことが必要であるという結論に至った。

令和3年度に入ってもコロナは収束する気配を見せないが、専門家による講座を実施して講座を継続することとし、まず、感染症対策を踏まえた避難所運営講習会を開いた。

その後、北九州市から避難所運営のモデル地区の要請を受け、地域と連携した避難所開設運営モデル事業の研修を受けている。

さらに、防災気象情報の活用についても、専門家の講義を受けており、また、まちづくり協議会でも、自主的に研修会を開いている。センター内での災害備蓄品の確認、部屋の配置の仕方など、積極的に取り組んで、受け入れる体制の意識を高めていった。



市民センターでも備蓄品の管理、整理、ラベリング、そしてさらに、避難所開設の受け入れマニュアルなどを細かく作成した。今後はさらに防災の取り組みコーナーを設置し、来館者の方が、いつでも目にして、防災意識の向上につなげたいと思っている。

昨年8月に、大雨により警戒レベルⅢが発令され、急遽、まちづくり協議会のメンバーで受け入れ体制を整え、市の職員とともに避難者の受け入れに従事している。

このように、一連の事業をしているが、事業の成果として挙げられるものが三つある。一つ、自衛組織「東川頭お助け隊」の結成。後日、防災研修で防災士の資格を取ったということで、別の方から協力の要請などもいただいている。2番目としては、まちづくり協議会の防災の取り組みが進んでいること。3番目としては、平野市民センター避難所運営に向けての取り組みが現在進行形で進んでいることである。

東川頭町防災・防犯推進委員会(お助け隊)

◆東川頭町防災・防犯推進委員会メンバー(東川頭町お助け隊) 合計7名

現町内会組織の防犯委員	3名
元・前・現町内会長	3名
地域担当民生委員	1名

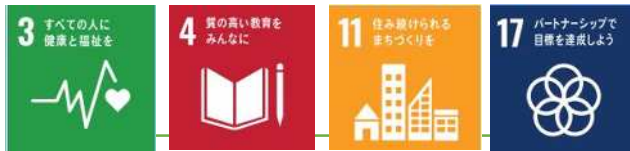
1、町内会への防災・防犯委員会発足周知	趣意書とアンケート配布
2、 <u>避難困難者の把握(自治委員さんへ情報依頼)</u>	避難困難者と縁故者との連絡体制確保
3、 <u>避難情報連絡網の見直しと避難援助体制確立</u>	平成30年防災訓練で決めたことの具体化
4、 <u>町内独自のハザードマップ作成と維持管理</u>	
5、 <u>町内人的ハザードマップの完成と維持管理</u>	空き家、一人暮らし高齢者、避難困難者記載
6、町内会会則の改正提案	

最後に、課題である。課題1として、土砂災害警戒地域はある地域に偏っているため、地域の温度差があることである。地域全体としての協力する意識を高めるということが考えられる。課題2としては、現在は取り組みが順調に進捗しているが、役員・組織の高齢化により、活動量の低下が懸念される。次世代の地域活動の担い手の発掘が最も重要な課題であると思っている。

対策として、周知での工夫を進めていく。館内掲示、防災講座、ホームページ、市民センターだよりなどで周知し、地域全体に認識されるようにしている。2番目の対策としては、多世代交流事業、青少年育成事業など活躍のきっかけづくりになる取り組みをさらに継続していくことを考えている。

このように、事例の防災会議・講座を通じて、防災の取り組みは、まず、日頃のご近所づき合いから始まるということを実感した。今後も地域づくり・人づくりに繋がる活動で元気な平野校区を目指していく。

【事例発表 2】



市民太陽光発電所・市民還元事業～地域で育む「未来の種」事業 やっぱり！みんなで！あそび隊！！～ ～自然から学ぶ生きる力～

北九州市立足原市民センター館長 樋谷 美緒

今年度『地域で育む「未来の種」事業』として実施した「やっぱり！みんなで！遊び隊！！～自然から学ぶ生きる力～」について発表する。

この事業を受けるにあたって、実はかなり時間がかかった。コロナ禍で事業ができるのかと躊躇する市民センター職員が、同じ方向を向いてくれるまで待った。やがて、話をする中で1人の職員が手を挙げてくれた。次に、持続可能な生涯学習を考えたとき、やはり地域を巻き込むことが必須だと考え、まちづくり協議会会長に相談、そして子ども部会に提案をし、子ども部会長がメンバーと話し合い、同意を得ることができた。

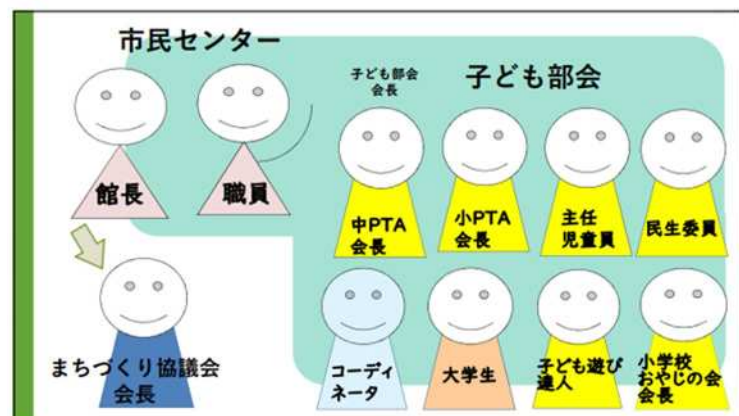
このような段取りに時間をかけて行ったことで、役所には、事業を受ける返事が遅れ、大変ご迷惑お掛けしたが、大切な準備期間であり、じっくりと待っていただいたことに感謝をしている。

また、日常の何気ない会話から、ある方がキャンプインストラクターを取得したということを知り、キャンプを行うことが決定した後に、コーディネーターとしてメンバーに入っていたかどうかお願いした。

講座の主力メンバーは10名で、講座を進めながら、地域に声をかけ、講座全体を通し、センターを含め総勢30名の方々が関わってくれた。

事業のテーマについて、「子どもの笑顔を増やしたい」、「思いっきり外で遊ばせたい」、「校区の特色である自然を生かしてはどうか」、「自分で考え、行動できる自立心を育てよう」という意見が出て、経験と学びを行い、お泊りキャンプで協調・協働性、自立心、創造性をしっかりと身につける講座にしようと内容が決まった。

講座は全7回とした。



第1回オリエンテーションから始まり、まずは外遊び、山登りで絆を深め、「キャンプに向けて」で学習をし、そしてデイキャンプで自信と課題を持ってお泊りキャンプに臨む。

次に、講座実施にあたっての決め事を、

- ・子どもの自立心を育むため、大人が手を出し過ぎない。
- ・自分で考え、行動する力を育む。
- ・関わるメンバーは手伝いではなく、誰もが主役となるよう、役割を担う。
- ・地域と子どもが深く関われるよう、特別な理由がない限り、保護者の参加はなし。

とした。

普段の子ども講座は、若い世代である保護者を巻き込み、繋がりをつくるが、今回は子どもをより地域と深く関わらせる、また、子どもたちの自立心、仲間との共同性を育むという目的を優先した。

「あそび隊」の募集チラシを小学校から全クラスに配布していただき、コロナ禍に加え、野外活動、宿泊があるため、同意書の提出を必須とし、SNS、写真掲載やアレルギーの確認等も行うようにした。また、講座内容が決まった時点で、足原小学校の校長先生にもご理解いただきたく、講座の説明をしに伺った。

第1回オリエンテーションでは、スタッフ紹介、自己紹介を行い、ゲーム遊びを行った。また、オリエンテーションと30分ずらし、別室にて保護者会を行い、まちづくり協議会会長に講座の意義を、子ども部会長に地域で行う子育て支援の思いをお話しいただき、私から講座の内容の説明をした。

8月20日から9月30日、感染症対策として、事業や貸館業務が中止となったために、三つの講座の延期、日程調整ができなかったデイキャンプが中止となった。

このような状況でお泊りキャンプができるのかという意見が挙がったが、一人一人が意見を発言し、改めて今必要なことを考え、お泊りキャンプは決行で団結した。

10月2日、第2回「キャンプに向けて」を開催し、役割分担決めや、安全に過ごすための手法を学んだ。

第3回のお泊りキャンプでは、まず足原小学校おやじの会により忍者修行争奪戦*を行った。

※ 忍者修行とは、毎年おやじの会が小学校で行っている遊びの行事である。

その後、自分たちでカレーづくりを行い、食後は、地域の方であるキャンプの達人が薪を組んでくれ、素晴らしいキャンプファイヤーを行うことができた。

火を見つめる時間は、子どもも関わった大人も皆、心が一つになったように感じた。

この日の朝、集合の時点で、「ゲームができないから、キャンプに行きたくない」と発言した男の子が、この火を見ながら、「ずっとこの時間が続いたらいいな」と話してくれた。心の変化、きらきらした表情がとても印象的だった。2日目も元気に活動し、「また次回、みんなで会えるね」と笑顔で解散した。

第5回は延期となった外遊びで、子どもたちが自分たちで並び、声をかけ合う姿に結束力が目に見えるようだった。明らかに子どもたちの表情も態度も変わったことを感じた。

第6回、最後の会は、小文字山に1時間かけて登った。皆、班のメンバーに声をかけ合いながら行動した。この講座は、楽しく遊ぶ活動が主であるが、講座を通して、周りを見る目、気づかいあう心、判断力、結束力が自然と子どもたちに身に付いた。

講座の中で、経験だけではなくて、気持ちの書き出しも併せて行った。

その一つが、「未来の花づくり」である。それぞれ個性的で素敵な作品ができた。この作品は文化祭で展示し、地域の方、保護者の方にも見ていただいたが、保護者の方との会話もはずみ、若い世代と繋がるきっかけともなった。

また、写真を館内に大々的に貼り、館報に掲載、フェイスブックにも積極的に投稿することで、多くの方々に事業を知ってもらうようにしたところ、地域の方が「キャンプに関わりたかった」「山登りはいっしょに行くよ」など声をかけてくれた。

この事業の成果としては、地域の様々な世代の方が関わり、講座を実施

することができたことである。その結果、健全で豊かな心を育む活動となり、子どもと地域の方と心繋がるかけがえのない時間ともなった。関わった地域の方も結束力、信頼関係が深まり、地域を支える人材としてより大きな輪が広がる良い契機となった。

また、事業内容を市民センターで紹介することでも、地域の方と繋がる機会ができた。子どもは遊びから生きる力を学び、関わる大人は子どもから希望をもらい、事業から多くの縁が繋がった。

子どもが地域の方と繋がり育っていく。まさに世代で繋がりつなぐ循環型の持続可能な地域づくりであり、素晴らしい校区の底力を実感した。

お泊りキャンプが今回大きな鍵となったが、講座が成功した秘訣は、キャンプ実施というよりも、関わった大人が子どもとともに楽しんだこと。楽しさの共有ができたことだと実感している。大人がどう関わりを持つかということが、地域での子育て支援には大切で、センターの役割として、大人をどう巻き込むかが最も重要でないかと考えている。

講座を終えての課題としては、今後も継続的な活動とするための体制を作っていくこと。そのためには、事業費の補助は今回だけなので、自主的な活動ができるよう、今後の費用についても検討が必要と考えている。

また、今回、若い世代の方々も参画し、講座を支えてもらったが、仕事をしながらの講座実施、会議等の時間調整の難しさを実感した。その状況で、密な体制づくりに力を注ぐことも大きな課題である。

最後に、この生涯学習の実施は、「コロナ禍だからできない」のではなく、「コロナ禍だからこそ、心一つに団結して実施できた」と実感している。



【事例についての質疑応答】

委員：この事業（『地域で育もう「未来の種」事業』）は、他でも実施していると思うが、市はどのくらいの費用を支出し、どのくらいの市民センターでの実施を目指しているのか、全体的な部分を教えてほしい。

事務局：この事業は、今年度は全体で 200 万円の予算である。17 館で実施しており、一館当たり、必要額の差はあるが、15 万円程度である。来年度の予算はまだ決定していないが、300 万円の予定である。

委員：（市民センターは）130 館あるが、全部で実施するとなったら、300 万円では足りないのではないか。

事務局：全市民センターで実施すると 1,000 万円以上かかると思うが、この事業は手挙げ方式で希望する市民センターに実施していただいている。市民センターによっては体制がとれないとか地域の負担などにより、今の時点では実施が難しいというところもあるため、手挙げ方式で実施しているところである。

【事例に対する意見】

委員：一からやるのであれば大変だろうが、こういう事例、どのようなメンバーをどのように巻き込みながらやったかなど、実施の前段階の取り組み方が非常に参考になり得ると思う。あとは具体的に取り組みをマニュアル的に、幾つかの選択肢を示した上で、自分のところに合うような事例をピックアップして実施することは、体制ができれば、（他の地域でも）でき得る話ではないかと思う。

委員：この二つの問題は今、日本全体の非常に大きな問題である。大いに取り組むべきである。できるところから取り組み、マスコミも大いに利用し、広報をして広く市民に知らせると良いと思う。

特に最初の取り組み（平野市民センターの防災の取り組み）で、これは行政がやるべき仕事ではないかという意見もあったというが、行政が何でもやるというよりも、まずは市民が、できる人から協力してやっていくというように少しずつ変えていかないといけない。高齢化で、企業の力もだんだん難しい状況にきており、収入が限られた中でやるため、自分たちでできること、それからお互い助け合っていけることということで、この二つの発表を聞いて、非常にすばらしい取り組みだということを感じた。

企業にもこういう点は大いに発表して経営者の理解も得るということも大切ではないかと思う。



【グループワーク協議内容】 テーマ：事例の良い点・成功要因について

【A班】

事例 1	○タイムリーなことを取り上げ、継続することで講座のプログラムを進化させた点 ○地域のことを把握しながら体制づくりなどをしたこと ○不参加の方、町内会に入っていない方にも広げる工夫をしているところ
事例 2	○地域の特性を生かしたこと ○事業の体制をきちんと整えたところ ○子どものプログラムでありながらも大人も楽しめる内容というところ ○事業を何のためにするかという決め事をしっかり取り決めたということ ○学生を取り込んだこと ○誰が言い出して誰が協力者になるのか、がうまくいっている

【B班】 ※はその他意見

事例 1	○地域の高齢化や町内会組織の弱体化など（の問題）が、防災のこの取り組みによって活性化できる要因になるということも考えられるのではないか ○どれも自分たちで意識をちゃんと持つような取り組みで、自分たちでマニュアルを作っていくような、自分たちで考えて実行に移していくという点 ○平成 30 年からの実施で、毎年、前年度のことをブラッシュアップしている ※取り組みを広げるためには、広報することが必要である。 ※PTAなどの若い世代にも広げると、多世代交流などもできる
事例 2	○組織を作るまでに館長が、我慢強く「やりたい」という声が出るまで待ったこと ○みんなで目的や課題をきっちり共有していること ○話し合いができているからこそ、事業のプログラムなどがきちんとできているのではないか

【C班】

事 例 1・2	○どちらも事業を実施するにあたって、二つの団体をまとめあげるリーダー、引っ張っていくリーダーなど、リーダーの存在が大きい ○事例 1 ではお助け隊の結成、事例 2 では子どもを中心に考えることによって若い世代を取り込むという人材発掘に繋がっている。将来を見据えた人材づくりを視点に活動を大きくしようとしている。どちらの事業も人材の発掘を大切にしている ○事業をするには、住民が主体的に活動していかないといけない ○『「未来の種」事業』とか「みんな de Bousai 事業」を実施するにあたっては地域に事業をおろす館長の存在が大事である ○多くの人に参加していること。普段から多くの人繋がり、「この人が行くなら私も行きましょう」などの仲間づくりができています。普段からの仲間づくりが重要である ○コミュニティ関係が崩れている、仲間づくりが崩れているところは、地域の関係づくりを作り上げていく館長の存在が、大変重要である
------------	--

(2) デジタル化への対応

(令和4年5月19日 令和4年度第1回社会教育委員会議)

【グループワーク協議テーマ】

- ① 地域のデジタル化の推進についてどのような学びや工夫が必要か
- ② デジタル化の取組みをどのように「地域づくり・人づくり」に繋げていくか

【事例発表】



企救丘市民センター「デジタル化への対応」に関する取組み ～コロナ禍での地域づくりとコミュニケーションのあり方～

北九州市立企救丘市民センター館長 安倍ゆかり

「企救丘センターの『デジタル化への対応』に関する取組み」について事例発表する。

小倉南区企救丘校区は、最寄駅がモノレール志井駅で、人口は1万2,662名、小学校692名、中学校598名である。スローガンは「声かけて子どもの育つ企救丘」。非常に子ども世帯が多いところで、子育てしやすい街を目指す校区となっている。

企救丘校区は、新型コロナウイルス感染症により令和2年1月から市民センターの活動がストップした。その間に、職員がZoom講座や動画の編集講座を各自学び、そしてオンライン講座をやろうという声が上がった。

令和2年度は陶芸講座、ズンバ講座、3年度は骨カルシウム講座を実施した。その中で、お家時間、ステイホームを楽しもうという陶芸講座の紹介をする。

この講座は、チラシのQRコードからスマホで申し込みができるようにした。一番大切にしたのは、ヒアリングシート、聞き取りである。申し込み時に、自宅にインターネットできる環境があるか、Wi-Fi環境はあるか、オンライン講座で使用する機器は何か、などをきちんと聞き取りをして、オンライン講座ができるかを確認した上で、申し込みを受け付けた。

申込者には、あらかじめ市民センターに粘土や道具を取りに来てもらってから講座に参加していただくという方法を取った。

講師にとっても初めてのオンライン講座で、非常に緊張していたが、時間をかけてリハーサルをしたので、当日は非常にスムーズに実施できた。

オンラインでの参加者のほか、会場にも10名ほど参加者がおり、ハイブリッドで講座をおこなった。

後日、作品を焼いて、市民センターに取りに来てもらうことで、また市民センターを利用する方も増えていくようにした。

① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう 「陶芸講座」

・オンライン講座参加 ・ヒアリングシート

- ・ ご自宅にインターネットができる環境はありますか？
- ・ ご自宅にWi-Fiはありますか？
- ・ オンライン講座で使用する機器を教えてください。
- ・ 「パソコン」とお答えした方にお聞きします。カメラとマイクはついていますか？
- ・ ※カメラとマイクが無くても参加はできます。(ズンバ)陶芸はカメラとマイク必要

このようにオンライン講座を実施したが、やはりオンラインで参加する方はどうしても若い世代になる。やはりシニア世代の方にもオンライン講座を体験していただきたいということを思った。

今はどこもそうだが、高齢化とデジタル化が同時に進行する社会である。コロナ禍の中で、機器を使えない方々たちが、どうしても取り残されてしまう。コロナワクチンの予防接種予約の時、窓口の混乱があった。高齢者の方も孫や子がネットを扱える環境であれば、申し込みができるが、そうでなければ予約ができない。デジタルデバインド状態である。

東京都の健康長寿医療センターの調査結果では、コロナ禍で高齢者に社会的孤立に陥る人が多いのは、若者に比べて SNS やインターネットを利用する人が少ないことが背景にあるということである。やはりデジタルデバインド、情報格差をどうするかということが課題になってくると思う。

私たち市民センターにどのようなことができるのかと考え、docomo に講座をお願いした。市からもソフトバンクなど他の携帯電話会社が行う講座を紹介され、実施した。

「元気で GO! GO! 生き生きスマホ講座」という講座は、「あるくっちゃ KitaQ」という北九州市のアプリに関わるだけでなく、「さくら」という雑誌の編集もされている方をお願いした LINE 講座である。シニア世代の方も LINE は結構使っているため、講座をお願いした。

令和 3 年度は、(シニア対象のスマホ講座は) 計 15 回開催し、令和 4 年度も開催することになっている。

しかし、講座をしたからといってすぐに使えるようになるわけではない。やはり定期的にしないといけないという声が、職員から出た。自分たちが少しずつ教えることができないかと考え、令和 3 年 9 月から毎週水曜日に、職員が教える「スマホカフェ」を開催している。予約制ではないのでいつでも来てくださいと言っていたら、結構な人数となり、希望者が増えてきている。

企救丘市民センターは、市民ホールが非常に開放的になっており、本当にカフェのように、くつろぎながら、無駄話をしながら、スマホだけでなく他の相談などもあり、楽しく時間を過ごしている。



その他の取り組みとしては、コロナ禍だからこその子育て支援として、企救丘のオリジナル絵本を毎月アップした。

これは、子育てサポーターのベジタブルというグループが、「あなたの声で、あなたのスピードで、あなたの読み方で、あなたの大切な人に読んでください」ということで作成したオリジナル絵本である。(コロナ禍で) 家の中に閉じこもっているお母さんがお子さんに読んで聞かせてあげてほしい、何とかして市民センターとお母さんたちとの繋がりも途切らせたくないという思いで作成し、これを企救丘校区の YouTube と企救丘市民センターのホームページから見られるようにした。ぜひ見ていただきたいと思っている。

今後の取り組み・課題は、デジタル人材育成である。やはり使える人が増えなければ進んでいけないと思っている。

学生とシニア世代の地域参加ということで、高齢者のスマホ利用者を増やすだけでなく、学生のデジタルスキルを地域活動に生かしながら参加してほしいと考えている。

この学生の地域参加については、令和3年10月に北九州市立大学の学生主催の「きっかふえ」というイベントを企救丘市民センター市民ホールで開催した。市民ホールを会場、その隣の会議室をスタジオに見立て、会場とスタジオをZoomで結んで、テレビ中継のようにした。スタジオの方が、「会場の皆さん、地域の何か悩み事があったら私たちに聞かせてください、解決しますよ。」と呼びかけて、会場とやりとりをし、みんなで地域課題を解決していこうというイベントであった。一つの会場で行えば簡単に済むことだが、デジタル機器を使用すると、遠く離れた海外であろうがどこであろうがこのようなことができるという体験を地域の方にしてもらうことが目的であった。

知らず知らずのうちにデジタル体験をやっているんだ、自分たちはこういうことができるんだ、ということを経験することは非常に重要だと思った。参加者も喜んで、貴重な体験だったという意見もいただいている。学生のデジタルスキルを活かした地域参加である。

先ほどご紹介したスマホカフェは、職員が教える側、シニア世代が習う側、となっているが、スマホは使用しているうちに結構使えるようになってくる。ということは、シニア世代の方も教えることができるのではないか、シニア世代の人が新しく来た人たちに教えたかどうか、と考えた。

そこで、(教えることができる人を)スマホカフェのスタッフとして認定し、職員が認定書を作成して交付した。みんなと一緒に、学びの環というか、教えられていた人たちが教える側に回り、そして生きがいくりになる。皆さんが生き生きしながら、毎週水曜日にきていただけるので、なかなかいいのではないかと考えている。

課題としては、インターネット詐欺で、本当に気を付けないといけない問題である。そのため、デジタルリテラシーをいかに高めるかということが、今後の課題になってくるかと思う。

デジタル人材育成(学生の地域参加)

・学生のキャリア教育

・地域活動が若者の目から見たらどのように映っているのかという情報収集にもなる

・地域の方々が自然とオンライン体験をしている、**これが重要！！**



デジタル人材育成(シニア世代)





DX推進計画におけるデジタル・デバイド対策

取組の方向性

- ◆ 使い方の支援などデジタルを意識しない環境醸成
- ◆ スマートフォン活用を後押しする取組を行う
- ◆ 個人ごとの理解度やニーズに応じた学習の場を幅広く市民に提供する
- ◆ 高齢者等のデジタル技術習得を支援する地域人材を育成する
- ◆ 市民のインターネット利用率向上を目指す

取組内容

- ◆ 普及啓発
- ◆ 初心者向け講座、相談会
- ◆ 国事業との連携
- ◆ 地域人材の育成
- ◆ インターネット接続環境の充実





令和4年度 デジタル・デバイド対策 取組計画

令和4年度デジタル活用講座

【実施概要（予定）】

実施場所：市民センター30館
 実施回数：30回（90分の講座を1館につき1回実施）
 実施期間：令和4年8月頃から令和5年3月まで
 受講者数：各回10名程度
 講座内容：スマートフォンの基本操作、スマートフォンの詐欺について
 インターネットの使い方（音声検索、QRコード読み取り等）
 便利なアプリの紹介、防災情報の取得方法等



令和4年度は「テレビ電話体験」を講座に追加予定

- ご家族等とのコミュニケーション醸成を支援
- リモート窓口等の活用を支援

令和4年度デジタル活用相談会

今年度も同様に相談会実施を予定しているため、内容について検討を行っている

全市民センターへモバイルWi-Fiルーター整備

一般社団法人北九州ネットワークスから130台を無償提供いただき、来館者用に活用予定

【デジタルデバイド対策の説明および事例発表についての質疑応答】

委員： デジタル市役所推進課の説明で、全市民センターに Wi-Fi ルーターを整備予定と言っていたが、各区生涯学習センターに配備する考えはあるか。

事務局： （市民センターに配備する）無償の Wi-Fi ルーターは、例えば家に Wi-Fi の環境がない生徒が、オンラインの勉強ができる環境を整備するなどの地域 BWA*を活用する事業者を公募した結果である。市民センター等は無償の Wi-Fi ルーターを置くことを主眼として始めた事業ではない。

提案を採択した企業から、100 台程度を無償提供するという申し出があり、では、市民センターでぜひ活用しようと、今、取り組みしているところであるが、生涯学習センターまではカバーできていないのが実情である。

※ 地域 BWA：通信事業者が特定の周波数帯を使って、市町村において地域の公共サービス向上等に資する高速データ通信を行うサービス

【グループワーク協議内容】

テーマ①：地域のデジタル化の推進についてどのような学びや工夫が必要か	
A班	<u>1 スマホカフェの取組みについて</u> 認定証を発行して教える人を育てる、非常に良い取組みである ここからどのように広げていくのが問題 ・市民センターだけでなく、出向いていけるところを作る ➡困った時にすぐに対応できるネットワークづくり ➡個々がつながっていくことで、気軽に学べるようになるのではないか <u>2 スマホを持っていない人も参加できるきっかけづくりを考えていく必要があるのではないか</u>
B班	<u>1 子育て世代と高齢者世代のデジタル化</u> (1) 子育て世代 学校一斉メールで保護者はつながっている➡地域に活用できないか ➡緊急時使用のため不可➡市民センターだよりやチラシを保護者へ配布してはどうか (2) 高齢者世代 子どもたちから教えてもらうことにより、双方にとってWinWinとなる 子どもと高齢者がつながるきっかけづくりとなる <u>2 市民センターに来たくなる（ここに来れば情報が得られる）ような工夫</u> (1) 広報の工夫 アナログとデジタルの両方が必要 デジタル：市民センターのLINEを作る アナログ：掲示板の活用 (2) 認定証の発行 スマホカフェで発行した認定証は励みになる <u>3 スキルに応じた講座の企画</u> できる人には次のステップの講座を提供する
C班	<u>1 社会的孤立を防ぐために学びの提供が必要</u> ・デジタル化はいち早く取り組むことが必要である ・地域に温度差があるため、まずは出来るところから始め、長く・繰り返し実施する <u>2 内容の充実・工夫</u> 使える技術より学ぶ内容が大事である <u>3 市民サービスの向上</u> 使いこなそうとする人が増える <u>4 人材育成などの仕組みづくり</u> ・環境や人材などの条件も必要 ・一人一人機種が違うため、教える人を増やすことが大事 ・予算がなくても続けられる仕組みづくりを工夫すること

テーマ②： デジタル化の取組みをどのように『地域づくり・人づくり』につなげていくか	
A班	<u>1 スマホカフェの取組み（好事例）の活用</u> ・市民センターに行ったついでに他の相談もできるという関係づくりができている ・学んだ人が教える側に、という学びから活動の仕組みづくり、地域人材の増加につながっている <u>2 ネットワークづくり</u> 市民センター中心だけでなく、個々のつながりを作っていけるような仕組みづくりができると、地域のつながりができていくのではないかと <u>3 地域情報の発信</u> 地域のことを知るきっかけとなり、地域に関わってみようという人材が増えていく <u>4 市全体でのデジタル化への取組み</u> 全館（市全体）で実施できるような仕組みづくりが必要 <u>5 学生の参画を増やす</u> 若い人たちが市民センターに関わっていくことで、地域に関わるきっかけとなり、地域の活性化につながっていく <u>6 課題</u> つながらない人をどうするか、どうやってつなげていくか。誰一人取り残さないためにどのようにつなげていくか
B班	<u>1 高齢者世代（世代を超えた学び合い）</u> 子どもたちから教えてもらうことは、双方にとってWinWinとなる <u>2 最初のきっかけは「リアル」</u> 「リアル」のチラシなどから、まず市民センターにきてもらう 市民センターの職員の地域愛、館長の心構え・スキルが大切 <u>3 課題</u> ・スマホの使い方を知っている人にどうやって来てもらうか - スマホの使い方を知っている人（できる人）がセンターに来て、自分の技術を他者へ還元できるか ・できない人とできる人をどうやってつないでいくか
C班	<u>1 デジタル人材育成の可能性・デジタルの強み</u> 「ちょっとできる人」ができない人に教えることができる⇒「デジタルの強み」 <u>2 教える人を増やす⇒「地域づくりの可能性」</u> 教える人を増やすことで、まき込み、地域づくりにつながる <u>3 安心して受講できる身近な存在（学んだ高齢者が教える）の活用</u> <u>4 学生の活用・大学の地域貢献</u> 「デジタル」は若い人（学生）が、特別な知識が無くても社会貢献できる分野 ⇒学生の自尊感情の醸成⇒地域連携（若い時からの経験が将来の人材につながる）

(3) 地域づくりにつながる館長の役割

(令和4年10月25日 令和4年度第2回社会教育委員会)

【グループワーク協議テーマ】

「市民センター館長の役割とは何か」について意見交換する。

【事務局からの説明】

前回(令和4年度第1回)の協議では、「つながらない人とどのようにつながるのか」、「できる人とできない人をどうやってつないでいくか」が課題として挙げられ、また「若い人や学生の参加が大切である」というご意見が委員からあった。

今回はこれらのご意見を踏まえ、さらに「地域づくり・人づくり」について協議を深めるため、地域の方や活動をつなげて、地域活性化を図っている西門司市民センターの渡辺館長の取組みが参考になるのではないかと考え、取り上げることにした。

【事例発表】



市民講座「ともがき」講座から市民活動への展開

～THE SDGs！市民活動者を育て・つなげて、地域を活性化する館長の取組み～

北九州市立西門司市民センター館長 渡辺 いづみ

今から見ていただく動画の講座は、令和2年にスタートさせた。

コロナ禍で、本当にやっていけるかどうか分からないままに進めた講座から事業への展開、それから事業がどのような形で次年度まで続いていくかの流れ、さらに、子どもの講座『未来の種』事業へ展開するという流れの10分間の動画を見ていただきたい。

(動画の内容)

1 生涯学習市民講座「ともがき講座」について

大学生と30代～80代の参加者が「共に学び、共に書く」を合言葉に「人生を書き残すことの意義や(聞き書き)ボランティアの重要性」を学ぶ市民講座。

門司は昭和20年に空襲、28年に大水害の被害に遭っている。また戦時中は、多くの兵隊が門司港から戦地へ向かうという兵隊宿营地としての歴史もある。

戦災、水害等を含めた証言記録(自分史)をまとめることにより、新しい「地域史」を誕生させ、市民の関心を地域に向けさせ、新しい地域活動に参加する動機付けを促した企画。

2 世代間交流で未来へバトンを渡す取組み

“地域で育もう「未来の種」”：西門司たんけん隊 「じーもクラブ」(全5回)

昭和11年開校当初から歌い継がれてきた「西門司小学校校歌」の歌詞に、校区の人々の誇りや願いが込められていることに着目。歌詞の意味を理解し、自分が生まれ育った土地の歴史・地形の特徴・河川の環境を知るために、実際に歩いて「見て・聞いて・感じる」ことを企画したもの。

【社会教育主事から館長へのインタビュー】

主 事： 館長は、今まで着任された市民センター3館で地域史づくりをし、その後、市民活動へと展開している。最初の市民センターで何か手応えを感じたからこそ、地域史にこだわった取り組みをしているのではないかなと思うが、いかがか。

館 長： 着任したよそ者の私が地域に興味を持って接すると、それに応えてくれる地域の住民が必ずいる。そういう方たちと話をしているうちに、この地域にどういう課題があるのかということ深く掘り起こしていきたくなる気持ちが働く。よそ者の視点で、地域のことをよくご存知の方に出会えるように、常にアンテナを高くするのがスタートではないかなと思う。

市民の方たちは、自分の地域に大きな興味を持つ館長には、かなり接近してくてくれるので、そこから（反対に住民の方のほうが）自分たちの住んでいる地域に目覚めていくという瞬間がある。

そのような瞬間に幾つも出会いながら、地域史を掘り起こしていくことが、地域の宝になるのではないかなという考えにたどり着いた。関心がある方たちを集めて郷土史の研究を進めていった結果が、最初の地域史「ふるさと『朽網』今昔」に繋がった。市政50周年の事業の一環として、地域の皆さんが作成し、宝になった。

主 事： 地域の方たちはそこに住んでいると、当たり前になり過ぎていて自分の地域の宝に気づかないことがある。そこに対して、よそ者の視点で館長が入っていたときに、「あ、こんな宝がある」と気づき、またそれを伝えていくことで、地域の人たちがこれは宝だという自覚を持って、語り継いでいこうという喜びに繋がっていくのだと思った。

館 長： 自分たちが地域史づくりに関わることによって、他の校区の人がすごいと認めたり、報道関係で取り上げてもらったりという社会的承認というの、そのエネルギーを持続させていくことに繋がっていったのではないかなと思う。

主 事： これだけの成果物を作っていくと、でき上がったときの喜びは本当に大きなものだと思う。

また、地域を知り、この地域が好き、この地域に誇りを持てるという思いが、この地域を良くしていくために自分は何ができるかという、次のアクションに繋がっていくのではないかなと思った。

その点では、先ほどの動画にも出ていた「『未来の種』事業」の西門司小学校の校歌にある地域の「誉れ」を探していくというのは、事業内容は違っても、根底にある目的というのが一致していると感じた。

館 長： 最終的にそのような子どもの事業に展開していくが、その地域の方々にとっても自分たちの地域史、新たな地域史だったと思う。

今回見ていただいた動画は、自分史づくりの講座からの発展なので、まず個人の戦争体験や水害体験を語り、それが原稿となり、その原稿が集約されて一冊の冊子ができ上がった。

そこをしっかりと取り組んできた人たちを核として、それが子どもの講座に展開していくときには、地域の人が主体的に自分たちのその地域史を子どもたちにも伝えたいという気持ちを持つことに繋がっていく。

それ以外にも地域の伝統芸能なども一緒に子どもたちに伝える機会になったと思う。



主 事： 地域史づくりの話に戻るが、館長の中で、地域史が地域を活性化させていく起爆剤になるという確信があったと思う。館長だけが作ろうと旗を振ったところで到底できるのではなく、そこに地域の方たちの思いが乗ってこないといけないものだと思う。(市民センター) 職員をはじめ、地域の方を巻き込んでいって、これをやろうという思いにさせていく。始めてからも大変な苦労があったと思うが、完成後、西門司市民センターでは慰霊祭や『未来の種』事業へと次々に展開していっている。

そのように人を巻き込んで、モチベーションを保ち続けさせていくために、館長がどのような声かけや工夫をしているのか伺いたい。

館 長： 館長というのは、黒子に徹しないといけないポジションだと思っている。(市民センター館長職を) 1 館目、2 館目と経験していくうちに、職員の方から、「前のセンターでどういことをしていたのか」という質問を聞くようになり、前のセンターでしていたことの成果物や動画、写真などを見せながら説明をすることがあった。

「市民センターでこういう事業がやれるんですね」というところから始まり、市民センター職員が一丸となって、講座から事業に展開していくという醍醐味を自分たちも味わってみたいという気持ちになること、また、職員が自分たちの地域に自主的に目覚めるといことがとても大事だと思う。「自分の住んでいる町がだんだん好きになった」と言われることは、私としてはとても嬉しいことである。

ただ住んでいるだけではなく、それが地域づくり。そこから地域史を生み出していく原動力になっていくと思う。職員のその気持ちが、(市民センターに) 来館する住民の方、利用者の方たちにも少しずつ影響を及ぼしていくのではないかとと思っている。

主 事： 事業に関わる職員一人一人が、本当に主体的に関わっているのを見ていて実感した。やらされている感は全然なかった。館長はいろいろな形で今までの成果を見せたり、触れさせて、いろいろな人に関わってもらうことで、職員も刺激を受けている部分があるのではないかと考えた。

館 長： 北九州大学生が、コロナ禍で入学しても授業が全くないという状況だったので、(西門司市民センターの) 講座に来てくれた。

先ほど(動画で) 何回も意見を述べていた学生は一年生で、授業がないので市民センターの講座に参加したというところからスタートして、市民活動がどういうものなのかを学んだりした。とてもいい経験をしたのではないかとと思う。



コロナなので、普通は全部オンラインで、直に地域の人と触れ合うことは到底できないところ、西門司市民センターで地域の自分史を、その方の自分史を書くために、一人の方にインタビューしながら、その人の人生を自分のものにしていくという事業に参加した。

そして、それが一冊の本になった。そうしたらもう大学生も自分たちの事業という気持ちになり、発展系の慰霊祭でも司会をするというくらいの勢いで関わっていくようになった。

市民センターの職員がちょうど(大学生の) お母さん世代。そして体験者はおじいちゃんおばあちゃん世代。そういう 3 世代の交流ができ、人と人の関係づくりが成功した例がこれではないかとと思っている。

主 事： （動画に出てきた）北九大の学生は、一年生の時にこの事業に関わったとのこと。最初はゼミの先生に言われて戦争体験談を聞きに来たが、結局三つの聞き書きに取り組み、そのあとも、座談会での発表や慰霊祭の司会をした。本当にただ参加するというだけではなくて、ちゃんと役割を持って主体的に関わっていると思う。

西門司市民センターの他の事業にも学生がそのような関わり方をしているのを見るが、若い人をひきつけ、繋ぎとめるために館長が何か心がけていることがあれば伺いたい。

館 長： この聞き書きの事業では、区役所のインターンシップで受け入れた学生も参加している。学生は、その時に、このような活動をして、このように事業化して、更にこのように展開していくという説明を聞き、自分もやってみたいと思ったようだ。

そして、大学の先生ともしっかり繋がって、先生にこういう情報を流してください、こういう講座がありますからぜひ大学生に参加するように、もしよければ、拡散してくださいというお願いなどは今でもしている。

主 事： 大学の先生も館長の取り組みに信頼を置いているからこそ、学生を送り込むのかとも思う。また、学生をただのマンパワーとしてではなく、館長が本当に一人一人大切に、丁寧に関わっているからこそずっと繋がっていただけるのかと思った。

館長は、東朽網市民センターと平野市民センターでの取り組みから市民活動に展開し、そのセンターの館長を退任された後も一会員としてずっと関わっている。

館長として市民活動を支えていくという面と、自身が活動者として活動を推進していくという面、その両方を経験しているからこそ感じるものや大事にしているものがあるか伺いたい。

館 長： 活動者とか活動団体というのが北九州にも多くあると思うが、そういう活動者を生み出していく、活動団体にしていく、そして市民の地域づくりも充実させていくという視点に立てば、市民センターの役割は、その活動者のバックアップ、サポートである。できるだけスムーズに、団体として、組織として、動かしていくかというところにある。私は自分自身が館長の立場でもあり、また、市民活動の一員だという意識をかなり持っている。

そのため、立ち上げてきたものに関しては、やはり相談役なりなんなりで関わり、団体同士を繋いでいく、ネットワークづくりというのも、自分なりに意識してやっている。

繋がっていくことで、さらに刺激を受けて継続できるということもあるので、団体の継続には結構力を入れている。

主 事： 事業をやって終わりということではなく、その後の展開を見据えた事業の運営などを行っているのではないかと感じた。

社会教育自体が、学んでいくだけではなく実践があつてこそ、学びが実になっていく、また学ぶからこそ実践を意味付け、意義付けしていくことができていると思っている。

言うのは本当に簡単だが、館長はずっとそれを実践してきている。私自身も見習いながら、これからも頑張りたい。

館 長： 興味がある方は、ぜひ一度見に来ていただけたらと思う。

私は書くスキルも高いわけでもない、本を作る専門家でもない。ただ、地域にはそういう方が必ずいて、その方に会っていく醍醐味を今私が味わっていると思っている。



【グループワーク協議内容】

テーマ：地域づくりにつながる市民センターの館長の役割等について	
A班	<u>1 よそ者の視点からのアプローチ（地域の宝に気づくきっかけ）</u> よそ者である館長だからこそ気づくことを大切にする <u>2 館長は黒子に徹する</u> 館長が頑張っても、地域性の問題もあるのではないかな <u>3 コミュニケーション能力（地域に入っていくためには）</u> 地域のことを知る手段の例として、祭りに参加し、地域の人と顔見知りになり、繋がりをつくっていく。（顔見知りになった人が館長をサポートする側になっていくのではないかな）
	《その他意見》 <u>1 館長研修の充実</u> ・スキルの高い館長だからできるというようにならない仕組みづくりが必要 ・館長研修を毎月開催するなど、市や区の研修を充実させる （良い地域づくりの事例を研修で共有していく） <u>2 社会教育主事・主事補について（館長に細やかな支援を）</u> ・館長が悩んだり、孤立した時に寄り添ってくれる人の存在が必要ではないかな ・各区一人で市民センターに細やかな支援ができるのか
C班	<u>1 新たな館長像</u> 地域のサポート役だけではなく、地域を巻き込んでいき、事業が始まったら、またサポートに徹する（両面で活躍する）館長 <u>2 地域に興味をもつ、好きになる（よそ者の視点から地域の宝を掘り起こす）</u> ・「自分たちが住んでいる地域に興味を持ってくれる」、「この地域を好きになってくれる」と地域の人に感じてもらうことが、館長に関わっていこうと思うきっかけになるのではないかな ・地域を題材とした事業に取り組んでいる <u>3 どこまで地域の方たちと一緒に活動していけるか（館長の姿勢）</u> 渡辺館長は「地域の一員である」という意識が強い
	《その他意見》 <u>1 大学との連携（大学生への情報発信）</u> ・大学の先生と個人的に繋がって学生を巻き込む（本事例） ・大学のシステムを活用 （ボランティア等の）情報を収集して学生に情報を流している大学のシステムを活用して、学生を呼び込むのも必要なのではないかな <u>2 西門司市民センターの聞き書き講座について</u> 西門司市民センターの取組み動画の中で、参加者が「人生の空白を埋めてくれた」と言っていた言葉に衝撃を受け、心に残っている。センターの講座が、一人の人生を変えるほどのものになるとは思ってもいなかった

C 班	<u>1 人と繋がることのできる体験</u> ・事例の活動のポイント：ネットワークや経験などで人と繋がることのできる ・事例はいろいろな世代との繋がりができている ・事例は生涯学習推進計画の3本目の柱「学びと活動によるつながりづくり」に焦点を当てた活動であり、評価すべき点である <u>2 「一つの小学校に一つの市民センター」を活かして、若い人の参加を図る</u> 若い人が地域の中で学べることを考えると丁度良い範囲である。教育的なことを子どもたちや若い人が経験することも、一つのきっかけになっていくのではないかな <u>3 アンテナを張って、地域に出ていき、人を繋げる力</u>（興味・好奇心・行動・コミュニケーション力） ・出てこれない人、出てきにくい人、情報が届かない人もいる ・館長の「繋がりたい」「出会いたい」「何かつなげたい」「面白そう」という気持ちが鍵となる <u>4 市民センターの雰囲気づくり</u> 地域の人が市民センターに行って「館長、こんな面白いことがあるよ」「ここはこんなところがあるよ」と言える雰囲気づくり <u>5 職員など地域人材の育成・核となる人物の発掘</u> ・館長と職員や関わる人が話し合いの中で学んで意識を高めていくことで、館長がいなくなっても、地域は繋がっていきける ・館長は黒子として、黒子だけでも核となっていく。館長が核とならなくても、核となる人物をみつけていくことも大切 <u>6 人と人を「つなぐ」、取り組みを「続ける」ことが重要</u>・・・その核となるのが館長
-----	--



(4) 地域の健康増進

(令和5年1月24日 令和4年度第3回社会教育委員会議)

【グループワーク協議テーマ】

- ① 地域の健康増進のためにはどのような学び・工夫が必要か
- ② 健康増進を図りながらどのように地域・人づくりへつなげていくか

【事例発表】



地域の課題を地域で考え、地域で解決する ～二つの柱で取組む地域の健康づくり活動～

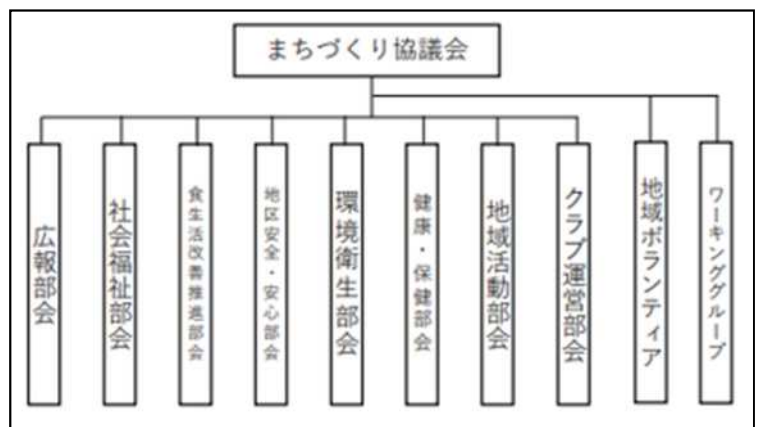
北九州市立沢見市民センター館長 吉弘 清美

沢見市民センターは戸畑区の中央にあり、地域には二つの自治区会がある。緑豊かで、こじんまりとしているが、医療施設、保健施設、大学に囲まれ、買い物も便利で、大変住みやすい場所である。最近では代替わりが進み、マンション等の建設が多く行われている。

沢見のまちづくり協議会の（今年度の活動）テーマは、「いつまでも このまちで 自分らしく いきいきと！！～手をつなぐまち さわみ～」で、市民センターもこのまちづくり協議会のテーマに沿って、講座や事業を展開している。

沢見まちづくり協議会は、八つの部会で構成されている。

この中で一番大きく健康づくりに関わっているのは健康・保健部会で、まちづくり協議会の役員、健康づくり推進員（3名）、スポーツ推進委員（2名）、自治会（北沢見地区自治会、南沢見地区自治会）、二つの老人会、社会福祉協議会、そして地域やまちづくり協議会からの推薦を得た委員で構成されている。もちろんこの中に市民センターも入っている。



次が食生活改善推進部会である。この部会は、ヘルスメイト7名、ボランティア15名で構成され、活躍している。

そして、沢見地区のまちづくり協議会には他の地区にないグループとして、地域ボランティアとワーキンググループがある。

ワーキンググループは、地域の中高年層や青少年との連携を図るため、また、次世代へバトンを渡せるまちづくりをしようということで、今年度立ち上がったものである。現在、10名ほどの保護者世代の男性が、まちづくり協議会の組織やまちのことを知っていきながら、子ども講座への参加や子どもたちの催し物の企画・実施をしている。

(次に、地域の健康づくりの一つ目の柱である)「地域でGO!GO!健康づくり事業」を説明する。

この事業は、市民センターを拠点として、まちづくり協議会が中心となり、地域担当保健師と密に連携しながら、地域の課題について話し合い、目標設定、計画づくり、実践、事業評価などを一つのサイクルとして、取り組むものである。沢見地区はいち早く、平成16年よりモデル事業として取り組み、現在に至っている。

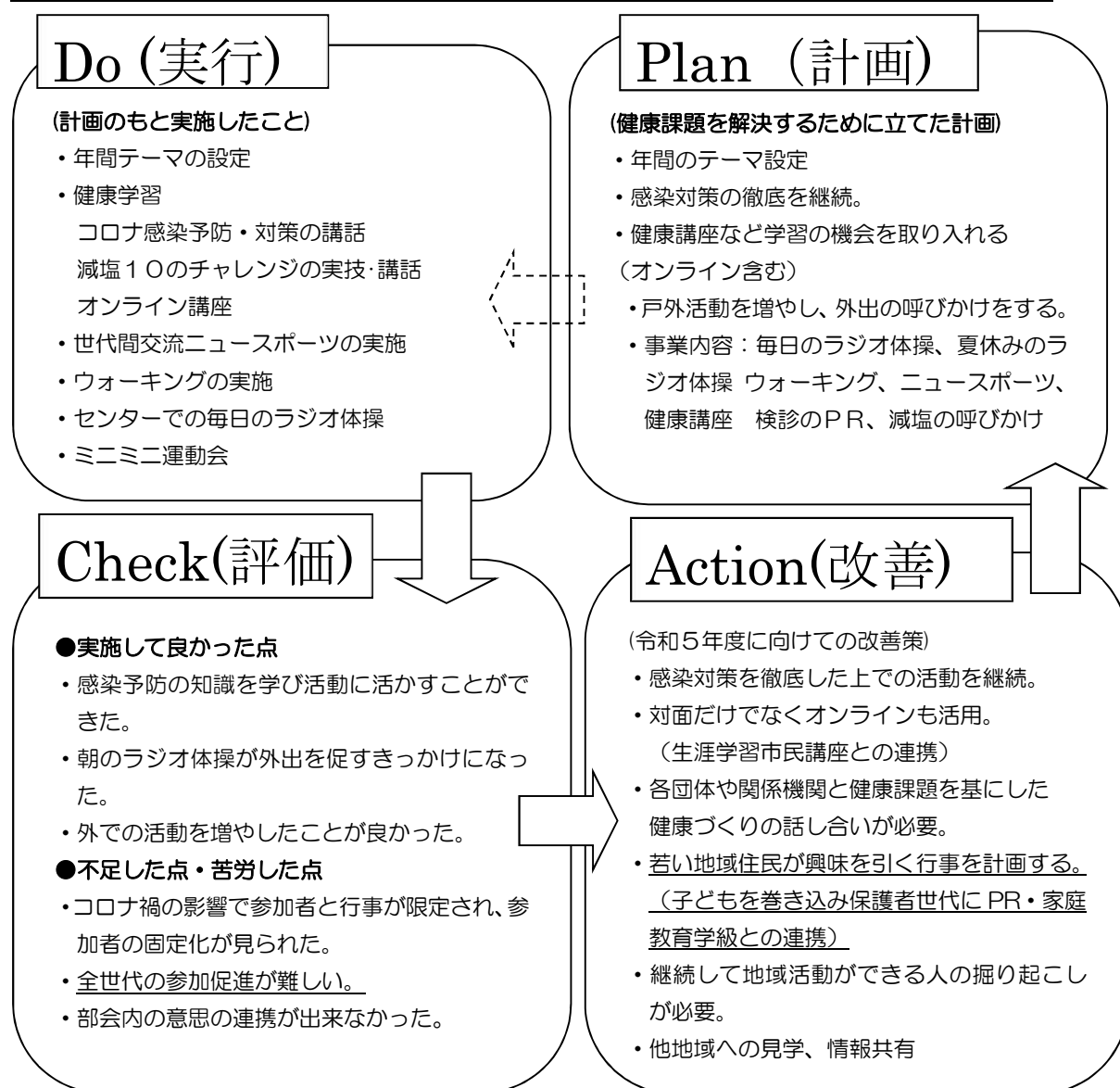
事業の流れを紹介する。

まず、年度当初に昨年度のPDCAサイクル図を検証して、地域の実情把握を行い、その上で年間テーマを設定して、活動に入っていく。

このテーマが明確であることが参加者と企画する側の意識向上に繋がるという考え方のもと、私たちはテーマ設定を大変大切にしている。(決定した)年間テーマである「いつまでも このまちで 自分らしく いきいきと」を(まちづくり協議会と市民センターの)すべての活動における大きなテーマとし、「健康づくり」のテーマは昨年度から「減塩」としている。

また、計画前の会議及び(実施後の)振り返りも大切にしている。部会メンバーは現在15名。そこに市民センター、地域担当保健師、看護師が加わり、月1回必ず部会を行うようにしている。

令和4年度沢見市民センターの健康に関する取り組みと課題「PCDA サイクル図」



7月の「地域でGO!GO!健康づくり」の開級式では、前年度取り組んだことの振り返りをまず行う。データに基づき、戸畑区全体ではどのような病気が多いか、どのくらい医療費がかかっているか、そして減塩に取り組んだことにより点数的にどのくらい良くなったのかなどを数字とともに目に見える形で提示して、保健師が現状を解説する（参考：配布資料「戸畑区減塩10のチャレンジ」）。

また、機械を準備していただき、(外部)講師とともにベジチェック、血管年齢チェックなどしながら、(受講者が)興味を持てるような開級式にしている。

そして、12月から3月は、「沢見でGO!GO!健康づくり」の中の座学として、「沢見いちご講座」にオンラインで参加できるようにした。

特定健診受診率

出典：特定健診等データ分析システム
R4.11月時点

	H30年	R元年	R2年	R3年
戸畑区	38.8%	36.4%	36.7%	36.5%
沢見校区	35.4%	35.7%	35.3%	36.1%

12校区中、第8位の伸び率！！

伸び率0.8%

健診受診者・未受診者における生活習慣病等
1人当たりの医療費(単位:円)

沢見校区

出典：特定健診等データ分析システム
R4.11月時点

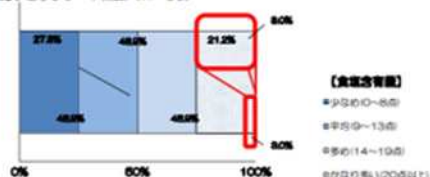
	健診受診者	健診未受診者
40歳～74歳	916円	約15倍 14,023円
75歳以上	429円	約89倍 38,311円

年に1回の健診で自分の身体の状態を知り、早期発見・早期予防をしましょう！！

令和3年度 戸畑区 減塩10のチャレンジ！の結果をお知らせします

Ⅱ 塩分チェックシート

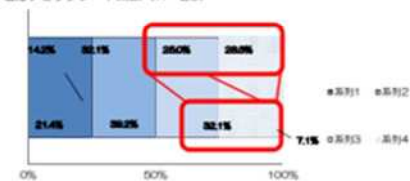
- 参加者数：33人／取り組み参加者数：33人
- 回収率：100%
- 塩分チェックシート点数（n=33）



○取り組み前の食塩摂取量は、かなり多い(20g以上)、多い(14～19g)が約2割でした。しかし、取り組み後の食塩摂取量は、かなり多いがゼロになり、多くの割合が1割に減少。少ない(0～5g)、平均(6～13g)の割合が9割以上に増加しています。

Ⅲ 塩分チェック

- 参加者数：28人／取り組み参加者数：33人
- 回収率：84.8%
- 塩分チェックシート点数（n=28）



○取り組み前は、「少し少ない」、「少ない」が半数近くを占めていましたが、取り組み後は大幅に減少し、「うすあげ」「ふつう」の割合が6割以上に増加しています。

令和4年6月 戸畑区立保健福祉地域健康課

めざせ！
1日マイナス2g

福岡県
1日あたりの食塩平均摂取量
男性**11.7g** 女性**9.5g**
(全国4位) (全国4位)
平成28年 国民健康・栄養調査結果より

日本人の食事摂取基準(2020年版) 高血圧治療ガイドライン2019参照
食塩摂取の1日の目標量 男性**7.5g**未満、女性**6.5g**未満
1食**2.5g**が目安！ 高血圧治療の目標量は、1日**6g**未満

できることから はじめてみましょう！ 続けてみましょう！

- ①種類の汁は半分残す **-2g**
- ②しょうゆは味をみてからかける
★しょうゆを1かけ減らせば... **-0.5g**
- ③「減塩」と書かれた食品を選ぶ
★通常の食品より**2～3割**減塩されています
- ④塩分の高い食品の食べ方を見直す
★1日の量を減らす、食べる回数や量を減らすなど

朝食の例

食品	塩分
白ご飯	0g
みそ汁(1杯)	約1.5g
中華(1切)	約1.1g
梅干し(1個)	約2.2g

合計塩分**4.8g**

減塩の例

- 白ご飯を半分残す **-0.5g**
- みそ汁を半分残す **-0.7g**
- 梅干しを半分残す **-1.1g**

合計**-2.0g**

ポイント
・計量を減らし、具材の旨味で減塩できます。

次に、地域の健康づくりの2つ目の柱として、戸畑リハビリテーション病院と連携して実施している、生涯学習市民講座の「沢見いちご講座」を紹介する。

この講座は、当初、戸畑区保健福祉課主催の認知症予防講座として始まり、その後自主運営に移行して、令和元年度まで「沢見いちご会」という市民センターのクラブであった。しかし、高齢化に伴い、企画運営が難しくなっていた。

その時、保健師の提案と私が前任の市民センターで同様な状況に取り組んだ経験から、「沢見いちご講座」を立ち上げた。

戸畑リハビリテーション病院と
まちは以前から協力体制を確立し
ていた。令和元年度に病院から、
地域包括ケア推進チームを立ち上
げるが、地域貢献するにはどうし
たらいいだろうか、という相談が
あった際、「沢見いちご会」の後半
の講座を依頼するとともに、戸畑
区の市民センター館長や行政に繋
ぐことにした。

「沢見いちご講座」を立ち上げ
るにあたって配慮したのは、「沢見
いちご会」クラブ会員に生涯学習
市民講座に移行することについて
理解を得ること、そして市民セン
ター職員の理解を得ること。これ
は病院の（理学療法士の）先生の
魅力で難なくクリアできた。

しかし、法人との連携について
は、生涯学習の指針（「本市の生涯
学習活動について（指針）」）の中
で、NPOなどとの連携（を目指
すこと）が明確に書いてあるもの
の、（法人の）宣伝活動になるの
ではという懸念を抱えたままの出発
となった。

連携2年目（令和2年度）は、
「コロナ禍で（講座などの）中止
が多いが、それでも学びたい。」と
いう声があった。また、戸畑リハ
ビリテーション病院から、オンラ
インで戸畑区全体に広げないかと
いう提案をいただいた。

しかし、市民センターの環境は
整っておらず、自分の勉強不足もあり、難しいのではないかと考えていたところ、戸畑リハビリテーション病院広報課の全面協力によりオンライン配信が実現することになった。

そして、戸畑区の市民センターへ声かけした結果、現在、東戸畑市民センターに毎月1回、講座を配信している。

（事業の）実行前・後の取り組みとしては、課題及び目的をはっきりさせること、withコロナ対応と活動、それを踏まえた活動計画、実行、そして、受講生を交えた振り返りとアンケートからの声を大事にしている。

最後に、この活動の成果と学び、今後の取り組みを発表する。

参加者・受講生からは、「まだまだ地域の一員として活躍できる、と気持ちが前向きになってきた。」という声を聞いている。もちろん健康に対する意識向上、コロナ禍による生活の不活発

令和4年度 沢見いちご講座					
第2・4木曜日 13:30~15:00					
沢見市民センター保管用					
氏名					
日 程	内 容	講 師	血 圧	出 欠	
1 4月28日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	
2 5月12日	プレイス講座 座中にウェーキング設備	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	
3 5月26日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	
4 6月9日	口腔ケア講座	戸畑リハビリテーション病院 歯科衛生士 坂本 匡子	／	／	
5 6月23日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネス&EMS 戸畑スタッフ 田中 康子	／	／	
6 7月14日	住み慣れたまちでいつまでも	北九州市社会福祉協議会地域福祉部 戸畑区事務所地域支援コーディネーター 藤子 富美	／	／	
7 7月28日	園路づくり	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	
8 8月25日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネス&EMS 戸畑スタッフ 若切 秀文	／	／	
9 9月8日	オンラインダンス	北九州市立大学地域創生学部 大学生	／	／	
10 9月22日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネス&EMS 戸畑スタッフ 若切 秀文	／	／	
11 10月13日	リハビリ家電講座	戸畑リハビリテーション病院 管理栄養士 森田 由佳	／	／	
12 10月27日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	
13 11月10日	在宅医療講座	戸畑リハビリテーション病院 看護部 森 久子	／	／	
14 11月24日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	
15 12月8日	認知症予防講座	戸畑リハビリテーション病院 認知症ケア専門士 若原 香穂	／	／	
16 12月22日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネス&EMS 戸畑スタッフ 原田 聡	／	／	
17 1月12日	ACP・終活講座	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹 理学療法士 久保 貴樹	／	／	
18 1月26日	詩吟	沢見市民センタークラブ 友誼会 講師 山本 俊一	／	／	
19 2月9日	お薬について学ぼう	戸畑リハビリテーション病院 薬剤師	／	／	
20 3月9日	看護部さんからのお話	戸畑リハビリテーション病院 看護部	／	／	
21 3月23日	振替り会	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	／	

黄色はオンライン講座



の克服もできている。

市民センターの学びとしては、オンライン配信やデジタル化に少し自信が持てた。「情報を掴むためのアンテナを持つこと」は、とても大切ではないかと思う。

また、「今、地域に求められていることを掴み、一步を踏み出す勇気」、それも私たち（市民センター）に必要なものだろうと思っている。そして、「人をつなぐ（役割の）センターではなく、（各団体が）つながっている（中の一つである）センター（であることの大切さ）」、そういうことを意識できたことが成果と学びであった。

課題は、「コロナ禍での生活の質の低下」や「地域スタッフの高齢化」、（75歳以上は集団検診の対象とならないため）「健康診断受診の周知の難しさ」、「ライフステージを意識した活動が欠如しているため、参加者が固定化し、高齢者に偏りがちな活動になっている」こと。また、「オンラインの周知と拡大」も課題だと思っている。

今後の取り組みについては、オンラインの周知拡大や世代間交流を中心に、次世代へつなぐ活動、児童保護者が一緒に参加できる内容、声かけと誘い合いの展開、ニュースポーツの積極的な導入などを進めていきたい。

【事例発表についての質疑応答】

委員：（市民センターの成果と学びとして）「人をつなぐセンターではなく、つながっているセンター」を意識できた、とのことだったが、その意味をもう少し詳しく教えていただきたい。

館長：我々（市民センター）は、「繋いであげよう」という気持ちがどうしても強くなりがちだが、（多くの人に）いろいろ協力していただき、また、病院などとの連携をしていくうちに、お互い歩み寄って手をとらなければ物事は進んでいかない（ということを理解した）。「繋ぐ、繋ぐ」ではなく、「繋がっていよう」という気持ちを大切にして、地域づくりをしていこうという意味である。

委員：年間テーマの設定は、まちづくり協議会主導か、それとも市民センター主導か。

館長：市民センターから課題の提示をし、まちづくり協議会会長が固めた提案を会議にかけていく流れになっており、まちづくり協議会主導といえる。

委員：やはり、地域の方の意見が多いということは、大切なことだと思う。

まちづくり協議会の組織として、新しくボランティアとワーキンググループがあるとの説明だったが、まちづくり協議会主導ということはこの二つのグループも一緒に活動しているのか。

館長：一緒に活動しているが、ボランティアは「できる時にできることを」というコンセプトで活動している。

【委員から地域の健康増進についての提案】

委員：「地域資源の発掘」は大変重要だが、130もの市民センターの中には探すのが大変だということが出てくると思う。

この健康増進については、市の当局でサポートするのが包括的に有効ではないか。

この分野の専門家である生命保険会社が、全国的に、健康問題についての取り組みを行っているという記事を最近見た。

地域資源がないような市民センターがあれば、市がサポート（生命保険会社と提携するなどして）し、選択肢として紹介するとよいのではないかと思う。

【グループワーク協議内容】

テーマ①：地域の健康増進のためにはどのような学び・工夫が必要か	
A 班	<u>1 講座の継続にはボランティアの力や準備が必要である</u> 沢見まちづくり協議会の「地域ボランティア」、「ワーキンググループ」は良い取り組みである <u>2 講座の PDCA サイクルについて</u>（講座を計画、実施、次年度へ繋げていくためには） 「何が有効か」、「何が良かったか」を話し合うことが大切であり、話し合うことが地域の活性化にもつながる <u>3 健康づくりに特に必要なこと</u> ・病院・看護師・保健師など「専門性があるところと繋がる」ことが必要
B 班	参加者の固定化が課題であり、今後いかに裾野を広げていくか <u>1 健康状態の可視化により、参加者の意欲を促す</u> 運動能力測定を基に簡単に作れる「個人カルテ」を作成し、活用してはどうか <u>2 市民センターと様々な社会教育施設・機関が繋がること</u> ・一人暮らしの人と関わっている民政委員と市民センターをつなげる ・スポーツ推進委員は、スポーツを通して地域の人たちの繋ぎ役の核になるのではないか <u>3 オンライン、デジタルの活用</u> 家から出られない人や市民センターに行きたくない人、孤立している人たちをどのように市民センターまで繋げるか。オンラインを活用するなどの工夫が大切である
C 班	<u>1 目にみえる資料を来館者に渡す、館内に掲示する</u> 目に見える資料は意識づけになる <u>2 近所の人がちよっと寄っていくきっかけになるような行事を企画する</u> ・講座ではなく、「健康まつり」のようなものがあれば、ちよっと寄っていくきっかけ、来られない人を引っ張り出すきっかけになるのではないか ・行政側の広報も必要 <u>3 健康は年間を通して途切れなくやっていくこと、やりっぱなしにならないことが大事</u> <u>4 健康になることが目的ではなく、「健康になってどう生きていくか」を考えることが必要</u> <u>5 健康に関する講座・イベントに来た人を他の講座やクラブなど、他の「カルチャー」に繋げていくこと</u> <u>6 市民センター同士の連携</u> 市民センターはそれぞれ特色があるので、連携が難しい部分もあると思うが、今回のオンラインを活用したような事例をどんどんやっていくのが良い <u>7 専門家の力を借りること</u> 病院を拠点に専門家の力を借りること、学校の体育の先生やスポーツ指導者なども組み込めると良いのではないかと。教育委員会との連携も必要

テーマ②：健康増進を図りながらどのように地域・人づくりへつなげていくか

A 班	<u>1 関心の高いテーマである健康で地域づくり・人づくりに人を巻き込んでいく</u> ・プランをしっかりと持ち、実施していくこと ・地域の人が PDCA サイクルを意識できるような仕掛けづくりが必要である 【例】年度当初に参加者の健康状態を測定→地域の専門家などを巻き込みながら運動や座学を実施→参加者が成果・効果を実感する→参加者がほかの人に声掛けをして、繋げていく→一年の成果を確認する <u>2 参加者の事業への参画</u> 事業に参加者の企画を入れ、参加者からリーダーを出し、講座を進めてもらう 【例】・当番を決めてラジオ体操を行う ・夏休みに子どもの企画で健康づくりを行う <u>3 子どもの健康に係わる事業から若い世代へアプローチする</u> ・夏休みに子どもの企画で健康づくりを行うことで、親への影響もあるのではないかな ・SNS 等情報化社会の中でメディアの影響を受けたものなど、子どもが抱えている課題は、親の関心が高いので、関心の高い親子から始め、参加者を広げていけばいいのではないかな <u>4 ボランティアの力を活かし、細やかな気配りの工夫をしていく</u> 介護などで家を出られず、健康づくりに参加できない人に、講座の日だけは参加できるようにするなど、細やかな気配りの工夫をしていく
B 班	<u>1 健康状態のデータの可視化から裾野を広げる</u> 「個人カルテ」を作成し、自分の健康の良い点、弱い点をカルテで示すことにより、参加者の意欲に繋がる。その健康への取組みや成果が友人に伝わっていくと、自分も参加してみたいという気持ちに繋がっていく <u>2 市民センターが核となって、様々な社会教育施設や機関と繋がること</u> 様々な社会教育施設や機関・専門家とどれだけ多く繋がれるかが、地域の活性化には大切である <u>3 健康・スポーツは地域づくり・人づくりには一番いい切り口である</u> ・市民センターにこない人、孤立している人をオンラインやデジタルを活用するなどの工夫をして、市民センターまで繋げる ・スポーツは誰でも関心があることから、地域の活性化にも繋がっていくのではないかな <u>4 子どもを巻き込んだ世代間交流が地域づくり・人づくりにつながる</u> 子どもが発端になれば、親が来る。若い人が来る。来ることによってみんなでやる。ライバル心が出て、意欲に繋がり、色々な人が来て、色々な声が出てくる。そこで出る声を大切にすることが地域の活性化に繋がっていくのではないかな

C 班	<u>1 受講生が他に繋げることで、地域で活躍する人の流れを変える</u> 受講した人が受講生で終わらないこと、誰かにその「楽しさ」を伝えることが大事である <u>2 子どもを通して繋がっていく</u> 先生は忙しいので、地域の人たちに直接指導するのは難しいと思われる。専門家の力も借りながら、子どもを経由して、親や祖父母にスポーツをやってみるよう働きかけることも良いのでないか <u>3 参加者がボランティアや教える側になっていくこと</u> <u>4 市民センターの機能を外に持ち出す（リーダーづくり）</u> 高齢者の中には市民センターまで行けない人がいる。これを市民センターだけで行うのは人手も足りず難しい。市民センターの中で、リーダーづくりをしていくこと、ボランティアを格上げすることが必要ではないか
-----	--



VI 【まとめ】地域づくり・人づくりにつながる取組みについて

北九州市に対し、北九州市社会教育委員会議での意見を、以下のとおり、まとめる。

1 地域防災力の向上及び子どもの健全育成・体験活動について

- (1) 事業実施にあたっては、タイムリーな課題を地域と共有し、プログラミングの中で工夫をしながら、対応することが大切である。声かけなどの繋がりづくりをして、多くの方に参加してもらうことで、プログラムはさらに良くなっていく。
- (2) 館長は、人材を発掘し、コーディネーターやプログラムを動かす人をマネジメントするなど、地域の体制づくりを整えることが大切である。
- (3) 防災は、日頃の「ご近所づきあい」が大切になる。地域住民が主体的に防災に取り組むことで、まちづくりや地域の活性化に繋がっている事例があり、一つの大きな成果である。取組みを広げていくためには、先進事例を広報することが必要である。
- (4) 子どもの健全育成については、この数年、子どもたちの体力の低下が非常に心配されており、生活体験、自然体験、社会体験ということが非常に重要である。
今の時代、コロナ禍において柔軟に対応した成功事例をいかにモデル化していくかということが重要である。

2 デジタル化への対応について

- (1) 企救丘市民センターの先進的な取り組みである、「スマホカフェ」、「認定証を発行すること」、「学生を活用すること」を他地域へ広げていくことで、世代を超えた学び合いや教えられる側が教える側にまわるという循環ができる。また、子育て世代を通して、学校と市民センターの連携も図れる。
- (2) 課題は、
 - (ア) 市民センターと繋がらない人をどう繋げるか
 - (イ) 関心のある館長だけではなく、もっと取り組む館を増やしていく必要があること
 - (ウ) デジタルリテラシーの問題である。この3つの課題にどのように対処していくかが今後の課題である。

3 館長の役割等について

- (1) 館長に一番大きく求められる力量は、地域の人々とコミュニケーションをとる能力である。まずは館長が地域に関心を示すこと、地域の人々に寄り添う姿勢を持つこと、そして、館長自身が様々なネットワークを作りながら、地域の人たちと繋がっていくことが必要である。
- (2) 地域の人たちが市民センターに行って、館長と話してみようと思うような市民センターの雰囲気づくりも大事である。
- (3) 館長次第だということにはならないように、地域づくりの良い事例を学ぶ館長研修を区ごとに、毎月の学習会のような形で学ぶ仕組みづくりが必要である。
- (4) 地域の学習の場に各大学や企業などが入っていける仕組みづくりをし、館長や市民センターの活動を支える必要がある。

4 地域の健康増進について

- (1) 地域づくり・人づくりに繋げるための三つのキーワードは「地域資源の活用」、「参加者から参画へ」、「子どもを対象にした取り組み」である。
- (2) 「地域資源の活用」については、病院、保健師や看護師などの専門性を持つ人、スポーツ推進委員や学校の先生など地域の人材も含めて取り込むといいのではないかと。
- (3) 人づくりに繋げていくためには、リーダーを作る、講座などの参加者が教える側になることが必要である。そのためには、健康状態を可視化する等の工夫をして、参加者の意欲を促し、効果や楽しさが実感できる取組みを企画することが必要である。健康・スポーツは誰でも関心があることから、地域の活性化に繋がっていくのではないかと。
- (4) 子どもを核にするといろいろな世代が集まってくる。子どもを対象にした取り組みが地域づくり・人づくりの良い切り口になる。また、子どもを中心にするだけでなく、SNSなど情報化社会の中でのメディアの影響など、子どもが抱えている課題を講座で取り入れると、関心のある親世代は集まってくるのではないかと。

5 総括

今期の協議にあたっては、北九州市の特徴的な施設である市民センターにおける事例を題材としたが、そこから見えてきたのは、地域における市民センター館長の役割の重要性である。

同じ市内であっても地域によって年代や住民の傾向に違いがあり、小学校区単位に設置された市民センターでは、その地域の特性に合った事業を展開していく必要がある。

市民センターの事例紹介において、大きな成功要因と思われたのが、館長のコミュニケーション能力、マネジメント能力である。館長が地域に関心を示すこと、地域の人々に寄り添う姿勢を持つこと、そして、館長自身が様々なネットワークを作りながら地域の人たちとつながっていくということが事業の成功に結び付いたようである。

市民センターが子どもを対象とした事業を通じて世代を超えた学び合いを提供することや教えられる側が教える側になること、スポーツ委員や学校の先生といった個人や病院・学校・企業などの組織と連携し地域活動へとつなげることで、「地域づくり・人づくり」が広がっていくのではないだろうか。

しかし、課題も残されている。長く社会教育・生涯学習の課題となっているのが、「つながらない人をどうつなげるか」ということである。また、現代的な課題として、特に高齢者が取り残されがちなデジタルリテラシー問題なども現れてきた。市民センターに入りやすい雰囲気づくりや災害対策をきっかけにつながっていない人に働きかけるなどの方法も考えられるが、協議の中で、解決の難しい課題として浮き彫りになった。

戸畑区三六公民館婦人学級の公害学習から 60 年、北九州市の社会環境は大きく変化してきた。公害問題から人口減少や人とのつながりの希薄化、デジタル化の進行に伴う情報格差などへと課題が変化し、そして、それにより地域が必要とすることもまた変化してきた。

社会がどのように変化しようとも「持続可能な社会」であるためにはどうしたらいいのか。課題は変化しても、解決の主体となるのはやはりその地域の人・団体・組織であろう。そして、それらを結び付け、地域課題解決に導くのが、市民センターに求められる役割である。

地域コミュニティの要として、市民センターに対する期待は非常に大きくなっている。館長や市民センターの活動を支えるための研修や事業の充実を図り、コロナ禍を契機としたライフスタイルの変化や、デジタル化などの社会環境の変化にも、柔軟に対応しながら、「地域づくり・人づくり」に取り組んでいただきたい。

VII 參考資料

北九州市社会教育委員名簿

(任期 R3. 8. 29～R5. 8. 28)

区分	氏 名		備考
学校教育	むとう 武藤 さよ 佐予	北九州市立小学校長会 代表	R3. 8. 29～R4. 3. 31
	にしむら 西村 なおみ 直美	北九州市立小学校長会 代表	R4. 5. 12～
	うえだ 上田 あけみ	北九州市立中学校長会 代表	
社会教育	なかお 中尾 みさ 美佐	北九州市婦人団体協議会 理事	
	やました 山下 ひろし 比呂志	北九州市子ども会連合会 会長	
	わだ 和田 まさと 正人	北九州文化連盟 専務理事	
	もりかわ 森川 としひと 壽人	北九州市スポーツ協会 理事	
	みやもと 宮本 かずよ 和代	元福岡県社会教育委員	副議長
家庭教育	たかはら 高原 けいこ 恵子	北九州市私立幼稚園連盟 理事	
	こもり 古森 りか 利香	北九州市PTA協議会 副会長	
学識経験者	みはら 三原 あさと 朝利	市議会議員	R3. 8. 29～R5. 3. 2
	やまもと 山本 まちこ 眞智子	市議会議員	R3. 8. 29～R5. 3. 2
	なかむら 中村 よしお 義雄	市議会議員	R5. 4. 27～
	おおくぼ 大久保 むが 無我	市議会議員	R5. 4. 27～
	のより 野依 ともこ 智子	福岡女子大学 国際文理学部 教授	議長
	やまだ 山田 あきら 明	九州共立大学 スポーツ学部 教授	副議長
	はたの 羽田野 たかし 隆士	北九州商工会議所 専務理事	
公募	やまなか 山中 ひろとし 啓稔	公募委員	

北九州市社会教育委員会議関連法規

社会教育法

(審議会等への諮問)

第13条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和二十三年法律第二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。

(社会教育委員の構成)

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- (1) 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- (2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- (3) 前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(社会教育委員の委嘱の基準等)

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令

(社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準)

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第18条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱することとする。

北九州市社会教育委員会条例（平成27年7月3日公布、8月29日施行）

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条第1項の規定により、市に社会教育委員（以下「委員」という。）を置く。

第2条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから委嘱する。

第3条 委員の定数は、15人とする。

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 委員は、その事情により、任期中であっても解嘱することができる。

北九州市社会教育委員会議規則

第1条 社会教育委員の会議には、委員の互選により、議長および副議長2人をおく。

第2条 議長および副議長の任期は1年とする。ただし、再選されることができる。

第3条 議長は、社会教育委員の会議を主宰する。

第4条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるとき、または、議長が欠けたときは、その職務を行う。

第5条 委員の会議は、必要に応じて教育委員会がこれを招集する。

第6条 会議の招集は、開会の7日前までにこれを通知しなければならない。

第7条 教育委員会は、会議開催の日時、場所および会議に付議すべき事件をあらかじめ通知しなければならない。

第8条 この規則に定めるもののほか、社会教育委員の会議に関し必要な事項は、別に定める。

今期の北九州市社会教育委員会議

	会議	日程	議題
1	令和3年度 第2回会議	令和3年11月9日	・ 議長・副議長の互選【定例】 ・ 北九州生涯学習推進計画にかかる施策・事務事業の進捗状況(前年度評価)【定例】 ・ 協議テーマについて①(テーマの決定)
2	令和3年度 第3回会議	令和4年1月18日	・ 協議テーマについて② (地域の防災力の向上及び子どもの健全育成・体験活動)
3	令和4年度 第1回会議	令和4年5月19日	・ 社会教育関係主要事業及び補助金について【定例】 ・ 協議テーマについて③(デジタル化の取組み)
4	令和4年度 第2回会議	令和4年10月25日	・ 議長・副議長の互選【定例】 ・ 北九州生涯学習推進計画にかかる施策・事務事業の進捗状況(前年度評価)【定例】 ・ 協議テーマについて④(館長の役割)
5	令和4年度 第3回会議	令和5年1月24日	・ 協議テーマについて⑤(地域の健康増進)
6	令和5年度 第1回会議	令和5年7月13日	・ 社会教育関係主要事業及び補助金について【定例】 ・ 協議テーマについて⑥(意見のまとめ)

令和3年度第1回会議 協議テーマについて(委員意見整理)

生涯学習推進計画 施策・取組み	委員の意見・問題提起(概要)
1 多様な「学び」の機会の提供 【柱1(3)】	
①学びのきっかけづくり	・コロナ禍により子どもたちの体験が減少しており、体験に飢えている。
	・コロナ禍の中で、いかにスポーツに参加させ、健康増進につなげるかが課題となっている。
	・ZOOMなどの通信技術を導入した地域としていない地域の格差が出ている。
②ライフステージや多様性に 応じた学習機会の提供・充実	・コロナ禍の中で、いかにスポーツに参加させ、健康増進につなげるかが課題となっている。[再掲]
	・地域が実施する「地域で育もう未来の種事業」など、体験を提供する事業に、定員 オーバーになる ほど申し込みがある。
③現代的・社会的な課題の 解決に向けた学習機会の提供・充実	・パンデミックなどの問題が起きても地域活動が継続できるよう、事前に危機管理を学び、体制を整えておくべき。
	・コロナ禍により子育てに対する悩みを相談する場が急速に失われている。また、経済的、精神的に困難な家庭が増加している。
	・高齢者もデジタル活用ができないとコロナワクチンの予約も難しくなる。生活の質を向上させるためにはデジタル活用が必要である。
2 「学び」と「活動」の場づくり 【柱1(4)】	
①学んだ成果を活かす 仕組み	・コロナ禍により地域活動が減少している。
	・高齢化などにより地域活動をしている人が減少している一方、行政の事業で育成された人材が地域に入ってきている実感があまりない。
	・地域活動について、朝から晩までは無理だが少しならできると、という人が取りこばれてないか、と感じる。
②生涯学習関連施設の 整備	・市民センターを土曜日の夜と日曜日にも使用できるようにしてほしい。
3 「学び」と「活動」を通した人材の発掘・育成 【柱2(1)】	
①地域ボランティアの 発掘・育成	・地域によって活動の熱心さに格差がある。
4 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上 【柱3(3)】	
①家庭教育支援の充実	・コロナ禍により子育てに対する悩みを相談する場が急速に失われている。また、経済的、精神的に困難な家庭が増加している。
	・子どもたちは助けてもらえばかりでは、大人になって世の中に出て逆境にあった時に克服できない。
②学校・地域・学校の 連携促進	・子どもたちは普段「してもらう」ことばかりだが、子どもたちの力を地域に返すこと、地域で活躍することが必要ではないか。[再掲]
	・地域によって活動の熱心さに格差がある。[再掲]
③地域における子ども たちの発達・育成を 促す環境づくりと体験 活動の促進	・地域が実施する「地域で育もう未来の種事業」など、体験を提供する事業に、定員オーバーする ほど申し込みがある。[再掲]
	・ボランティア活動を募集したところ、参加希望が多く、子どもたちが「体験」に飢えていると感じた。[再掲]
	・子どもたちは助けてもらえばかりでは、大人になって世の中に出て逆境にあった時に克服できない。[再掲]
	・高齢者、若い世代の育成に行政が協力してほしい。

令和３年度 第２回社会教育委員会議（１１月９日）
（主な委員意見）

議題（ウ）社会教育委員会議の協議テーマについて

委員：デジタル化が今後かなり求められてくると思う。特に高齢者など、使いこなせないと情報の格差や、取り残されていく場合があるので、市民センターで学びなどが進められないかと考えている。協議テーマとしてデジタル化への対応が必要ではないか。

委員：デジタルの問題やＤＸの問題は、日本全体、非常に遅れが激しいということで、特に子どもたちに興味を持たせるというのは大事だろう。当然、何らかの形で入れ込んだほうがいいのではないか。

委員：デジタルを通じた情報提供のあり方というものが大事ではないか。危機管理という観点からもデジタルを絡めて、正確な情報を、いかに早く、市民の皆さんに伝えるきっかけにできるような環境づくりというものを、ぜひ取り組んでいけたらと思う。

委員：このテーマ（デジタル化）が今後の１つの大きな核になるであろうというのは、非常に共感する。何らかのアイデアを出すというプラスの意見を皆さんが出せるということであれば、協議テーマにしかるべきと思う。

議長：デジタル化の問題や情報の格差をどうするか。ただ、社会教育の今回のテーマは、もう少し、社会教育としてどういったことを目標にするか、ということではないか。文部科学省では、「人づくり・地域づくり」をテーマにしており、デジタル化、情報の問題というのは、そういった大きな社会教育としての目標に、どのように取り込んでいったらいいのかという方法論になるかと思っている。

事務局案として提案させていただいた「“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり～SDGsの達成を目指して～」を基本にして、ご意見を踏まえて追加するかどうかを検討させていただきたい。

委員：今回の新たな試みとして、それぞれの具体的な取組みを検証していきながら、より具体的に話をしていくという方向性が出ているのは、非常に素晴らしいことではないか。

【共同学習の事例：北九州市戸畑区三六公民館の婦人学級から】

福岡女子大学 野依 智子

1960年代はじめ、戸畑区の三六公民館の婦人学級では、「現在一番困っていることは何なのか」「悩んでいることは何か」を徹底して話し合った。そのうち、ある学級生の「洗濯物が黒ずんで困る」という発言がきっかけとなり、公害による被害が口々に訴えられ、これこそ婦人学級で取り上げなければならない切実な課題であることを発見した。それぞれ家庭の状況や被害を話し合っているうちに、公害問題は三六地域共通の課題であることがわかった。

自分たちが苦しんでいるのはなぜだろうか、どうすれば人間らしい生活ができるか、今後の生活に不安はないだろうかを考えあった。

学習方法は、単なる話し合い、講演、読書会にとどまらず各グループにわかれて布の汚染状況やワイシャツの箱に降塵をとったり、新聞の切り抜きを集めたりした。その結果を全体学級に持ち寄って、学習した。

自分たちで資料を集め学習していく自主的学習は学級生ひとりひとりの生活態度を変えていった。壁に突き当たりながら共に悩み、考え、励ましあってきた学級生は、信頼しあった人間関係のもとに、あらゆる困難な問題も乗り越えるまでに成長した。

三六公民館婦人学級の取り組みは波紋を広げ、1965年には戸畑区婦人会協議会の組織をあげての取り組みに発展した。三六婦人学級の経験をいかして、リーダーが講師となりブロックごとの事前研修も行った。毎年配布される市民アンケートは調査活動を裏付ける貴重な資料となった。

こうして、婦人会の公害学習は、教研や自治研、母の会、PTA 研究会、婦人会議、公民館講座に取り上げられ、マスコミで全国的に報道されるようになった。

公害の発生源である大企業へは、工場見学をして集塵装置の施設状況を調査し、工場代表と懇談会をもって積極的対策を申し入れたりした。

＜38年度 三六婦人学級の学習活動＞

学習活動	内容	方法その他
新しい婦人学級のあり方	・講師中心の学習をやめる ・学級生が主体の学級	グループによる調査
保健所訪問	・公害問題の実態調査の方法の研究	資料調査
市公害課訪問	・過去4か年の公害の現況 ・三六における公害の実態	市の資料調査
新聞雑誌の切り抜き	・公害問題の理解を深める	資料づくり
公害とは何かー講義ー	・なぜ公害問題がおこるか	九州工大教授
住民の意識調査	・公害の状況、・家族の健康状況	アンケート調査
布の汚染調査	・室内と室外の汚れ方の相違	実験
降塵量調査	・実際の降塵量はどれくらいか	ワイシャツの箱で1か月
発生源調査	・発生源はどこか	九工大燃料研究室で 煤塵成分の分析

〈出典〉林えいだい「権利意識にめざめた婦人の学習活動ー公害学習と住民運動ー」『社会教育』23(10)、全国社会教育連合会、1968)より



「平野地区みんなで取り組む防災」 ～大雨災害での犠牲者をゼロに！～

北九州市立 平野市民センター
館長 伊藤 須美子

1 地域の概要

前田第3自治区会と第4自治区会の二つの自治区会から構成され、共に高齢化が進む中、美化・防犯防災活動や世代間交流を積極的に取り組み、安全・安心で暮らせる地域を目指している。高齢化率は42.4%である。

2 活動内容

◇事業名 平野地区みんなで取り組む防災

◇事業の目的

近年自然災害が激しさを増し、全国的に地域での「共助」が重視されるなか、さらなる地域防災力の向上を目的とする。また、防災対策を切り口に地域コミュニティの更なる活性化を図っていく。

◇事業実施団体

平野まちづくり協議会、前田第3第4自治区会、前田第3・4区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、平野市民センター

◇実施にいたる経緯

高齢者や一人暮らしの多いこの地域は土砂災害警戒区域として指定された地域も多い。昨今の地球温暖化・線状降水帯による集中豪雨・台風被害等のニュースを目にするたびに、いつどこで起こるか分からない災害に住民の危機意識が高まってきた。

◇実施プログラム

①平成30年

北九州市危機管理室支援事業「地区 Bousai 会議」に応募し、平野地区で「大雨災害での犠牲者をゼロに！」をスローガンに、地域と共に地区防災計画に取り組んだ。全5回の日程で実施。

＜講師＞「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏。

第1回会議＜このまちで生き、この町と向き合う＞

第2回会議＜人間は一人では逃げられない？＞

住民の皆さんで今の思いや疑問、課題を話し合い大雨災害対策へのはじめての一步を踏み出した。

第3回訓練〈みんなのために情報を伝達する〉

70名が参加。命を守るためにはどうしたらいいのか、実際に情報の伝達、連絡方法などの訓練をした。この年の7月6日に平野川が昭和28年6月28日の大水害以来65年振りに氾濫したことが、住民の意識を高めた。また、地域住民の出演により作成された「伝達・連絡方法DVD」を放映し、顔なじみのお隣さんが出演することにより住民の関心を湧き起こした。

町内会で立地条件は異なっているため、各町内会に別れて独自のルールを話し合った。最後に水を注ぐだけで食べられる非常食のアルファ化米で作ったカレーライスを食べなど貴重な体験であったとの高評価で訓練を終了した。



＜ 花尾小学校体育館での合同訓練 ＞

第4回会議〈いつ・どこに逃げ、身を守るのか〉

第5回会議〈『平野地区防災計画』を作る！〉

住民たちで話し合った結果をまとめた「行動計画書」を作成。各町内会が保管する。

②平成31年（令和元年）

◎フォローアップ講座1

講師：「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏

第1回講座〈前年度講座の振り返り〉

前田第3自治区会防災講演会を実施。

第2回講座〈火災・防災合同訓練〉

地域57名、センター利用者16名、計73名が訓練に参加。

（第1部）八幡東区消防署員指導。センターの調理室から出火したとの想定で避難訓練を行った。消防署員による火災についての講義、水消火器の指導があった。

（第2部）「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏講演。地域全体での振り返り講座を実施。

（第3部）食生活改善推進員がふれあい菜園（まちづくり協議会管理・運営）で採れたジャガイモ、玉ねぎを使用し、カレーライスを振る舞う。参加者は食事を終え、順次解散した。

第3回講座…予定していた合同訓練が、コロナ感染予防対策として緊急事態宣言が発出され講座の中止を余儀なくされる。

③令和2年

◎フォローアップ講座2

＜コーディネーター＞「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏

第1回会議＜平野地区防災計画の振り返り＞

前回作成した、防災計画の見直しが目的で、今年発生した台風時に困ったことや新たな課題等の意見交換を行った。コロナ感染症対策のため対象人数が絞られ、前田第3・4自治区会の町内会長や役員、社協の役員、民生委員・児童委員の40名が参加。

- ・現状の課題・懸念していることなどの検証
- ・避難すべき人の確認
- ・避難先と移動手段の検討

地形的に北九州は大雨を免れやすいそうだが、運悪く線状降水帯が発生した場合、大規模な災害が起きることも考えられる。参加者からいろいろな意見・アイデアが出され、有意義な会議となった。



＜19時からの会議にも関わらず熱心に議論＞

第2回会議＜3つのちえん“血縁”“地縁”“知縁”で自助の底上げを目指す＞

前田第4自治区会の東川頭町では、町内会長・防災委員・地区担当民生委員の6人からなる防災組織「東川頭お助け隊」を結成した。

東川頭お助け隊を中心に

- ・自治委員との情報共有による、避難困難者の把握と、縁故者への連絡体制の整備
- ・地域独自のハザードマップの補充・活用
- ・連絡網作成

など、避難困難者が確実に避難できるように取り組んでいる。

また、住民の防災意識調査を実施するなど、家庭訪問をしながら情報を把握し確認を行った。

第3回会議＜より実践的な防災計画案へ！＞

- ・平野市民センターの避難者受け入れ態勢表を作成
受け入れ可能世帯は74世帯（148人）、2m×2mを基本とし、1世帯2名で算定
- ・使用する部屋の受け入れ順を検討
- ・館内に常備している資材を活用する
- ・ペットもケージに入れ一緒に避難可能とする
- ・足腰の悪い方への配慮

④令和3年

第1回講座

「感染症対策を踏まえた避難所運営講習会」開催。第1薬科大学教員による「感染症対策を踏まえた公民館の避難所運営講習会」を実施。備蓄品等運営開設における設備を見直し、準備を行う。

第2回講座 講師 福岡管区気象台 気象予報士

「台風に備えて」、「大雨に備えて」、「地球温暖化について」をテーマとした内容で講演を実施した。

3 事業の成果

避難所運営の方針の作成・「平野防災の取り組みコーナー」の設置・毎年6月の防災訓練の実施について関係者の合意を得ることができた。

一連の防災会議・講座を通じて「防災の取り組みは、まず日頃のご近所づきあいから始まる」を実感した。「避難する・しないの選択は、個人の死生観に関わることである。避難したがる住民の理由を理解しその上で助けようとする地域住民の思いが今後の地域の安全・安心に繋がり、「このまちに住みつづけたい 住んでよかった そんなまちでありたい」が実現できるものと思われる。地域で結成された「東川頭お助け隊」はその思いを表す結果となった。

4 今後の課題

平野地区は役員の方々の熱心な活動により、防災の取り組みが順調に進捗しているが、現役員・組織の高齢化に伴い将来の活動量の低下が懸念され、次世代の地域活動の担い手の発掘が課題であると言える。そうした中、様々な行事の活動拠点となっている市民センターの役割が今後ますます重要になると思われる。そこで館長として地域コミュニティ活動の活性化を促し、若い人たちが自然に地元のまちづくり活動に取り組んでいけるような雰囲気づくりに努めていきたい。

【SDGsターゲット】

- 11.5 2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



市民太陽光発電所・市民還元事業～地域で育む「未来の種」事業

やっぱり！みんなで！あそび隊！！

～自然から学ぶ生きる力～

北九州市立足原市民センター

館長 樋谷 美緒

1 小倉北区足原校区の概要

北九州市は本州と海を挟んだ九州の玄関口に位置する人口93万人の政令指定都市です。小倉北区は北九州市の中心地区で足原校区はその北区の東部に位置します。また、交通の便の良さに加え、東に足立山を仰ぎ山麓に桜の名所足立公園平和公園を擁する緑豊かな環境で足原市民センターは校区のほぼ中央に立地しています。(世帯数 5,452 世帯 高齢化率 29.5% 子どもの割合 13.4%)



2 背景・課題

コロナ禍でのマスク着用は表情が見えにくく、また、コミュニティーが閉ざされつつある現状は、孤立を招き子どもの成長に大きく影響します。自身で考え選択しながら歩いていく未来を担う子どもたちに必要なことは、より多くの感動や体験活動です。また、地域の中で子どもたちの心の成長を育む活動はシビックプライドを醸成し循環型の持続可能な地域づくりとなります。市民センターだけではなく地域を巻き込んだ子育て支援が重要だと考えます。

3 事業に至るまで

足原市民センターが事業を受けるに関し、地域ぐるみで行うことを必須に考え、まちづくり協議会会長に相談し、子ども部会に提案しました。「子ども達をおもいきり遊ばせたい」と意見はすぐにまとまり「自立したキャンプ活動」を目標に定め、野外活動を重視した7回の講座を企画しました。自然の中で自分たちの力で学び得る楽しさ、感動、協働力、判断力、自立性、そして生きる力をこの講座で育みます。

《協力団体等》

足原校区まちづくり協議会役員・子ども部会
足原小学校おやじの会・地域ボランティア
(子ども部会には、小、中学校 PTA 会長・小学校
おやじの会会長・主任児童委員が入っています)
○実施にあたり、以下の事を約束事としました。



- ・子どもの自主性を育むため大人が手を出しすぎない。
- ・大人は回ごとに担当を持ち、手伝うという意識ではなく全員が主役となるようそれぞれが得意分野を活かし運営の役割を担う。

- ・地域と子どものつながりを深める為、特別な理由がない限り保護者不参加とする。

4 事業の内容

	予定	変更	内容	目的
1	7月10日(土)		オリエンテーションとピッコロで昼ごはん 保護者会（別室）	多世代交流の仲間づくりを行う
2	8月22日(日)	11月13日	おもいっきり遊ぼう外あそび 講師:ONEキッズ先生	外遊びからコミュニケーション力、創造性、判断力を高める
3	9月11日(土)	12月4日	山登り	決まりを守り、目標を達成する経験を積む。班で協力し絆を深める
4	9月25日(土)	10月2日	キャンプに向けてとピッコロで昼ごはん	キャンプに必要な知識、心得を学ぶ
5	9月26日(日)	中止	デイキャンプ	学んだことを活かす。役割をもち、支え合いを学ぶ
6	10月9日(土)		お泊りキャンプ	学びと経験を活かし、自ら行動できる自立心、協働力を育む
7	10月10日(日)			

変更欄：緊急事態宣言により延期または中止

※ピッコロとは

足原校区まちづくり協議会主催の子ども食堂。概ね第2土曜日に昼ごはん(100円)第4火曜日に朝ごはん(無料)を市民センターにて実施しています。

5 申込み方法・参加人数(学級制)

足原小学校全児童にチラシを配布参加条件に保護者会出席、同意書提出を必須としました。

- ・参加人数 31名
(男子12名・女子19名)
(低学年23名・高学年8名)



6 予算

参加費 1000 円でキャンプ食材、お泊り時のシーツ代等に予算をとり、保険代、用紙代等は事業予算より支出。

7 実施講座

第1回 オリエンテーションとピッコロで昼ごはん(10時~13時)

目的: 仲間づくり

遊びや食事を共にし、コミュニケーションを深める時間としました。また、別室にて保護者会を開催し講座の内容や意義、同意書の再確認を行い、キャンプ前の健康調査票の提出も併せて説明を行いました。



第2回 キャンプに向けてとピッコロで昼ごはん（10時～13時）

目的：キャンプの知識と心得を学ぶ

キャンプでの役割分担や安全に過ごす手法をみんなで考え学びの時間を過ごしました。未来の種から一人ひとりの未来の花が咲くように花づくりも行いました。



第3回 お泊りキャンプ1日目（13時～）

目的：学びと経験を活かし自ら行動できる自立心、協働性を育む

足立青少年自然の家まで30分かけて皆で歩き、到着後はおやじの会による忍者修行食材そう奪戦を実施しました。班で作ったカレーを食べた後は、キャンプファイヤーを行いました。火を見つめる時間は、子どもも関わった大人も皆、心が一つになったように感じました。また、出発時、泊りを躊躇していた男の子の発言「ゲームができないし、いやだな。」が夜には、「ずっとこの時間が続いたらいいな。最高だね」に変化しました。

食事、歯磨き、消灯時は、特に感染症対策を慎重に行いました。



第4回 お泊りキャンプ2日目（～10時）

各々手作りしたサンドパンを持って足立公園展望広場まで30分かけて歩き、朝ごはんを食べました。

葉っぱ探しなど自然の中の遊びを皆で楽しみました。



第5回 おもいきり遊ぼう外あそび（10時～13時）

目的：創造性、判断力を高める

ONEキッズ先生を講師にお迎えし、足原小学校運動場にて開催。体全身を使ってのリズム体操やおもしろリレー、しっぽ取りなどおもいきりグラウンドを走り回り外遊びを堪能しました。



第6回 山登り・オリエンテーション（9時～12時半）

目的：決まりを守り目標を達成する経験を積む。

班で協力し、絆を深める

小文字山頂上まで約1時間かけて皆で登りました。地元の魅力と仲間との時間を十分に共有しました。

オリエンテーションでは子ども達が手をあげて感想を発表したり、関わった方々にお礼を伝えました。



8 講座の工夫（書き出しの活動）

体験活動に加え、書き出すことを意識して行いました。その時の気持ちや考えを書き出すことで考える力を育みしっかり自分自身を見つめる時間としました。

- ・未来の花づくり：種用の用紙に「これから楽しみなこと」双葉に「自分の好きなところ」花に「将来の夢」を記入。またキャンプ後に班メンバーの「良いところ・好きなところ」を葉っぱに書き相手に渡し組み合わせで一つの作品を完成させました。
- ・メッセージカード：最終日、感謝の気持ちを伝えました。



9 講座を実施して感じたこと（成果）

コロナ禍の中、地域の様々な世代の方が関わり講座を実施することができました。第1回のおよそそしかった子どもたちも回を重ねるごとに笑顔があふれ、班がまとまり自ら考え行動する力がつきました。子ども達が変化した大きなキッカケはお泊りキャンプでの経験だったと思います。ともに力を合わせ、時に大人に怒られながら我慢と努力に加え、活動をおもいきり楽しみ、ともに過ごした活動はかけがえない時間となりました。キャンプ後、実施した外あそびでは、班での行動もあきらかに変わりました。子ども達からも、次年度の役割や卒業後ボランティアとして参加したい等の声がありました。遊びを通し、大きな成長が見られました。

また、関わった大人も共に楽しみながら活動したことで、結束力、信頼関係が深まり、地域を支える人材としてより大きな輪が広がっていく良い契機となりました。

子どもにとって遊ぶ経験は生きる力となり、関わる大人は子ども達から希望をもらい、活動から多くの縁が繋がりました。子どもが地域とつながり育っていく、まさに世代でつながりつなぐ循環型の持続可能な地域づくりであり、素晴らしい校区の底力を実感しました。

10 講座を終えて（課題）

まちづくり協議会をはじめ地域の方々と共に作り上げていく継続的な体制づくり、また、費用についても自主的な活動となるよう検討が必要と考えます。また、若い世代の方々もボランティアとして参画し講座を支えていただきましたが、仕事をしながらの講座実施に加え、会議等の時間調整の難しさを実感しました。会議内容の充実を図り、さらにリモートを取り入れるなどスタッフ間での密な体制づくりに力を注ぐ事も大きな課題です。

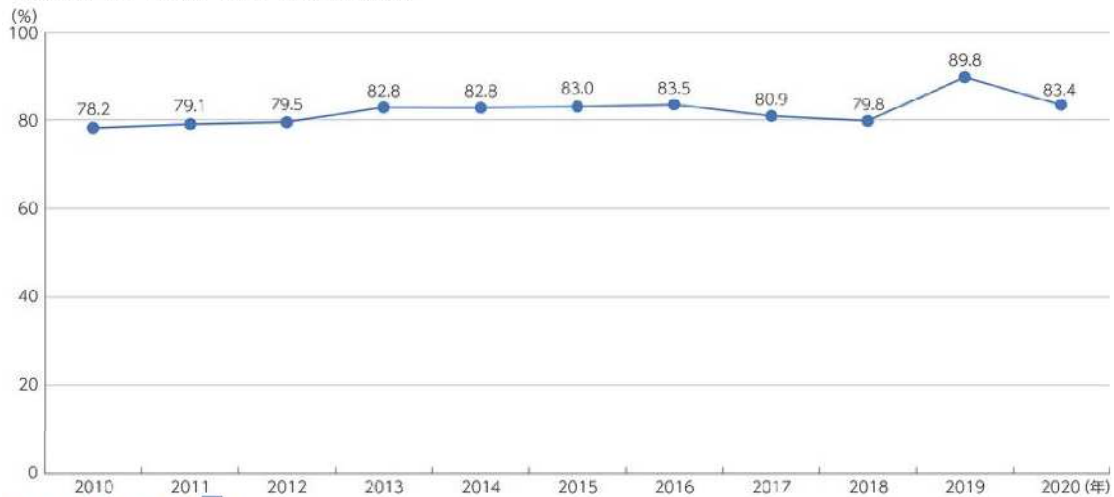
今後も多世代でつながる地域づくりに尽力し、更なる持続可能な活力ある校区を目指します。



デジタル化の現状

(総務省「通信利用動向調査」より)

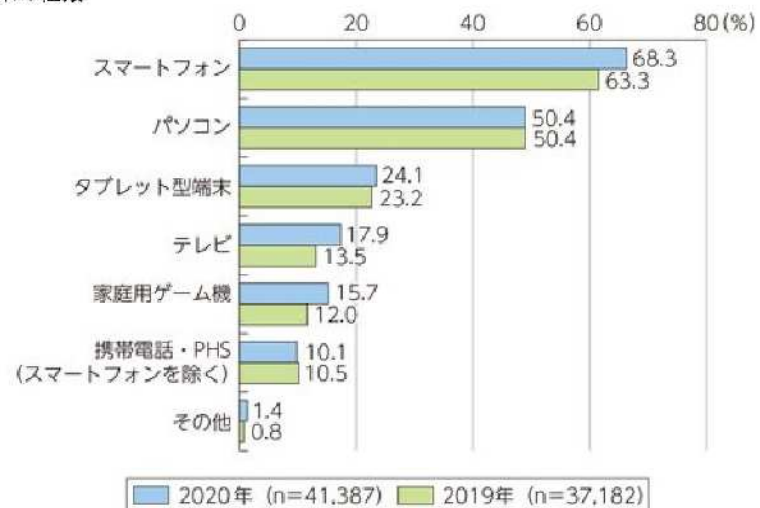
図表4-2-1-3 インターネット利用率の推移¹⁾



[大きい画像はこちら](#)

(出典) 総務省「通信利用動向調査」 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

図表4-2-1-4 インターネット利用端末の種類

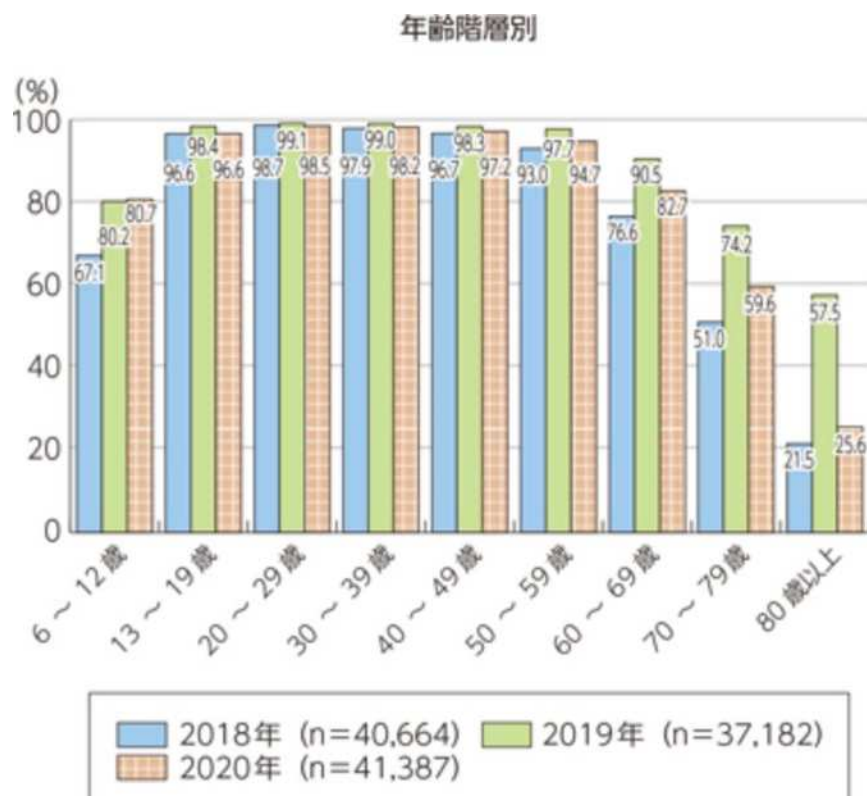


※当該端末を用いて過去1年間にインターネットを利用したことがある人の比率

[大きい画像はこちら](#)

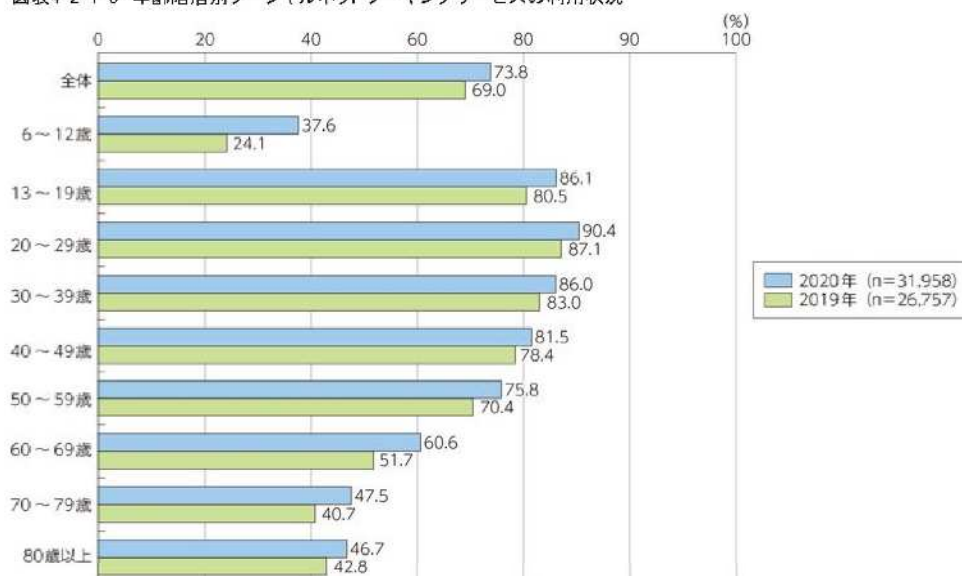
(出典) 総務省「通信利用動向調査」 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

図表4-2-1-5 属性別インターネット利用率²



(出典)総務省「通信利用動向調査」<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics03.html>

図表4-2-1-8 年齢階層別ソーシャルネットワーキングサービスの利用状況



[大きい画像はこちら](#)

(出典)総務省「通信利用動向調査」<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics03.html>

「図表4-2-1-8 年齢階層別ソーシャルネットワーキングサービスの利用状況」のExcelはこちら / CSVはこちら

北九州市DX推進計画 デジタル・デバйд対策

令和4年5月19日
北九州市デジタル市役所推進課

DX推進計画におけるデジタル・デバйд対策

取組の方向性

- ◆使い方の支援などデジタルを意識しない環境醸成
- ◆スマートフォン活用を後押しする取組を行う
- ◆個人ごとの理解度やニーズに応じた学習の場を幅広く市民に提供する
- ◆高齢者等のデジタル技術習得を支援する地域人材を育成する
- ◆市民のインターネット利用率向上を目指す

取組内容

- ◆普及啓発
- ◆初心者向け講座、相談会
- ◆国事業との連携
- ◆地域人材の育成
- ◆インターネット接続環境の充実



令和3年度デジタル活用講座

スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に、スマートフォンの基本操作等を体験する講座を実施

【実施概要】

実施場所：市民センター25館
 実施回数：25回（90分の講座を1館につき1回実施）
 受講者数：計248名
 講師：株式会社ドコモCS九州
 講座内容：スマートフォンの基本操作、スマートフォンの詐欺について
 インターネットの使い方（音声検索、QRコード読み取り等）
 便利なアプリの紹介、防災情報の取得方法等



令和3年度デジタル活用相談会

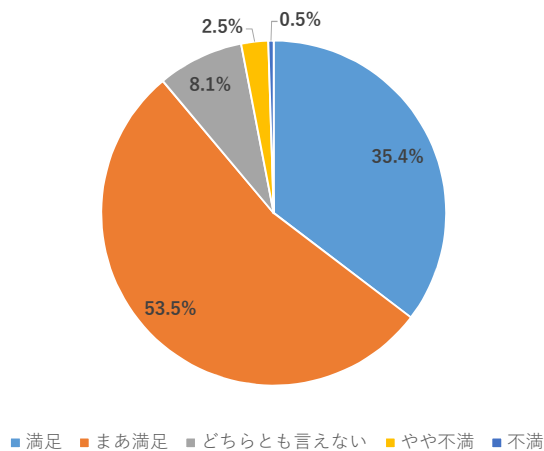
スマートフォンに関して疑問や不安を抱えている方を対象に、個々に相談を受け付ける相談会を実施

【実施概要】

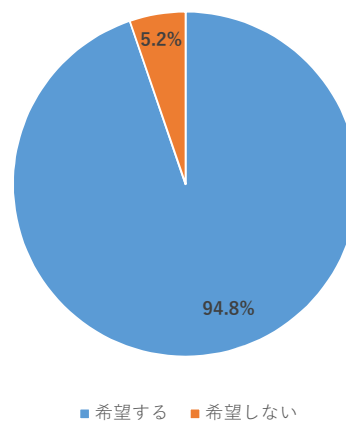
実施場所：リバーウォーク北九州「Q-station」
 実施回数：計3回（11:00～17:00）
 相談者数：計26名
 相談員：株式会社ドコモCS九州
 相談内容：スマートフォンの基本操作、メール・LINE等の使い方
 マイナンバーカードの申請方法、オンライン予約方法等



講座の満足度

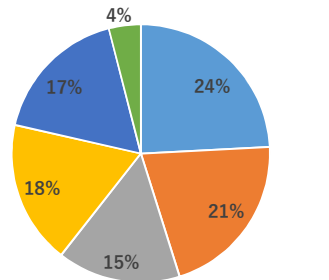


次回の参加希望



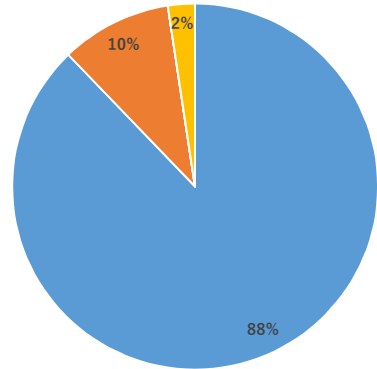
令和3年度デジタル活用講座・相談会のアンケート結果

今後できるようになりたいこと



- 電話、メール、LINEでの連絡
- 天気やバスの時間などの調べもの
- 決済アプリを使って買い物の支払い
- インターネットでの買い物等

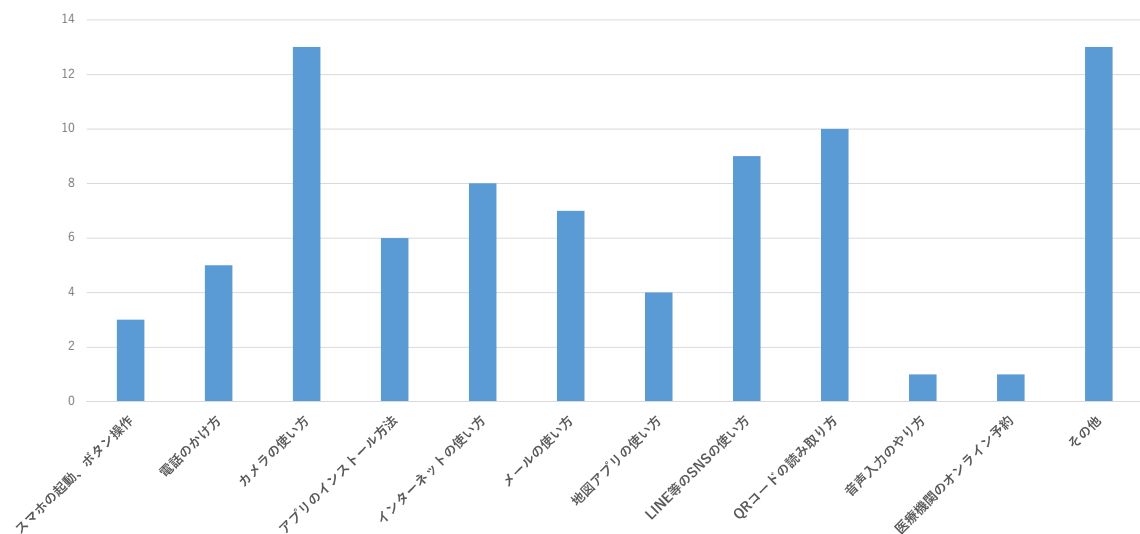
相談会の満足度



- 満足
- まあ満足
- どちらでもない
- やや不満
- 不満

令和3年度デジタル活用相談会のアンケート結果

相談内容



令和4年度デジタル活用講座

【実施概要（予定）】

実施場所：市民センター30館
 実施回数：30回（90分の講座を1館につき1回実施）
 実施期間：令和4年8月頃から令和5年3月まで
 受講者数：各回10名程度
 講座内容：スマートフォンの基本操作、スマートフォンの詐欺について
 インターネットの使い方（音声検索、QRコード読み取り等）
 便利なアプリの紹介、防災情報の取得方法等



令和4年度は「テレビ電話体験」を講座に追加予定

- ご家族等とのコミュニケーション醸成を支援
- リモート窓口等の活用を支援

令和4年度デジタル活用相談会

今年度も同様に相談会実施を予定しているため、内容について検討を行っている

全市民センターへモバイルWi-Fiルーター整備

一般社団法人北九州ネットワークスから130台を無償提供いただき、来館者用に活用予定



企救丘市民センター「デジタル化への対応」に関する取り組み ～コロナ禍での地域づくりとコミュニケーションのあり方～

北九州市立 企救丘市民センター
館長 安倍ゆかり

- 1 オンライン講座
 - ・ ZOOM 講座や動画編集講座で学んだスキルを活かし、オンライン講座を開催！
 - ① 陶芸講座（令和2年11月28日）
 - ② ズンバ講座（令和2年12月5日）
 - ③ 雪印骨カルシウム講座（令和3年10月20日）
- 2 オンラインを使う上での問題点について
 - ・ デジタル・デバイド／情報格差
- 3 「2021 おしゃべりするカフェ」
 - ・ スマホ講座の開催
- 4 スマホカフェ（スマホのよろず相談）
 - ・ スマホ講座終了後、職員が教えるスマホカフェを開設
 - ・ 令和4年4月より毎週水曜日開催
- 5 その他の取り組み
 - Youtube やホームページを利用した活動
 - ・ 多くの人を集められない状況ではあるが、学びや活動を止めない方法を考える
 - ① 人権地域別研修会
 - ② 子育て支援・きくがおかオリジナル絵本を毎月アップ
- 6 今後の取り組み・課題
 - ・ デジタル人材育成（学生・シニア世代の地域参加）

企救丘市民センター 「デジタル化への対応」に関する取り組み

～コロナ禍での地域づくりとコミュニケーションのあり方～

企救丘市民センター館長 安倍 ゆかり

令和4年5月19日(木)

- 1 オンライン講座
- 2 オンラインを使う上での問題点
- 3 2021おしゃべりするカフェ
- 4 スマホカフェ(スマホのよろず相談)
- 5 その他の取り組み
- 6 今後の取り組み・課題

企救丘校区

- 人口 12,662名
- 世帯数 5,807世帯 —令和2年9月—
- 高齢化率 29.9%(北九州市31%)
- 企救丘小学校 692人
- 志徳中学校 598人
- 4月 志井川の桜がとてもきれいな校区
- スローガン 「声かけて子どもの育つきがおか」
- 子育てしやすい街を目指す



1 オンライン講座

令和2年1月から市民センター活動がストップ..
職員がZOOM講座や動画編集講座で学んだ
スキルを活かし、オンライン講座を開催！

①令和2年11月28日

②令和2年12月 5日

③令和3年10月20日

陶芸講座

ズンバ講座

雪印骨カルシウム講座

① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう 「陶芸講座」



① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう 「陶芸講座」

・オンライン講座参加 ・ヒアリングシート

- ・ ご自宅にインターネットができる環境はありますか？
- ・ ご自宅にWi-Fiはありますか？
- ・ オンライン講座で使用する機器を教えてください。
- ・ 「パソコン」とお答えした方にお聞きします。カメラとマイクはついていますか？
- ・ ※カメラとマイクが無くても参加はできます。(ズンバ)陶芸はカメラとマイク必要

① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう
「陶芸講座」

・講師のリハーサル



① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう
「陶芸講座」



② コロナによる運動不足解消のため
「ズンバ講座」



② コロナによる運動不足解消のため
「ズンバ講座」



③ 企業と地域をつなげる
「雪印 骨カルシウム講座」



③ 企業と地域をつなげる
「雪印 骨カルシウム講座」



2 オンラインを使う上での問題点

- ・「高齢化」と「デジタル化」が同時に進行する社会
- ・コロナ禍でネットに不慣れな人たちが取り残される

デジタルデバイド／情報格差

- ・ コロナ禍で高齢者の方が社会的孤立に陥る人が多いのは若者に比べてSNSやインターネットを利用する人が少ないことが背景にある

* 東京都健康長寿医療センター研究所の全国調査より

- ・ 令和3年5月、コロナワクチン接種予約時の混乱と情報格差解消の必要性

3 「2021 おしゃべりするカフェ」

・令和3年度 シニア対象のスマホ講座開催

ドコモ・・・6/25、7/16、7/30、10/15、10/22、11/19
11/26、12/10、12/17

元気にGOGO!生き生きスマホ講座・・・10/11、10/4

ソフトバンク・・・1/21、1/28、2/4、2/18

計15回開催！令和4年度も開催予定

4 スマホカフェ(スマホのよろず相談)

令和3年9月より毎週水曜日

職員が教える「**スマホカフェ**」開催！





5 その他の取組み

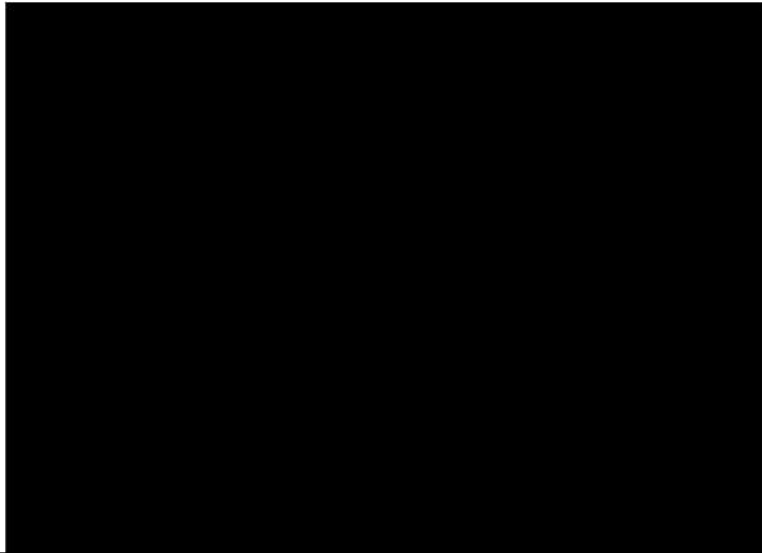
Youtubeやホームページを利用した活動

① 人権地域別研修会

② 子育て支援・・・

きくがおかオリジナル絵本を毎月アップ

② 子育て支援・きくがおかオリジナル絵本
令和2年10月より 毎月1話 アップ



6 今後の取り組み・課題

・デジタル人材育成・

学生・シニア世代の地域参加

高齢者のスマホ利用者を増やすと共に、
学生のデジタルスキルを地域活動へ取り込む

デジタル人材育成(学生の地域参加)

- ・令和3年10月に北九州市立大学の学生が主催の「きっかふえ」を開催
- ・学生が民生委員、青パト、地域防災、環境活動をテーマに地域課題の解決を地域住民といっしょに探った



デジタル人材育成(学生の地域参加)

- ・学生のキャリア教育
- ・地域活動が若者の目から見たらどのように映っているのかという情報収集にもなる
- ・地域の方々が自然とオンライン体験をしている、**これが重要！！**



デジタル人材育成(シニア世代)



6 今後の取り組み・課題

・高齢者がインターネットやスマホを正しく使用し、
トラブルに巻き込まれないために

デジタルリテラシーをいかにして高めるかが課題



市民講座「ともがき」講座から市民活動への展開

～THE SDGs！市民活動者を育て・つなげて、地域を活性化する館長の取り組み～

北九州市立 西門司市民センター 館長 渡辺 いづみ

1 生涯学習市民講座「ともがき講座」について

大学生と 30 代～80 代の参加者が「共に学び、共に書く」を合言葉に「人生を書き残すことの意義や（聞き書き）ボランティアの重要性」を学ぶ市民講座。

門司は昭和 20 年に空襲、28 年に大災害の被害に遭っている。また戦時中は、多くの兵隊が門司港から戦地へ向かうという兵隊宿营地としての歴史もある。

戦災、水害などを含めた証言記録(自分史)をまとめることにより、新しい「地域史」を誕生させ、市民の関心を地域に向けさせ、新しい地域活動に参加する動機付けを促した企画。

【ともがき講座の展開・連鎖】

- 1 令和 2 年 9 月：聞き書き講座（全 3 回）を開始。その後、自主活動へ移行
- 2 令和 3 年 6 月：証言集「聞き書きでのこす門司の記憶 未来への伝言」発刊
- 3 令和 3 年 8 月：世代間の交流を図る“地域で育もう「未来の種」”事業につなげる
- 4 令和 3 年 8 月：戦没者慰霊祭を開催（令和 4 年 8 月に第 2 回慰霊祭を開催）

2 世代間交流で未来へバトンを渡す取り組み

“地域で育もう「未来の種」”：西門司たんけん隊 「じーもクラブ」（全 5 回）

昭和 11 年開校当初から歌い継がれてきた「西門司小学校校歌」の歌詞に、校区の人々の誇りや願いが込められていることに着目。歌詞の意味を理解し、自分が生まれ育った土地の歴史・地形の特徴・河川の環境を知るために、実際に歩いて「見て・聞いて・感じる」ことを企画したもの。

3 渡辺館長のプロフィール

平成 20 年東朽網市民センター館長に着任。22 年「朽網の郷土史を語る会」を結成し、小倉南区朽網周辺の遺跡、史跡の調査・研究活動を開始。平成 25 年に北九州市市政 50 周年事業の一環で、郷土史「ふるさと朽網今昔」を発刊。25 年平野市民センター館長着任。26 年八幡大空襲を聞き書き記録する活動を開始し、聞き書きボランティア「平野塾」を結成。その後、平和学習への出前講演に大空襲体験者を派遣する事業や語り部同窓会などの交流活動へと展開しつつ活動を継続中。平成 30 年西門司市民センター着任。

4 西門司市民センターのその他取り組み

- ・平和教育の取り組み：家庭教育学級で戦争証言を漫画化した男性の講演会を開催
- ・チャレンジウォーキング（3 か月のウォーキングキャンペーン）：歩数報告することで運動の習慣化につなげる取り組み



9月西門司

市民センターだより

＜北九州市立西門司市民センター＞

〒800-0048 北九州市門司区稲積1丁目3-1
TEL・FAX (093)381-4927
Eメール: dn-cc@ktqc02.net
HP: www.ktqc01.net/moji/dncc/
発行責任者: 渡辺 いづみ



西門司市民センター文化祭(展示部門)

文化の薫る 西門司作品展

11月3日(祝)、4日(金)、5日(土)

西門司市民センター 多目的ホール 他

昨年同様、今年も作品の展示会として開催することになりました。

西門司市民センターで活動続けるクラブの方々や西門司地区にお住まいの方々による作品の展示をします。

文化の秋を皆さんと鑑賞できる催しを予定しています。

主催：西門司市民センター・クラブ協議会

★詳しくは10月の臨時号にてお知らせいたします★

作品展示のみ
ステージ発表は
12月3日予定

地域の方の 作品募集中です！

「西門司作品展」に
あなたの作品を
出展してみませんか？

お手持ちの作品で
絵画・写真・手芸品など

必ず事前にお電話で
お申し込みください！

申込締切り 10月14日(金)

お問い合わせは西門司市民センターまで

9月《行事予定》

現在ほとんどの行事は『事前予約制』です
ご来館前にお問い合わせください

7	水	親子サロン・あひるの会♪	10:00～12:00
16	金	子育て支援「ちひろば」	10:30～12:00
22	木	妊産婦・乳幼児なんでも相談	13:30～15:00
30	金	健康相談	12:00～13:00
30	金	西門司スマイルスクール(高齢者サロン)	13:00～14:00

申込み・お問い合わせは

西門司市民センター 381-4927



結果発表 チャレンジウォーキング

主催：西門司校区まちづくり協議会
地域でGO!GO!健康づくり委員会

記録表提出者数

112名

今回もたくさんのご参加ありがとうございました！

歩数ランキング

1位	2,124,804 歩	73 歳男性
2位	1,781,127 歩	50 歳女性
3位	1,601,578 歩	83 歳男性
4位	1,587,974 歩	67 歳女性
5位	1,567,862 歩	72 歳男性

第3回目のウォーキング
キャンペーン(3カ月間)
が終了しました。
記録することが張り合いになり、とても楽しい
とお声を多くの方からいただきました。

第4回目は10月からキャンペーンを実施する予定です！！
その際はぜひご参加下さい

最高齢で
頑張ったお二人に若さの秘訣も
インタビューしてみました！

男性最高齢

92 歳

乾 信夫さん
1,216,311 歩

毎朝4:30に起床しウォーキングをしています。その後公園で皆さんとラジオ体操をして帰宅。

健康の秘訣は…

- ・適度な運動をすること
- ・十分な睡眠をとること
- ・食事は量を決めて正しくとること

乾信夫さんが趣味で撮られた写真パネルを
西門司市民センターロビーにて展示しています。

お立ち寄りの際はご覧下さい。



GOGO 西門司
チャレンジウォーキングも3回目
が終わりしましたが、お陰で気が付けば
習慣になりました。
一日一万歩を目指しているので出掛
ける時は必ず歩数計をポケットに！！
自分自身の健康の為に頑張っています。

女性最高齢

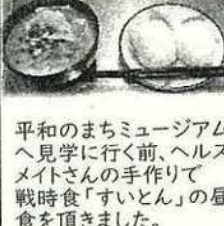
87 歳

安藤セツ子さん
975,440 歩



R4年度 夏休み特別子ども講座

「**じーもクラブ**」この夏は、北九州市にオープンした2つの施設を通して「科学」と「平和」をテーマに学習しました。
先ず市民センターで事前学習をしてから施設へ電車やバスで向いました。

第1回目 スペース LABO 【科学】 Science	7月27日(水) 参加者 子ども 15名 大人 8名	第2回目 平和のまちミュージアム 【平和】 Peace	8月3日(水) 参加者 子ども 17名 大人 9名 学生ボランティア 6名
泉 優佳里さん(科学技術コミュニケーション研究所)を講師に迎え、「フシギ」と思う気持ちが「科学の入口」だと学び、ワクワクしながら LABO へ出発!!	科学と平和は隣合わせ。 兵器の開発という「科学の視点」と「平和とのつながり」を子どもたちと共に勉強しました。	 元西門司職員の松山道子さんから門司の戦争の説明を受け、八幡大空襲・小倉造兵廠についても座学で事前学習。ミュージアムでは西門司オリジナルのクイズを解きながら、さらに深く理解することができました。	戦争と市民の暮らしのコーナーでは、すごろく遊びや一升瓶での米搗きを体験! 「昔はご飯を食べるのにこんなに大変だったんだね」「ラジオを見てこの箱なあに?」という声も聞こえてきました。
 この絵本で事前学習をしました ジョナ・ウィンター 文 ジャンネット・ウィンター 絵	1943年3月、アメリカが莫大な資金を投じて原爆の研究開発を極秘に行ったマンハッタン計画。 完成した爆弾の投下により、日本は唯一の被爆国となりました。	 この計画はひみつです	
		2回講座を終え、子どもたちは絵日記を書きました。 印象に残ったトルネード(竜巻)発生装置やプラネタリウム。八幡大空襲の360度パネシアターの迫力などが伝わります。	
 平和のまちミュージアムへ見学に行く前、ヘルスメイトさんの手作り「戦時食「すいとん」」の昼食を頂きました。			

子育て支援事業

ちひろば

9月16日(金)

10:30~12:00

参加費:無料

場所:西門司市民センター 多目的ホール

対象:未就園児のお子さんと保護者 10組

内容:新聞紙を使った色々な遊び

準備するもの:汚れてもよい服・タオル

水分補給できるもの

申込み受付 9月1日 10:00~ 西門司市民センターまで

主催:西門司校区まちづくり協議会・西門司市民センター

親子サロンなどの参加は初めて...
という方も大歓迎



【9月9日に終了します!!】

市民センターワクチン予約専用
窓口設置期間のお知らせ

◆令和4年9月9日(金)まで

【問い合わせ先】※コールセンターでも予約できます。

北九州市コロナワクチンコールセンター
0120-489-199 (全日9時~17時)

令和4年度 門司区

子育てサポーター養成講座

子育てサポーターとは、お住いの地域の市民センターで親子の見守りなどをするボランティアです。無理せず楽しみながら、一緒に活動してみませんか。

・日程:11月1日~29日(毎週火曜日・全5回)
10:00~12:00

・申込開始:9月20日(火)~※定員になり次第受付終了

・会場:門司区役所大会議室・門司生涯学習センター

・定員:15名程度・受講料:無料

申込み・問合せはお電話で TEL:093-331-1883

門司区役所コミュニティ支援課 生涯学習係担当:吉富・西

門司区 食生活改善推進員養成教室のお知らせ

食生活改善
ボランティア
募集!

食生活改善推進員(通称ヘルスメイト)とは、地域のみなさんの食を通じた健康づくり活動を進めるボランティアです。



◆対象 教室修了後、食生活改善のボランティア活動ができる方
◆日程 【全7回】概ね月1回 9:30~12:00(調理実習時は13時まで)
令和4年 10/28, 11/10, 11/25, 12/23
令和5年 1/27, 2/17, 3/3

◆会場 門司区役所(門司区清滝1-1-1)ほか
※調理実習時は門司区役所別館(門司区清滝3-5-5)

◆内容 食と健康に関する講話、調理実習など

◆費用 無料(※教室修了後、食生活改善推進協議会への入会時に年会費が必要)

◆募集 先着8名

◆申込み方法 9月5日(月)からお電話でお申込み下さい。

◆申込み・問合せ先 門司区役所保健福祉課 担当:栄養士 TEL331-1888

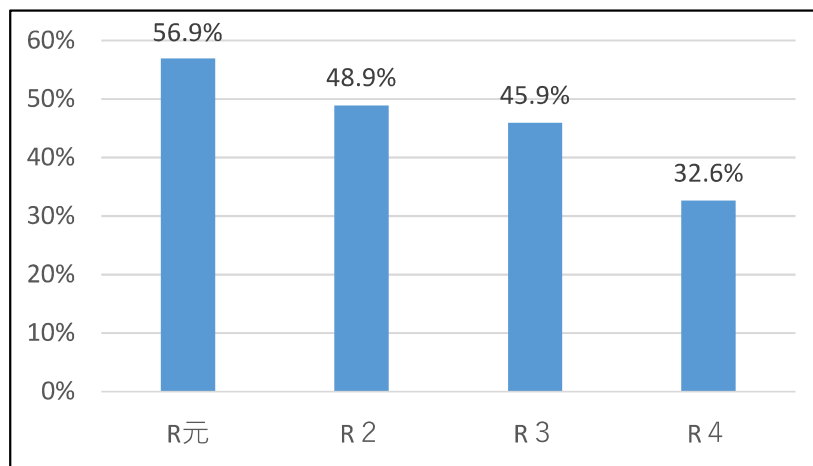


令和5年1月24日（火）

1 市政モニターアンケート生涯学習に関する意識調査結果

北九州市民である市政モニター150人に対し実施したアンケート調査から抜粋して、令和元年度から令和4年度までの経年変化をまとめた。

- (1) 過去1年間に学習活動（スポーツ、文化、趣味、レクリエーション、ボランティア活動、知識や技術を身につけたり、教養を高めたりすることなど）をした人の比率



(1)－1 学習活動を行った理由

（選択肢は「その他」を含め11、3つまで回答可）

上位3位の経年変化

	R元		R2		R3		R4	
1位	教養を高めるため	37.2%	趣味を深めるため	47.0%	教養を高めるため	41.0%	教養を高めるため	46.7%
2位	健康・体力づくりのため	35.9%	健康・体力づくりのため	43.9%	趣味を深めるため	39.3%	健康・体力づくりのため	40.0%
3位	趣味を深めるため	32.1%	教養を高めるため	36.4%	健康・体力づくりのため	29.5%	趣味を深めるため	33.3%

(1)－2 学習活動を行った場所・施設

（選択肢は「その他」を含め17、3つまで回答可）

上位3位の経年変化

	R元		R2		R3		R4	
1位	市民センター	37.2%	市民センター	34.8%	自宅	44.3%	自宅	44.4%
2位	自宅	23.1%	自宅	31.8%	市民センター	37.7%	市民センター	26.7%
3位	男女共同参画センター	19.2%	生涯学習(総合)センター	18.2%	生涯学習(総合)センター	18.0%	生涯学習(総合)センター	15.6%

※ R4年度「その他」(11.1%)には、「職業訓練学校」や「WEB」という意見があった。

(2) 今後新しく、あるいは今後も引き続いて学習活動したい内容

(選択肢は「その他」を含め12、3つまで回答可)

上位3位の経年変化

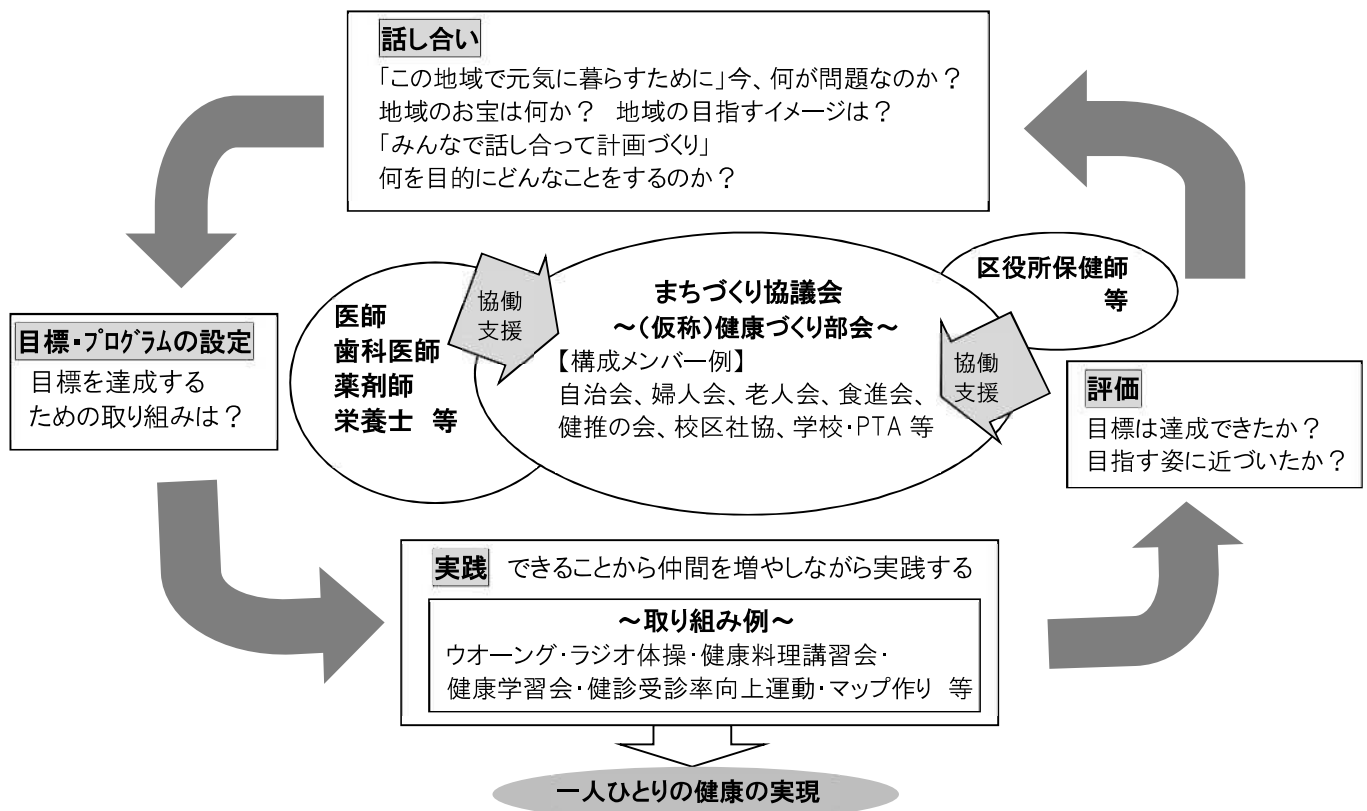
	R元		R 2		R 3		R 4	
1位	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	49.6%	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	45.9%	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	37.6%	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	35.5%
2位	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	40.9%	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	40.0%	教養的なもの（文学・歴史など）	34.6%	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	32.6%
3位	教養的なもの（文学・歴史など）	27.7%	教養的なもの（文学・歴史など）	30.4%	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	31.6%	職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得、機械、IT関連など）	23.2%

2 「地域で GO ! GO ! 健康づくり」事業について（保健福祉局健康医療部健康推進課所管事業）

市民センター等を拠点として、市民が主体となって、地域の健康課題について話し合い、目標設定、計画づくり、実践、事業評価を一つのサイクルとした健康づくり事業を、まちづくり協議会が健康づくり推進員の会、食生活改善推進員協議会と連携し、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、行政（保健師等）などの協力により行うもの。

平成16年度から事業開始し、令和4年度は全まちづくり協議会137団体中、133団体が実施している。

事業のイメージ



具体的な活動

まちづくり協議会	健康づくり推進員の会等	地域の医療機関・薬局（医師会・歯科医師会・薬剤師会等）	行政（保健師等）	保健・医療・福祉・地域連携推進協議会
- 健康づくり部会等の立ち上げ - 話し合いの開催、健康づくり活動の主催	- 住民へ活動参加の呼びかけ - 健康づくり活動の企画・実践の協力	- 専門的立場からの助言 - 健康学習会の講師	- 部会等の立ち上げ、話し合いの開催支援 - 健康データ・健康課題などの情報提供 - 健康づくりの実践支援 - 関係団体との調整	区の関係団体との情報共有

3 北九州市健康づくり活動表彰（保健福祉局健康医療部健康推進課所管事業）

市内企業や地域の活動団体が行う、従業員やその家族、地域住民の健康増進につながる先進的・効果的な取り組みを表彰し、活動内容を広めることで、個人の健康づくりを支える社会環境を整備していくこととしている。毎年度、企業部門、地域団体部門への応募者から、それぞれの部門で、表彰企業・地域団体（市長賞・優秀賞・健康づくり活動賞）を決定する。

【ニュースポーツ例】

1 ペタンク

南フランス発祥のペタンクはヨーロッパを中心に世界中で親しまれ、日本でも 40 万人以上がプレーしている。ビュットという目標球に金属製のペタンクボールを投げ合い、相手のボールより近づけることで得点を競うニュースポーツ。使用する道具は違うが、ルールは後述のボッチャと似ている。砂地や芝生の上でもプレーできる他、シンプルなルールなので誰でも楽しめる。

2 ドッジビー

人数：1 チーム 13 人

ボールの代わりに、布製のフライングディスクを使用するドッジボール形式のニュースポーツ。

内野と外野の配置人数は自由で、決められた時間内に相手チームよりも多くのプレーヤーが内野に残っていたチームが勝利となる。

3 ボッチャ

パラリンピックの正式種目になっているボッチャは、目標球に向かって色球を近づけられるかを競うニュースポーツ。色球を投げられない場合には、ランプという道具を使って楽しめる。運動量は控えめなので、適度に体を動かして運動不足を解消したい人にもおすすめ。各自治体や小中学校の体育館などで競技ができる。

4 グラウンドゴルフ

ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールインするまでの打数を競う種目。距離やホールポストの数を自由に設定可能で、ルールも簡単である。スタートマットとホールポストを設置するだけで準備完了。プレーヤー数や時間も無制限、審判は自分自身という自由度の高いニュースポーツで、老若男女が楽しめる。

5 カローリング

カローリングは、オリンピック競技にもなっているカーリングからヒントを得て、日本で考案されたニュースポーツである。誕生したのは 1993 年と歴史は浅いが、子どもから高齢者まで気軽に楽しめ、全国で親しまれている。カローリングは体育館や公民館など、室内で楽しむので天候に左右されない。言うなれば、室内のカーリングというところ。

6 ディスコン

杉やヒノキの間伐材を輪切りにしたクラフト用のコースターをヒントに 1997 年（平成 9 年）に岡山市立少年自然の家で発想された、日本生まれのニュースポーツである。

円盤（ディスク）を、操作（コントロール）することからディスク・コントロールを合成して「ディスクコン」と命名された。赤と青の 2 チームに分かれて、1 チーム 6 枚の円盤を投げ、どちらがポイントに近づいているかを競う簡単なスポーツのため、初めての方でもベテランと対等に競技を楽しむことができる。

北九州市民スポーツ大会の競技にもなっている。

4 地域で活躍する人材（学びと活動の環）

（１）健康づくり推進員

- ・まちづくり協議会、市民センター館長、健康づくり推進員等からの推薦を受け、「北九州市健康づくり推進員養成研修」を修了した者（健康づくり・介護予防に関する知識や技能を修得し、地域での健康づくりボランティアに取り組む人材を養成）
- ・保健師やまちづくり協議会等と協働し、市民センター等で地域における健康づくりを推進しているボランティア。養成研修修了後もフォローアップ研修等に参加し、健康意識を高めながら、地域と行政が一体となって行う住民主体の健康づくりを推進している。
- ・令和4年6月1日現在 669名の登録（北九州市健康づくり推進員の会）。

（２）スポーツ推進委員

- ・スポーツ推進委員はスポーツ基本法（第32条）に定められており、地域スポーツの中核的役割を担うことが期待されている。地域のスポーツ・レクリエーションに関する行事の企画・立案、運営及び指導を行う。さらにニュースポーツの普及・振興などを行うため、市及び区単位に協議会を設置して、スポーツ振興のための研究協議、関係との連絡調整を行っている。
- ・スポーツ推進委員は市から委嘱された非常勤職員でまちづくり協議会の推薦による。各校区にほぼ2名配置し、全265名（令和4年4月1日現在）。各地域の実情に合わせ、活動している。
- ・北九州市スポーツ推進委員協議会は、各種委員会を組織し、年2回の広報誌発行を初め、全国・九州・福岡県で開催される研修大会に委員を派遣するなど資質の向上に努めている。

（３）食生活改善推進員（ヘルスマイト）

- ・市が開催する「食生活改善推進員養成教室」を修了し、自らの意思で会員となった者で構成される。令和4年度会員数は1,137名、愛称は「ヘルスマイト」。
- ・スローガンは「私たちの健康は私たちの手で」
- ・「ふれあい昼食交流会」「食生活改善推進員による訪問事業」「減塩普及講習会」「健康料理普及講習会」「おやこの食育教室」「男性料理教室」など、地域等と連携を図りながら健康づくり事業や食育事業にも積極的に取り組んでいる。
- ・平成30年8月に「健康(幸)寿命プラス2歳 北九州サミット」、「ふくおか健康づくり県民会議」に参加し、健康寿命の延伸に向けて食を通じた健康づくりに主体的に取り組んでいる。

5 ニュースポーツについて

ニュースポーツとは、技術やルールが比較的簡単で、だれでも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として、新しく考案・紹介されたスポーツである。その数は数百種目以上あり、一般的に、競い合うことよりも誰もが楽しめることに主眼がある、といわれている。

【具体的な魅力】

1 やさしいルール

最大の特徴は、ルールがやさしく初心者でも楽しめること。なかには、オリンピック競技にもなっている本格的なスポーツをベースに、ルールを変えてニュースポーツとして広まっているものもある。

2 だれでもできる

子どもからお年寄りまで、参加可能な年齢の幅が広いことも特徴。運動量を参加者自身が調節できるものも多く、自分の体力と相談しながら楽しめる。激しい運動を要求しない種目が多いので、運動が苦手な人や、普段あまり運動をする機会がない人にもおすすめである。



令和5年1月24日（火）

地域の課題を地域で考え、地域で解決する

～二つの柱で取組む地域の健康づくり活動～

北九州市立 沢見市民センター 館長 吉弘 清美

1 沢見地区の特徴について

沢見地区は戸畑区のほぼ中央に位置し緑豊かな住宅街である。新旧の商店が点在し、大型医療施設をはじめとした各種の医療施設もあり、また九州工業大学を始めとする学校等に囲まれている。近年代替りが進み、新築の戸建てやマンション建設も多数行われている。

2 沢見まちづくり協議会の活動

（１）地域の活動主体としての役割：地域の課題を地域で考え、地域で解決する

（２）健康づくりに関わる主な団体

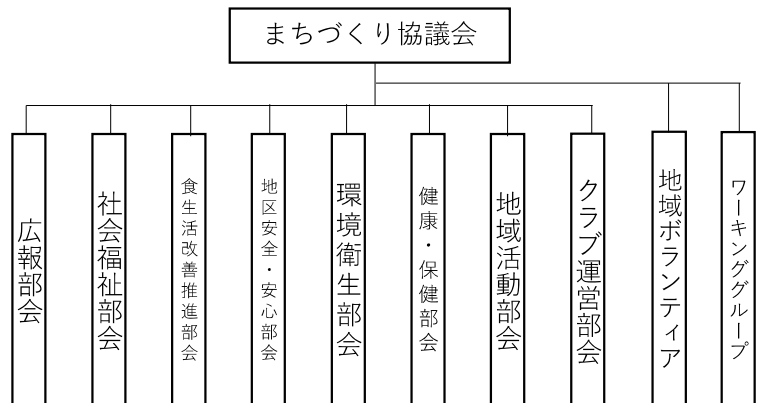
① 健康・保健部会：

まちづくり協議会役員・健康づくり推進員・スポーツ推進委員・北沢見地区友親会・南沢見地区八千代会・社会福祉協議会・地域推薦、まち協推薦の委員・市民センター

② 食生活改善推進部会：

食生活改善推進員協議会

③ 沢見いちご講座（生涯学習市民講座）：戸畑リハビリテーション病院・市民センター



3 一つ目の柱：地域でGO！GO！健康づくり事業

市民センター等を拠点として、市民が主体となって、地域の健康課題について話し合い、目標設定、計画づくり、実践、事業評価を一つのサイクルとした健康づくり事業を、まちづくり協議会が健康づくり推進員の会、食生活改善推進員協議会と連携し、行政（保健師等）などの協力により行うもの。沢見地区は、戸畑区でいち早くモデル事業として「健康づくり」に取り組み、活動を展開してきた。平成27年度北九州市健康づくり活動表彰「市長賞」を受賞している。

【沢見地区 健康・保健部会の取組み】・・・地域担当保健師との連携

- （１） 昨年度のPDCA サイクル図を検証し地域の実情把握を行う
- （２） 年間テーマの設定…減塩
「いつまでも このまちで 自分らしく イキイキと ～手をつなぐまちさわみ～」
- （３） WITH コロナを踏まえての活動計画と実行（感染予防対策の継続）
- （４） 地域担当保健師、看護師を交えての計画実行前の会議と後の振り返り

4 令和4年度沢見市民センターの健康に関する取組みと課題「PCDA サイクル図」



5 二つ目の柱：生涯学習市民講座 戸畑リハビリテーション病院と連携した“いちご講座”

地域の社会医療法人との連携により、様々なプログラムを通じて生活機能全般に関する低下予防を目的とし、市民センターに集うことで繋がりを持ち、引きこもりや孤立を防ぎ、生き生きとした日常生活を過ごす土台づくりとする講座。

令和元年度：沢見市民センタークラブ「沢見いちご会」は、高齢化が進み、自主運営が困難となる。

戸畑リハビリテーション病院が地域包括推進チームを立ち上げ、地域貢献を検討・相談

令和2年度：連携開始（センター職員、クラブ会員および法人との連携についての理解を得る）

コロナ禍により大人数で集まることが困難になり、外出自粛する方が増加。

令和3年度：戸畑リハビリテーション病院「広報課」の協力によるオンライン配信の実現

東戸畑市民センター（令和3年度北九州市健康づくり活動表彰「市長賞」受賞）への配信開始

令和4年度 沢見いちご講座

第2・4木曜日 13:30～15:00

沢見市民センター保管用



氏 名

	日 程	内 容	講 師	血 圧	出 欠
1	4月28日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
2	5月12日	フレイル講座 勝手にウォーキング説明会	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
3	5月26日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
4	6月9日	口腔ケア講座	戸畑リハビリテーション病院 歯科衛生士 坂本 匡子	／	
5	6月23日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 田中 麻衣子	／	
6	7月14日	住み慣れたまちでいつまでも	北九州市社会福祉協議会地域福祉部 戸畑区事務所地域支援コーディネーター 縄手 富美	／	
7	7月28日	風鈴づくり	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
8	8月25日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 岩切 秀文	／	
9	9月8日	オンラインダンス	北九州市立大学地域創生学群 大学生	／	
10	9月22日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 岩切 秀文	／	
11	10月13日	リハビリ栄養講座	戸畑リハビリテーション病院 管理栄養士 斎藤 由佳	／	
12	10月27日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
13	11月10日	在宅医療講座	戸畑リハビリテーション病院 看護師 森 久子	／	
14	11月24日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
15	12月8日	認知症予防講座	戸畑リハビリテーション病院 認知症ケア専門士 君原 啓雄	／	
16	12月22日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 原澤 勉	／	
17	1月12日	ACP/終活講座	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹 理学療法士 久保 貴照	／	
18	1月26日	詩吟	沢見市民センタークラブ 玄瑞会 講師 山本 俊一	／	
19	2月9日	お薬について学ぼう	戸畑リハビリテーション病院 薬剤師	／	
20	3月9日	看護師さんからのお話	戸畑リハビリテーション病院 看護師	／	
21	3月23日	振り返り会	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	

黄色はオンライン講座

6 沢見地区の課題と今後の取組み

（１）課題

- ・ 地域、スタッフの高齢化
- ・ コロナ禍での生活の質の低下、気力低下、フレイルの進行
- ・ 健康診断受診の周知、PR
- ・ 参加者の固定化（65歳以下特に児童の参加が少ない）
- ・ コロナ禍で近隣との触れ合いの欠如による運動不足

（２）今後の取組み

- ・ 世代間の交流を中心に、次世代につなぐ参加者を増やす
- ・ 児童と保護者が一緒に参加し活動できる内容を取り入れる
- ・ 声かけと誘い合いで、引きこもり予防活動を展開する
- ・ 簡単にできるニュースポーツを取り入れ参加者を増やす



令和4年11月27日に市民センターの「地域で育もう『未来の種』事業」が北九州市市政ラジオ番組「KITA9PR 部のキタナビ！」で特集されました。放送内容をご紹介します。

○市政ラジオ番組「KITA9PR 部のキタナビ！」「KITA9PR 部」とは
同世代にも北九州の魅力をもっと知ってほしい」との思いで集まった、18歳から20代の学生・社会人グループです。リスナーに本市の魅力や市政情報を伝えようと番組づくりに奮闘しています。



放送局：CROSS FM (FM：北九州77.0MHz)
毎週日曜日 あさ10時～(60分間)

※【聴き逃し配信は】

北九州市広報室広報課のホームページから過去の放送を聴くことができます。
市政情報>広報・広聴>市政テレビ・ラジオ>市政ラジオ番組「KITA9PR 部のキタナビ！」

【放送内容】（※読みやすいように一部加工・修正しています）

市民センターの挑戦、未来の種事業をテーマにお届けします。

PR 部 まず早速だけど、市民センターの印象って何かある？

PR 部 自分は小さいころ、クラブ活動でホールを使わせていただいたり、ダンスをやっていたんですけど、市民センターのイベントの文化祭でちょっと出演させていただいたりしていたので、すごい身近に感じていたという印象があります。

PR 部 僕は、小学生時代に、いきいきこども講座が市民センターであって。今は、こども食堂で、月に1回は市民センターへ行ってます。

（こども食堂のお手伝いを？）そう、ボランティアで、子どもの相手をする感じですね。

PR 部 頼もしいね。

私は、市民センターは聞いたことはあって、それこそ回覧版や市報などで市民センターの行事があっているのは見るんだけど。おもしろそうだなと思ってはいるけど、参加したことはなくて。

でも私のおばあちゃんが参加したり、というのはあるので、市民センターってご高齢の方が集う場所で若い人はあんまり縁がないんじゃないっていうイメージを持ってらっしゃる方がいるかもしれませんね。

そんなイメージが変わるかもしれない北九州市の取組みを今日はご紹介したいと思います。

スタジオにはゲストにお越しいただいています。

北九州市 生涯学習課 菅恒弘（すが・つねひろ）さんと、NPO 法人好きっちゃ北九州 代表 入門真生（いりかど・まさお）さんです。

どうぞよろしくお願いいたします。

そもそも北九州市には、どれくらいの市民センターがあって、どんな役割があるのか、教えてください。

菅 市民センターは市内に現在130館あり、おおむね小学校区に一つ設置されています。地域の自主的・主体的な地域づくり・まちづくり活動などの、地域活動の拠点のような施設になっています。先ほどお話に出ましたが、クラブ活動のような地域の方々の趣味や健康づくりなどの活動や地域での会議があったり、地域の歴史を学ぶような講座があったりと様々な活動が地域の方たちによって行われています。また、子育てサークルもありますので、親子で利用され

ている方もいらっしゃいます。

また、最近災害も増えてきていますので、災害時には避難所としても使われています。

PR 部 130館あるとおっしゃったと思うんですが。

菅 だいたい小学校区にひとつあるぐらいの割合で設置されています。

PR 部 え、北九州って、小学校が130あるんですか。

入門 133だと思います。133校の小学校がある。

PR 部 そうなんだ。すごい、そんなに多たって思ってた。

菅 最近は小学校が統廃合されたりしていることもあるので、小学校と市民センターの数は少し違ってきたりしています。

PR 部 結構地域に密着してあるんですね。ぜんぜん知らなかったです。

菅 ほとんどの方は、歩いて行ける距離に市民センターがあります。

PR 部 たしかに。私も徒歩5分しないぐらいであります。

PR 部 昔、市民センターは（家の）目の前でした。

菅 結構身近なところにあるのが市民センターですね。

PR 部 なるほど。

北九州市の市民センターでは、新たな取り組みとして、令和3年度から『地域で育もう「未来の種」事業』をスタートしています。「未来の種」って素敵なネーミングだなと思いますが、菅さん、どんな事業ですか？

菅 まずネーミングをほめていただき、ありがとうございます。

この「未来の種」事業ですけれども、少子化や地域コミュニティ意識の希薄化によって、地域での子どもたちの活動する機会がどうしても減ってきています。

そこで、「未来の種」事業は、子どもたちは地域の未来の重要な担い手でありますので、子どもたちの健全な発達・育成を目的に、市民センターが中心になって、子育て支援団体、NPO、企業の方々などと協力して、地域の方々と一緒に、世代間交流や体験活動を実施するという事業です。

普通の市民センターの事業では、市民センターの館長さんや職員さんが企画・運営しているのですが、未来の種事業は、NPO法人などの外部の団体が関わって、事業の企画・運営しているところが特徴的です。

PR 部 では、またちょっと新たな視点で、いろいろな活動をしているということになるんですね

菅 そうですね。なかなか普段では出来ないことに、外部の方たちがコーディネーターとして入って、実施するというのが、新しい取り組みの一つとして考えています。

実際どのような内容が展開されているのか気になります。令和 4 年度は如何ですか？

菅 今年度は 20 カ所の市民センターで事業が展開されています。

具体的には、「野外活動やスポーツ、演劇といった体験活動」、「紫川や若戸大橋といった地域の資源を使った学習や体験」「地域の人へのインタビューやまち歩きをして地域の歴史の掘り起こし」、「高齢者の見守り」など。

買い物難民ってご存知でしょうか、近くで買い物をする場所がないというような、地域によって課題があって、そういう環境問題や防災といった地域が抱える課題をテーマにして、地域のことを学んだり、体験したりということを、子どもたちだけでなく地域の方々と一緒になって実施されているものが多いですね。

PR 部 活動内容も幅広いですね。

菅 そうですね。コーディネーターさんが関わることによって、普段の市民センターではなかなか体験できない学習ができるようになっていきます。

実はその中には、地域の方々だけでなく、大学生の方も関わっていただいている事業もあります。

「未来の種」事業で連携する心強い団体の 1 つが、「NPO 法人好きっちゃ北九州」です。代表の入門さん、どのような理念のもと活動している団体ですか？

入 門 ぼくたち「NPO 法人好きっちゃ北九州」は名前のとおり、北九州を好きになってほしいという思いで活動しています。

北九州を好きになってほしいといっても、まさに今の話のように、市民センター単位の小さなまち、自分のまちを好きになってもらうという活動をしています。本当にローカルな、ローカルな、子どもたちの生活範囲でみるような自分のまちを好きになってほしいという活動がメインです。だから、僕たちの活動は市民センターへ行って、地域の方たちと一緒に活動するということになっています。

「NPO 好きっちゃ北九州」さんの Facebook を見せてもらいましたが、防災や郷土愛、さらに、今必要だと思われるテーマについて、市民センターを中心に活発に活動されていることがわかりました。活動報告の内容からも、メンバーの皆さんは、地域や子供たちに対する熱い気持ちが伝わってきますが、皆さんどんなお気持ちで活動されていますか？

入 門 僕たちは、本当にいろんなまちに行かせていただいて、自分の地元ではないまちで活動している、いわゆる外部者としてそのまちに入っていくわけですけども、ぼくたちがメインパーソンにならないように、地域のみなさんが主役になるように、その地域のこどもたちが主役になるように、いわゆる支援する形

を基本だと思ってやっています。いろんなまちに行って、出迎えていただいて、一緒に活動する中で、僕たち自身も第二、第三のふるさとがどんどん増えていくみたいな感覚で、本当に北九州の広がり、深まりをいつも感じて、楽しくやっています。

PR 部 地域の人たちが主役ってすごくいいなと思う。自分たちがその地域をつくっていくというイメージに繋がっているのかな、そこが自分もすごくやる気になるなと思いました。

PR 部 たしかに。

入 門 そうなんですよ。子どもたちにこのまちを好きになってほしいという活動をする中で、僕たちが行って、それを聞き出していったって、それってすごいじゃないですかと地域の人に言って、それを子どもに教えてやってください、とけしかける。わざわざ地域のおじちゃんが子どもたちに言うきっかけがないから、僕たちがつなぎ役にやっていくという感じです。防災にしてもそうですけども、ぼくが子どもたちに教えることはなくて、地域の人から教えていただくという感じです。

PR 部 たしかに、自分が住んでいる地区、地域をどんどん知っていくことや愛していくことができそうだなって思いました。そういうのが大切ですよ。

この番組では必ずオープニングで宣言していることがあります。それが「KITA9PR 部の私たちと一緒に、北九州の魅力をたーっっぱり知ってもらって、北九州が大好きな人をどんどん増やしていきたいと思います！」です。「未来の種事業」に関わられているお二人は、北九州市の魅力をどのように感じていますか？

菅 実は私は今年 3 月まで観光課にいたので、観光課の職員という感じで言いますと、市の魅力というと「日本新三大夜景」でランキング 1 位になった夜景や小倉城や門司港といった歴史と言いたくなるのですが……。今日は違った観点で。

私は、この「未来の種」事業で今日いらっしゃった入門さんのような素敵な活動をしている方たちがたくさんいることがこのまちの魅力と考えています。私もこの事業を通してそのような方たちと知り合う機会が増えて、それが北九州の魅力なんじゃないかなと思います。

北九州はある程度大きな都市ですので、いろんな人たちがいるんですけども、まちのサイズとして、その人に会いたいなと思えば、実際に会えるんですよ、知り合いの知り合いでつながっていくような感じで。そうやって実際に会って、話を直接聞いたりできるようなまちのサイズ感が、北九州はちょうどいいなと感じています。やはり街の魅力は、そのまちに住んでいる人の魅力だろうなと思っています。

それから個人的なことですが、私は山の中を走るトレイルランニングを趣味にしていますが、そういう場所に車で何分かで行けるという環境がまだ身近に残っています。ある程度大きい都市ですけどそんな環境が残っているのも北九州市のも大きな魅力ですね。

入 門 とても難しい質問ですけど、北九州の好きなところ、ざっくり言うなら自分の生まれ育ったまちだから好きっていうのが一番なんです。

子ども達には、こういった自分のまちが好きだという思いを、とにかく育てていってほしいなと思っています。さきほどいろんな事業の話がありましたが、自分のまちのすごいところなどいろんな魅力を探っていくんですけど、最終的には自分のまちは好きっていうよりも、自分のまちの人たちが好きっていう気持ちに最終的には立ち返ってきたいと思っています。

やはり、「未来の種」事業はまさにそうですけど、子どもたちを温かく包んでくれる環境、このまちで育ってきたんだという気持ちを育てて行けたらいいなと思っています。先ほど、おっしゃったように北九州は山あり、谷あり、川あり、海ありで、たしかに産業の発展とともにまちが広がって行って、さきほど、130っていう話もありましたが、ぼくたちいろんなまちに行って、そのまちそのまちで表情が全然違うというのが、とっても面白いところです。山のまちがあって、海のまちもあって、川の近くのまちもあれば、都市のまち、住宅のまちもあって全然違う。

PR 部 同じ北九州市の中でも全然違うということですか。

入 門 全然違う。これがとっても面白くて。そこそこに昔ながらのお祭りがあり、地名や文化があってというのをいろんなまちで見えてきて、それぞれのまちに住む人がいて、それぞれの文化や歴史や風習がある、というのを汲み上げるととっても楽しいなと思います。

そんな、ひとつでなくて、いろんな色があるまちって北九州ならではのかなと思います。

「NPO 法人好きっちゃ北九州」の今年度の活動について教えてください。

入 門 ぼくたちは、いろんな活動でいろんなところに呼ばれて行って、特に最近コロナ下もあって、なかなかイベント的なことができないけど、最近よく呼ばれるのは、「あそぼうさい」といって、「遊ぼう」と「防災」を掛け合わせた活動です。やはり、コロナ禍でも防災に対するニーズは絶えずに、何かやっていきたい、子どもたちと一緒に何かやっていきたいという声が多くて、12月も「あそぼうさい」は2件入っています。さきほど大学生の話が出ましたが、これは、大学生のメンバーがいっぱい来てくれて、一緒にやっていくという活動です。

特に大学生向けといえば、1月21日にESD協議会の中のあるESDプロモート実習と言って、SDGsのエデュケーションの部分で、ESDというのがある

んですけども、北九州大学の学生を中心に企画をしてくれているものがあります。全都道府県から参加者を募って、全都道府県の話の中で自然との共存や防災などについて、オンラインで語っていこうという企画で、今、準備しています。この企画のコーディネーターとして携わらせていただいている、これもとても楽しいイベントです。

PR 部 すごい。

入門さん、本当に伝えたいことを子供たちに興味を持ってもらうために工夫している点がありますか？

入 門 やはり実際に見て、聞いて、体感することが大切なのかなと思っています。学校教育のように、一方的に教わるとか、習うだけでなく、本当に子どもたちとその場所に行って、「あ、これだね」って発見してみたりだとか。

でもその中に面白さや楽しさを混ぜていかないといつも思っていて、やるからには楽しくやりたい。例えば地域の魅力発見で、まちの行ったことが無いようなところを探索するにも、例えばスタンプラリーにしてみたりだとか。防災でも防災を習うだけでなく、遊びに変えてみたりだとかして、体感してもらうことを大切にしています。

PR 部 実際にやってみないとわからないことだったり、実際にやったことの方が大人になっても覚えていますよね。

菅さん、このように、地域で活動する 知識やノウハウ、思いを持った素晴らしい方たちと一緒に市民センターが連携する可能性をどう感じているのでしょうか？

菅 「未来の種」事業では、入門さんのような専門的な知識・ノウハウを持った団体のみなさんに、コーディネーターとして関わっていただくことで、これまでにない魅力的な事業が実施できていると考えています。

「未来の種」事業に限らず、多くの方や団体、企業の方々に、市民センターの事業に関わっていただくことで、その事業だけではなく、市民センター全体の魅力も向上していくと思っています。

そうすることで、これまで市民センターにあまり足を運ばれたことがなかった方も、市民センターに来られることで、新たな出会いや気づきがあると思うので、それがまた新しい活動に繋がっていくんじゃないかなと期待しています。

そんな風に、市民センターが活性化していけば、そのセンターのある地域が元気になっていくといった循環が生まれると考えています。

そういった意味からも、入角さんのような専門的な知識・ノウハウを持った団体の皆さんというのは大きな力になると考えています。

PR 部 聞いているだけでも、なんだかわくわくしてきます。私も何か行事に参加したいなと思いました。

PR 部 実際に行ってみたいなと思いました。

菅 市民センターに来られてはじめて、こういうことをやっているんだと気づいたり、もしかしたら、そこに行くことで、自分もこんなことができるよということを知ったり、ということもあるかと思いますので、最初の一步というか最初に行くきっかけをどうやって作っていくかというのは色々考えたりするところですよ。

入門さん、「NPO 法人好きっちゃ北九州」としてこれからも届けていきたいことや、お知らせがありましたらお願いします。

入 門 今日の「未来の種」事業の話題でもそうですが、ぼくたちは、子ども、大人からお年寄りまで幅広い活動をやっているんですが、子どもをターゲットにした活動になると、子どもを真ん中にした地域づくりというのをいつもテーマにしています。

このまちの子どもたちを育んでいこうという気持ちは、地域の中でも共通の理解や認識のあるテーマだろうと思っていて、「子どもたちのために」という声かけをすると市民センターに多くの皆さんが集まって下さる、力を貸して下さるという活動になっていくのかなと思っています。

ぼくたちは火付け役として、いろんな地域に招いていただいて、活動しているという感じです。その中で、さっきも大学生の話もありましたけど、ぼくたち活動し始めたころは、若者、よそ者と言ってたんですが、僕も全然若くなくて、今では、学生の皆さんの力を借りているというのが大いにあって。学生の皆さんと連携しながら、一緒に地域に入っていくという中で、子ども達は歳の近いおにいちゃん、おねえちゃん cameたら、大喜びするんですよ。地域の人達も若い人たちがいっぱい来てくれたと喜んでいただけるんですね。これは、僕がいくら勉強しても、もう、取り返しのつかない力であって、大学生とか若い皆さんの持っているエネルギーであるし、パワーなんだろうと思っています。

学生の皆さんと一緒に協働しながら、いろんな地域に入っていくという活動をやっていますので、是非学生の皆さんと一緒に活動をする、北九州でも第二、第三のふるさととはどんどん増えていきますし、よりこの北九州への愛着に繋がっていくのではないかなと思っています。

PR 部 子どもと大人だけでなく、そこに大学生が入ることによって、子ども、若者、大人、さらに高齢者、そこに人のつながりが出来そうですし、人の魅力、北九州の良さに繋がっているのかなと聞いて、今、思いました。

入門さんのお話を聴いたり資料を見たりしていると、子どもたちだけじゃなくて、KITA9PR 部世代（Z 世代）の私たちも聴いてみたいと思う内容も多いように感じます。菅さん、若い世代の市民センターの活用も含めて、メッセージやお知らせがありましたらお願いします。

菅 まずは皆さんの暮らしている地域にある市民センターがどこにあるのかをぜひ探してみしてほしいと思います。先ほどお話ししたように、だいたい小学校区にひとつありますので、皆さんが歩いていける校区にきっとあるはずですので、一度、散歩しながらでも探していただけたらなあと思います。

そして、もし、市民センターを見つけたら、勇気をもって市民センターに入っただけだと嬉しいなと思います。実際、市民センターには、特段、講座に参加する、クラブ活動があるというようなことでもなく、用事がなくても立ち寄る方も結構いらっしゃいます。

PR 部 そうなんですね。

菅 なので、そんな感じでふらっと入ってみるという感じで構いませんので、一度市民センターにお立ち寄りいただければいいかなと思っています。

そこでまた、興味ある講座や活動を目にしたら、気軽に参加いただけたらなと思います。

PR 部 こんにちは、ちょっと来てみました！みたいな、そんな感じでいいんですね。

菅 はい、全然それでいいんです。

PR 部 ちょっと、行ってみたい。

菅 お話好きな館長さんがもしかしたらいらっしゃるかもしれませんので、いろいろお話が盛り上がるかもしれません。お立ち寄りいただけると嬉しいです。

PR 部 用が無くて行ったことがなかったので、行ってみようかな。

PR 部 僕も昔は結構市民センターに行って、銀河鉄道999の漫画をただ読むということをしていました。

PR 部 そうですね、本がありますね。

菅 ひまわり文庫という形で市民センターのホールに本があります。そういった本も自由に読めますので、何か目的を持ってとか、勝手に入っちゃいけないんじゃないかと感じられる方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれませんが。そんなことはございませんので。

PR 部 自分もそう思っていました。

ここまで、北九州市 生涯学習課 菅恒弘さんと NPO 法人 好きっちゃ北九州 代表 入門真生さんにお話をうかがいました。ありがとうございました。

VII 參考資料

北九州市社会教育委員名簿

(任期 R3. 8. 29～R5. 8. 28)

区分	氏 名		備考
学校教育	むとう 武藤 さよ 佐予	北九州市立小学校長会 代表	R3. 8. 29～R4. 3. 31
	にしむら 西村 なおみ 直美	北九州市立小学校長会 代表	R4. 5. 12～
	うえだ 上田 あけみ	北九州市立中学校長会 代表	
社会教育	なかお 中尾 みさ 美佐	北九州市婦人団体協議会 理事	
	やました 山下 ひろし 比呂志	北九州市子ども会連合会 会長	
	わだ 和田 まさと 正人	北九州文化連盟 専務理事	
	もりかわ 森川 としひと 壽人	北九州市スポーツ協会 理事	
	みやもと 宮本 かずよ 和代	元福岡県社会教育委員	副議長
家庭教育	たかはら 高原 けいこ 恵子	北九州市私立幼稚園連盟 理事	
	こもり 古森 りか 利香	北九州市PTA協議会 副会長	
学識経験者	みはら 三原 あさと 朝利	市議会議員	R3. 8. 29～R5. 3. 2
	やまもと 山本 まちこ 眞智子	市議会議員	R3. 8. 29～R5. 3. 2
	なかむら 中村 よしお 義雄	市議会議員	R5. 4. 27～
	おおくぼ 大久保 むが 無我	市議会議員	R5. 4. 27～
	のより 野依 ともこ 智子	福岡女子大学 国際文理学部 教授	議長
	やまだ 山田 あきら 明	九州共立大学 スポーツ学部 教授	副議長
	はたの 羽田野 たかし 隆士	北九州商工会議所 専務理事	
公募	やまなか 山中 ひろとし 啓稔	公募委員	

北九州市社会教育委員会議関連法規

社会教育法

(審議会等への諮問)

第13条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和二十三年法律第二百十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。

(社会教育委員の構成)

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- (1) 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- (2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- (3) 前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(社会教育委員の委嘱の基準等)

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令

(社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準)

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第18条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱することとする。

北九州市社会教育委員会条例（平成27年7月3日公布、8月29日施行）

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条第1項の規定により、市に社会教育委員（以下「委員」という。）を置く。

第2条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから委嘱する。

第3条 委員の定数は、15人とする。

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 委員は、その事情により、任期中であっても解嘱することができる。

北九州市社会教育委員会議規則

第1条 社会教育委員の会議には、委員の互選により、議長および副議長2人をおく。

第2条 議長および副議長の任期は1年とする。ただし、再選されることができる。

第3条 議長は、社会教育委員の会議を主宰する。

第4条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるとき、または、議長が欠けたときは、その職務を行う。

第5条 委員の会議は、必要に応じて教育委員会がこれを招集する。

第6条 会議の招集は、開会の7日前までにこれを通知しなければならない。

第7条 教育委員会は、会議開催の日時、場所および会議に付議すべき事件をあらかじめ通知しなければならない。

第8条 この規則に定めるもののほか、社会教育委員の会議に関し必要な事項は、別に定める。

今期の北九州市社会教育委員会議

	会議	日程	議題
1	令和3年度 第2回会議	令和3年11月9日	・ 議長・副議長の互選【定例】 ・ 北九州生涯学習推進計画にかかる施策・事務事業の進捗状況(前年度評価)【定例】 ・ 協議テーマについて①(テーマの決定)
2	令和3年度 第3回会議	令和4年1月18日	・ 協議テーマについて② (地域の防災力の向上及び子どもの健全育成・体験活動)
3	令和4年度 第1回会議	令和4年5月19日	・ 社会教育関係主要事業及び補助金について【定例】 ・ 協議テーマについて③(デジタル化の取組み)
4	令和4年度 第2回会議	令和4年10月25日	・ 議長・副議長の互選【定例】 ・ 北九州生涯学習推進計画にかかる施策・事務事業の進捗状況(前年度評価)【定例】 ・ 協議テーマについて④(館長の役割)
5	令和4年度 第3回会議	令和5年1月24日	・ 協議テーマについて⑤(地域の健康増進)
6	令和5年度 第1回会議	令和5年7月13日	・ 社会教育関係主要事業及び補助金について【定例】 ・ 協議テーマについて⑥(意見のまとめ)

令和3年度第1回会議 協議テーマについて(委員意見整理)

生涯学習推進計画 施策・取組み	委員の意見・問題提起(概要)
1 多様な「学び」の機会の提供 【柱1(3)】	
①学びのきっかけづくり	・コロナ禍により子どもたちの体験が減少しており、体験に飢えている。
	・コロナ禍の中で、いかにスポーツに参加させ、健康増進につなげるかが課題となっている。
	・ZOOMなどの通信技術を導入した地域としていない地域の格差が出ている。
②ライフステージや多様性に 応じた学習機会の提供・充実	・コロナ禍の中で、いかにスポーツに参加させ、健康増進につなげるかが課題となっている。[再掲]
	・地域が実施する「地域で育もう未来の種事業」など、体験を提供する事業に、定員 オーバーになる ほど申し込みがある。
③現代的・社会的な課題の 解決に向けた学習機会の提供・充実	・パンデミックなどの問題が起きても地域活動が継続できるよう、事前に危機管理を学び、体制を整えておくべき。
	・コロナ禍により子育てに対する悩みを相談する場が急速に失われている。また、経済的、精神的に困難な家庭が増加している。
	・高齢者もデジタル活用ができないとコロナワクチンの予約も難しくなる。生活の質を向上させるためにはデジタル活用が必要である。
2 「学び」と「活動」の場づくり 【柱1(4)】	
①学んだ成果を活かす 仕組み	・コロナ禍により地域活動が減少している。
	・高齢化などにより地域活動をしている人が減少している一方、行政の事業で育成された人材が地域に入ってきている実感があまりない。
	・地域活動について、朝から晩までは無理だが少しならできののに、という人が取りこぼされてないか、と感じる。
②生涯学習関連施設の 整備	・市民センターを土曜日の夜と日曜日にも使用できるようにしてほしい。
3 「学び」と「活動」を通した人材の発掘・育成 【柱2(1)】	
①地域ボランティアの 発掘・育成	・地域によって活動の熱心さに格差がある。
4 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上 【柱3(3)】	
①家庭教育支援の充実	・コロナ禍により子育てに対する悩みを相談する場が急速に失われている。また、経済的、精神的に困難な家庭が増加している。
	・子どもたちは助けてもらえばかりでは、大人になって世の中に出て逆境にあった時に克服できない。
②学校・地域・学校の 連携促進	・子どもたちは普段「してもらい」ことばかりだが、子どもたちの力を地域に返すこと、地域で活躍することが必要ではないか。[再掲]
	・地域によって活動の熱心さに格差がある。[再掲]
③地域における子ども たちの発達・育成を 促す環境づくりと体験 活動の促進	・地域が実施する「地域で育もう未来の種事業」など、体験を提供する事業に、定員オーバーする ほど申し込みがある。[再掲]
	・ボランティア活動を募集したところ、参加希望が多く、子どもたちが「体験」に飢えていると感じた。[再掲]
	・子どもたちは助けてもらえばかりでは、大人になって世の中に出て逆境にあった時に克服できない。[再掲]
	・高齢者、若い世代の育成に行政が協力してほしい。

令和３年度 第２回社会教育委員会議（１１月９日）
（主な委員意見）

議題（ウ）社会教育委員会議の協議テーマについて

委員：デジタル化が今後かなり求められてくると思う。特に高齢者など、使いこなせないと情報の格差や、取り残されていく場合があるので、市民センターで学びなどが進められないかと考えている。協議テーマとしてデジタル化への対応が必要ではないか。

委員：デジタルの問題やＤＸの問題は、日本全体、非常に遅れが激しいということで、特に子どもたちに興味を持たせるというのは大事だろう。当然、何らかの形で入れ込んだほうがいいのではないか。

委員：デジタルを通じた情報提供のあり方というものが大事ではないか。危機管理という観点からもデジタルを絡めて、正確な情報を、いかに早く、市民の皆さんに伝えるきっかけにできるような環境づくりというものを、ぜひ取り組んでいけたらと思う。

委員：このテーマ（デジタル化）が今後の１つの大きな核になるであろうというのは、非常に共感する。何らかのアイデアを出すというプラスの意見を皆さんが出せるということであれば、協議テーマにしかるべきと思う。

議長：デジタル化の問題や情報の格差をどうするか。ただ、社会教育の今回のテーマは、もう少し、社会教育としてどういったことを目標にするか、ということではないか。文部科学省では、「人づくり・地域づくり」をテーマにしており、デジタル化、情報の問題というのは、そういった大きな社会教育としての目標に、どのように取り込んでいったらいいのかという方法論になるかと思っている。

事務局案として提案させていただいた「“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり～SDGsの達成を目指して～」を基本にして、ご意見を踏まえて追加するかどうかを検討させていただきたい。

委員：今回の新たな試みとして、それぞれの具体的な取組みを検証していきながら、より具体的に話をしていくという方向性が出ているのは、非常に素晴らしいことではないか。

【共同学習の事例：北九州市戸畑区三六公民館の婦人学級から】

福岡女子大学 野依 智子

1960年代はじめ、戸畑区の三六公民館の婦人学級では、「現在一番困っていることは何なのか」「悩んでいることは何か」を徹底して話し合った。そのうち、ある学級生の「洗濯物が黒ずんで困る」という発言がきっかけとなり、公害による被害が口々に訴えられ、これこそ婦人学級で取り上げなければならない切実な課題であることを発見した。それぞれ家庭の状況や被害を話し合っているうちに、公害問題は三六地域共通の課題であることがわかった。

自分たちが苦しんでいるのはなぜだろうか、どうすれば人間らしい生活ができるか、今後の生活に不安はないだろうかを考えあつた。

学習方法は、単なる話し合い、講演、読書会にとどまらず各グループにわかれて布の汚染状況やワイシャツの箱に降塵をとったり、新聞の切り抜きを集めたりした。その結果を全体学級に持ち寄って、学習した。

自分たちで資料を集め学習していく自主的学習は学級生ひとりひとりの生活態度を変えていった。壁に突き当たりながら共に悩み、考え、励ましあってきた学級生は、信頼しあつた人間関係のもとに、あらゆる困難な問題も乗り越えるまでに成長した。

三六公民館婦人学級の取り組みは波紋を広げ、1965年には戸畑区婦人会協議会の組織をあげての取り組みに発展した。三六婦人学級の経験をいかして、リーダーが講師となりブロックごとの事前研修も行った。毎年配布される市民アンケートは調査活動を裏付ける貴重な資料となった。

こうして、婦人会の公害学習は、教研や自治研、母の会、PTA 研究会、婦人会議、公民館講座に取り上げられ、マスコミで全国的に報道されるようになった。

公害の発生源である大企業へは、工場見学をして集塵装置の施設状況を調査し、工場代表と懇談会をもって積極的対策を申し入れたりした。

＜38年度 三六婦人学級の学習活動＞

学習活動	内容	方法その他
新しい婦人学級のあり方	・講師中心の学習をやめる ・学級生が主体の学級	グループによる調査
保健所訪問	・公害問題の実態調査の方法の研究	資料調査
市公害課訪問	・過去4か年の公害の現況 ・三六における公害の実態	市の資料調査
新聞雑誌の切り抜き	・公害問題の理解を深める	資料づくり
公害とは何かー講義ー	・なぜ公害問題がおこるか	九州工大教授
住民の意識調査	・公害の状況、・家族の健康状況	アンケート調査
布の汚染調査	・室内と室外の汚れ方の相違	実験
降塵量調査	・実際の降塵量はどれくらいか	ワイシャツの箱で1か月
発生源調査	・発生源はどこか	九工大燃料研究室で 煤塵成分の分析

〈出典〉林えいだい「権利意識にめざめた婦人の学習活動ー公害学習と住民運動ー」『社会教育』23(10)、全国社会教育連合会、1968)より



「平野地区みんなで取り組む防災」 ～大雨災害での犠牲者をゼロに！～

北九州市立 平野市民センター
館長 伊藤 須美子

1 地域の概要

前田第3自治区会と第4自治区会の二つの自治区会から構成され、共に高齢化が進む中、美化・防犯防災活動や世代間交流を積極的に取り組み、安全・安心で暮らせる地域を目指している。高齢化率は42.4%である。

2 活動内容

◇事業名 平野地区みんなで取り組む防災

◇事業の目的

近年自然災害が激しさを増し、全国的に地域での「共助」が重視されるなか、さらなる地域防災力の向上を目的とする。また、防災対策を切り口に地域コミュニティの更なる活性化を図っていく。

◇事業実施団体

平野まちづくり協議会、前田第3第4自治区会、前田第3・4区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、平野市民センター

◇実施にいたる経緯

高齢者や一人暮らしの多いこの地域は土砂災害警戒区域として指定された地域も多い。昨今の地球温暖化・線状降水帯による集中豪雨・台風被害等のニュースを目にするたびに、いつどこで起こるか分からない災害に住民の危機意識が高まってきた。

◇実施プログラム

①平成30年

北九州市危機管理室支援事業「地区 Bousai 会議」に応募し、平野地区で「大雨災害での犠牲者をゼロに！」をスローガンに、地域と共に地区防災計画に取り組んだ。全5回の日程で実施。

＜講師＞「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏。

第1回会議＜このまちで生き、この町と向き合う＞

第2回会議＜人間は一人では逃げられない？＞

住民の皆さんで今の思いや疑問、課題を話し合い大雨災害対策へのはじめての一步を踏み出した。

第3回訓練<みんなのために情報を伝達する>

70名が参加。命を守るためにはどうしたらいいのか、実際に情報の伝達、連絡方法などの訓練をした。この年の7月6日に平野川が昭和28年6月28日の大水害以来65年振りに氾濫したことが、住民の意識を高めた。また、地域住民の出演により作成された「伝達・連絡方法DVD」を放映し、顔なじみのお隣さんが出演することにより住民の関心を湧き起こした。

町内会で立地条件は異なっているため、各町内会に別れて独自のルールを話し合った。最後に水を注ぐだけで食べられる非常食のアルファ化米で作ったカレーライスを食べなど貴重な体験であったとの高評価で訓練を終了した。



< 花尾小学校体育館での合同訓練 >

第4回会議<いつ・どこに逃げ、身を守るのか>

第5回会議<『平野地区防災計画』を作る！>

住民たちで話し合った結果をまとめた「行動計画書」を作成。各町内会が保管する。

②平成31年（令和元年）

◎フォローアップ講座1

講師：「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏

第1回講座<前年度講座の振り返り>

前田第3自治区会防災講演会を実施。

第2回講座<火災・防災合同訓練>

地域57名、センター利用者16名、計73名が訓練に参加。

(第1部)八幡東区消防署員指導。センターの調理室から出火したとの想定で避難訓練を行った。消防署員による火災についての講義、水消火器の指導があった。

(第2部)「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏講演。地域全体での振り返り講座を実施。

(第3部)食生活改善推進員がふれあい菜園（まちづくり協議会管理・運営）で採れたジャガイモ、玉ねぎを使用し、カレーライスを振る舞う。参加者は食事を終え、順次解散した。

第3回講座…予定していた合同訓練が、コロナ感染予防対策として緊急事態宣言が発出され講座の中止を余儀なくされる。

③令和2年

◎フォローアップ講座2

＜コーディネーター＞「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏

第1回会議＜平野地区防災計画の振り返り＞

前回作成した、防災計画の見直しが目的で、今年発生した台風時に困ったことや新たな課題等の意見交換を行った。コロナ感染症対策のため対象人数が絞られ、前田第3・4自治区会の町内会長や役員、社協の役員、民生委員・児童委員の40名が参加。

- ・現状の課題・懸念していることなどの検証
- ・避難すべき人の確認
- ・避難先と移動手段の検討

地形的に北九州は大雨を免れやすいそうだが、運悪く線状降水帯が発生した場合、大規模な災害が起きることも考えられる。参加者から

いろいろな意見・アイデアが出され、有意義な会議となった。



＜19時からの会議にも関わらず熱心に議論＞

第2回会議＜3つのちえん“血縁”“地縁”“知縁”で自助の底上げを目指す＞

前田第4自治区会の東川頭町では、町内会長・防災委員・地区担当民生委員の6人からなる防災組織「東川頭お助け隊」を結成した。

東川頭お助け隊を中心に

- ・自治委員との情報共有による、避難困難者の把握と、縁故者への連絡体制の整備
- ・地域独自のハザードマップの補充・活用
- ・連絡網作成

など、避難困難者が確実に避難できるように取り組んでいる。

また、住民の防災意識調査を実施するなど、家庭訪問をしながら情報を把握し確認を行った。

第3回会議＜より実践的な防災計画案へ！＞

- ・平野市民センターの避難者受け入れ態勢表を作成
受け入れ可能世帯は74世帯（148人）、2m×2mを基本とし、1世帯2名で算定
- ・使用する部屋の受け入れ順を検討
- ・館内に常備している資材を活用する
- ・ペットもケージに入れ一緒に避難可能とする
- ・足腰の悪い方への配慮

④令和3年

第1回講座

「感染症対策を踏まえた避難所運営講習会」開催。第1薬科大学教員による「感染症対策を踏まえた公民館の避難所運営講習会」を実施。備蓄品等運営開設における設備を見直し、準備を行う。

第2回講座 講師 福岡管区気象台 気象予報士

「台風に備えて」、「大雨に備えて」、「地球温暖化について」をテーマとした内容で講演を実施した。

3 事業の成果

避難所運営の方針の作成・「平野防災の取り組みコーナー」の設置・毎年6月の防災訓練の実施について関係者の合意を得ることができた。

一連の防災会議・講座を通じて「防災の取り組みは、まず日頃のご近所づきあいから始まる」を実感した。「避難する・しないの選択は、個人の死生観に関わることである。避難したがる住民の理由を理解しその上で助けようとする地域住民の思いが今後の地域の安全・安心に繋がり、「このまちに住みつづけたい 住んでよかった そんなまちでありたい」が実現できるものと思われる。地域で結成された「東川頭お助け隊」はその思いを表す結果となった。

4 今後の課題

平野地区は役員の方々の熱心な活動により、防災の取り組みが順調に進捗しているが、現役員・組織の高齢化に伴い将来の活動量の低下が懸念され、次世代の地域活動の担い手の発掘が課題であると言える。そうした中、様々な行事の活動拠点となっている市民センターの役割が今後ますます重要になると思われる。そこで館長として地域コミュニティ活動の活性化を促し、若い人たちが自然に地元のまちづくり活動に取り組んでいけるような雰囲気づくりに努めていきたい。

【SDGsターゲット】

- 11.5 2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



市民太陽光発電所・市民還元事業～地域で育む「未来の種」事業

やっぱり！みんなで！あそび隊！！

～自然から学ぶ生きる力～

北九州市立足原市民センター

館長 樋谷 美緒

1 小倉北区足原校区の概要

北九州市は本州と海を挟んだ九州の玄関口に位置する人口93万人の政令指定都市です。小倉北区は北九州市の中心地区で足原校区はその北区の東部に位置します。また、交通の便の良さに加え、東に足立山を仰ぎ山麓に桜の名所足立公園平和公園を擁する緑豊かな環境で足原市民センターは校区のほぼ中央に立地しています。(世帯数 5,452 世帯 高齢化率 29.5% 子どもの割合 13.4%)



2 背景・課題

コロナ禍でのマスク着用は表情が見えにくく、また、コミュニティーが閉ざされつつある現状は、孤立を招き子どもの成長に大きく影響します。自身で考え選択しながら歩いていく未来を担う子どもたちに必要なことは、より多くの感動や体験活動です。また、地域の中で子どもたちの心の成長を育む活動はシビックプライドを醸成し循環型の持続可能な地域づくりとなります。市民センターだけではなく地域を巻き込んだ子育て支援が重要だと考えます。

3 事業に至るまで

足原市民センターが事業を受けるに関し、地域ぐるみで行うことを必須に考え、まちづくり協議会会長に相談し、子ども部会に提案しました。「子ども達をおもいきり遊ばせたい」と意見はすぐにまとまり「自立したキャンプ活動」を目標に定め、野外活動を重視した7回の講座を企画しました。自然の中で自分たちの力で学び得る楽しさ、感動、協働力、判断力、自立性、そして生きる力をこの講座で育みます。

《協力団体等》

足原校区まちづくり協議会役員・子ども部会
足原小学校おやじの会・地域ボランティア
(子ども部会には、小、中学校 PTA 会長・小学校
おやじの会会長・主任児童委員が入っています)
○実施にあたり、以下の事を約束事としました。



- ・子どもの自主性を育むため大人が手を出しすぎない。
- ・大人は回ごとに担当を持ち、手伝うという意識ではなく全員が主役となるようそれぞれが得意分野を活かし運営の役割を担う。

- ・地域と子どものつながりを深める為、特別な理由がない限り保護者不参加とする。

4 事業の内容

	予定	変更	内容	目的
1	7月10日(土)		オリエンテーションとピッコロで昼ごはん 保護者会(別室)	多世代交流の仲間づくりを行う
2	8月22日(日)	11月13日	おもいっきり遊ぼう外あそび 講師:ONEキッズ先生	外遊びからコミュニケーション力、創造性、判断力を高める
3	9月11日(土)	12月4日	山登り	決まりを守り、目標を達成する経験を積む。班で協力し絆を深める
4	9月25日(土)	10月2日	キャンプに向けてとピッコロで昼ごはん	キャンプに必要な知識、心得を学ぶ
5	9月26日(日)	中止	デイキャンプ	学んだことを活かす。役割をもち、支え合いを学ぶ
6	10月9日(土)		お泊りキャンプ	学びと経験を活かし、自ら行動できる自立心、協働力を育む
7	10月10日(日)			

変更欄：緊急事態宣言により延期または中止

※ピッコロとは

足原校区まちづくり協議会主催の子ども食堂。概ね第2土曜日に昼ごはん(100円)第4火曜日に朝ごはん(無料)を市民センターにて実施しています。

5 申込み方法・参加人数(学級制)

足原小学校全児童にチラシを配布参加条件に保護者会出席、同意書提出を必須としました。

- ・参加人数 31名
(男子12名・女子19名)
(低学年23名・高学年8名)



6 予算

参加費 1000 円でキャンプ食材、お泊り時のシーツ代等に予算をとり、保険代、用紙代等は事業予算より支出。

7 実施講座

第1回 オリエンテーションとピッコロで昼ごはん(10時～13時)

目的：仲間づくり

遊びや食事を共にし、コミュニケーションを深める時間としました。また、別室にて保護者会を開催し講座の内容や意義、同意書の再確認を行い、キャンプ前の健康調査票の提出も併せて説明を行いました。



第2回 キャンプに向けてとピッコロで昼ごはん（10時～13時）

目的：キャンプの知識と心得を学ぶ

キャンプでの役割分担や安全に過ごす手法をみんなで考え学びの時間を過ごしました。未来の種から一人ひとりの未来の花が咲くように花づくりも行いました。



第3回 お泊りキャンプ1日目（13時～）

目的：学びと経験を活かし自ら行動できる自立心、協働性を育む

足立青少年自然の家まで30分かけて皆で歩き、到着後はおやじの会による忍者修行食材そう奪戦を実施しました。班で作ったカレーを食べた後は、キャンプファイヤーを行いました。火を見つめる時間は、子どもも関わった大人も皆、心が一つになったように感じました。また、出発時、泊りを躊躇していた男の子の発言「ゲームができないし、いやだな。」が夜には、「ずっとこの時間が続いたらいいな。最高だね」に変化しました。

食事、歯磨き、消灯時は、特に感染症対策を慎重に行いました。



第4回 お泊りキャンプ2日目（～10時）

各々手作りしたサンドパンを持って足立公園展望広場まで30分かけて歩き、朝ごはんを食べました。

葉っぱ探しなど自然の中の遊びを皆で楽しみました。



第5回 おもいきり遊ぼう外あそび（10時～13時）

目的：創造性、判断力を高める

ONEキッズ先生を講師にお迎えし、足原小学校運動場にて開催。体全身を使ってのリズム体操やおもしろリレー、しっぽ取りなどおもいきりグラウンドを走り回り外遊びを堪能しました。



第6回 山登り・オリエンテーション（9時～12時半）

目的：決まりを守り目標を達成する経験を積む。

班で協力し、絆を深める

小文字山頂上まで約1時間かけて皆で登りました。地元の魅力と仲間との時間を十分に共有しました。

オリエンテーションでは子ども達が手をあげて感想を発表したり、関わった方々にお礼を伝えました。



8 講座の工夫（書き出しの活動）

体験活動に加え、書き出すことを意識して行いました。その時の気持ちや考えを書き出すことで考える力を育みしっかり自分自身を見つめる時間としました。

- ・未来の花づくり：種用の用紙に「これから楽しみなこと」双葉に「自分の好きなところ」花に「将来の夢」を記入。またキャンプ後に班メンバーの「良いところ・好きなところ」を葉っぱに書き相手に渡し組み合わせで一つの作品を完成させました。
- ・メッセージカード：最終日、感謝の気持ちを伝えました。



9 講座を実施して感じたこと（成果）

コロナ禍の中、地域の様々な世代の方が関わり講座を実施することができました。第1回のおよそそしかった子どもたちも回を重ねるごとに笑顔があふれ、班がまとまり自ら考え行動する力がつきました。子ども達が変化した大きなキッカケはお泊りキャンプでの経験だったと思います。ともに力を合わせ、時に大人に怒られながら我慢と努力に加え、活動をおもいっきり楽しみ、ともに過ごした活動はかけがえない時間となりました。キャンプ後、実施した外あそびでは、班での行動もあきらかに変わりました。子ども達からも、次年度の役割や卒業後ボランティアとして参加したい等の声がありました。遊びを通し、大きな成長が見られました。

また、関わった大人も共に楽しみながら活動したことで、結束力、信頼関係が深まり、地域を支える人材としてより大きな輪が広がっていく良い契機となりました。

子どもにとって遊ぶ経験は生きる力となり、関わる大人は子ども達から希望をもらい、活動から多くの縁が繋がりました。子どもが地域とつながり育っていく、まさに世代でつながりつなぐ循環型の持続可能な地域づくりであり、素晴らしい校区の底力を実感しました。

10 講座を終えて（課題）

まちづくり協議会をはじめ地域の方々と共に作り上げていく継続的な体制づくり、また、費用についても自主的な活動となるよう検討が必要と考えます。また、若い世代の方々もボランティアとして参画し講座を支えていただきましたが、仕事をしながらの講座実施に加え、会議等の時間調整の難しさを実感しました。会議内容の充実を図り、さらにリモートを取り入れるなどスタッフ間での密な体制づくりに力を注ぐ事も大きな課題です。

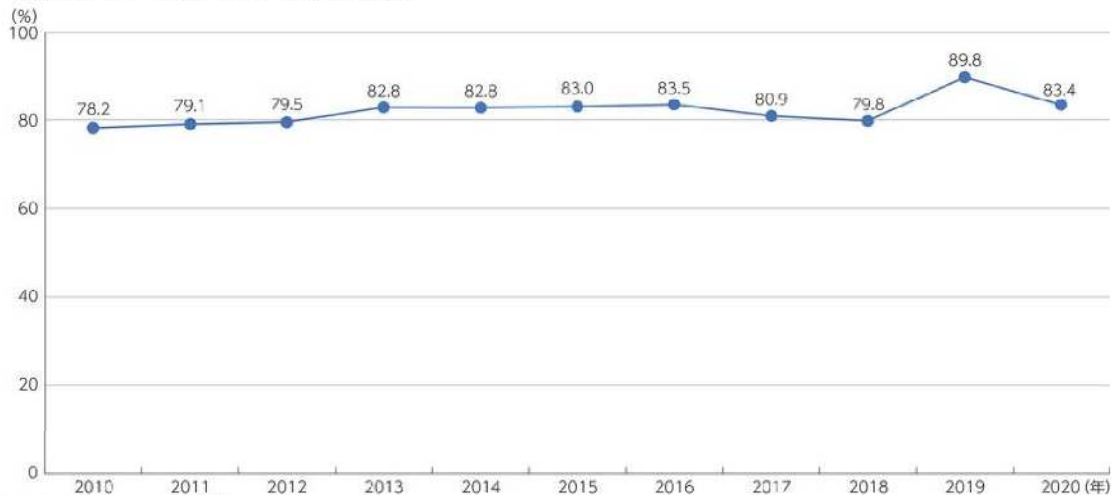
今後も多世代でつながる地域づくりに尽力し、更なる持続可能な活力ある校区を目指します。



デジタル化の現状

(総務省「通信利用動向調査」より)

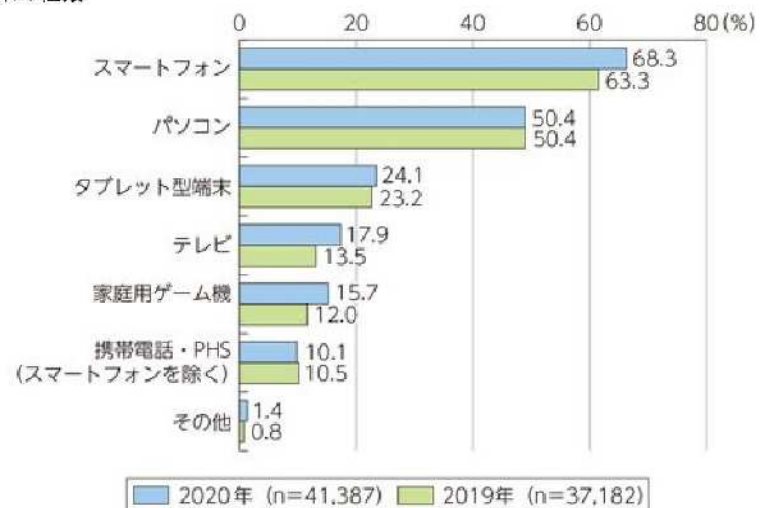
図表4-2-1-3 インターネット利用率の推移¹⁾



[大きい画像はこちら](#)

(出典) 総務省「通信利用動向調査」 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

図表4-2-1-4 インターネット利用端末の種類

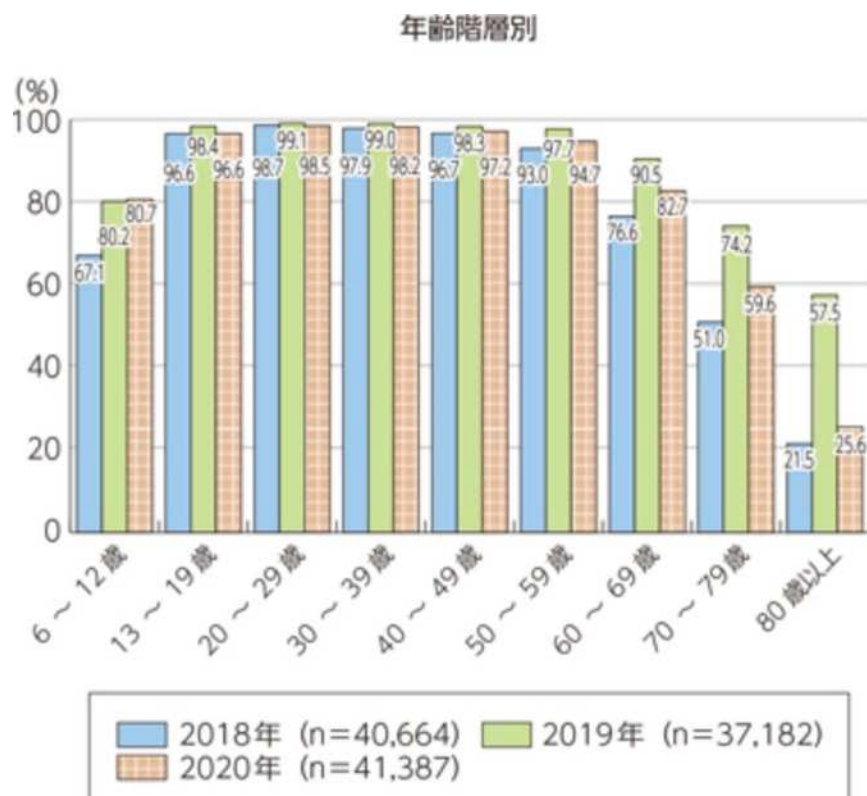


※当該端末を用いて過去1年間にインターネットを利用したことがある人の比率

[大きい画像はこちら](#)

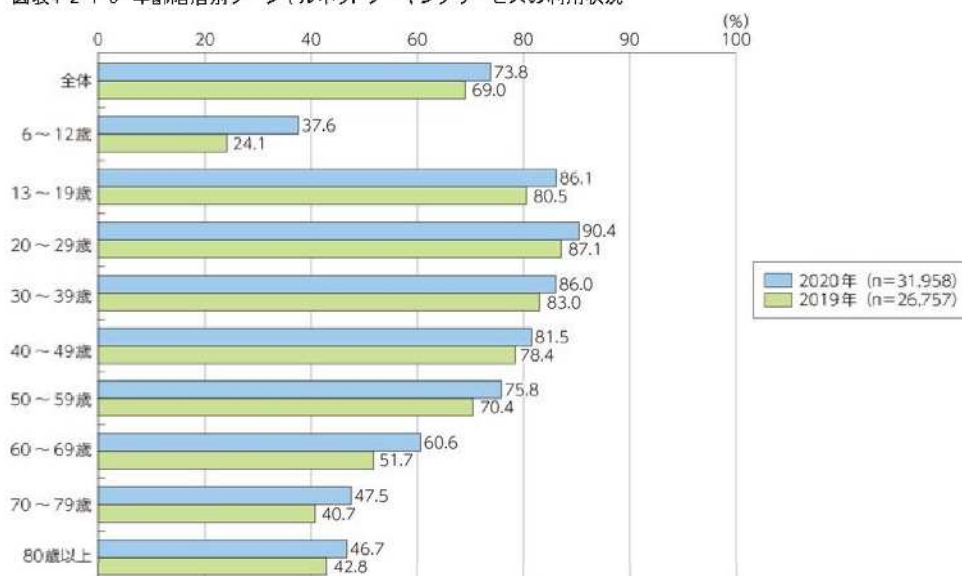
(出典) 総務省「通信利用動向調査」 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

図表4-2-1-5 性別インターネット利用率²



(出典)総務省「通信利用動向調査」<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics03.html>

図表4-2-1-8 年齢階層別ソーシャルネットワーキングサービスの利用状況



[大きい画像はこちら](#)

(出典)総務省「通信利用動向調査」<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics03.html>

「図表4-2-1-8 年齢階層別ソーシャルネットワーキングサービスの利用状況」のExcelはこちら / CSVはこちら

北九州市DX推進計画 デジタル・デバйд対策

令和4年5月19日
北九州市デジタル市役所推進課

DX推進計画におけるデジタル・デバйд対策

取組の方向性

- ◆使い方の支援などデジタルを意識しない環境醸成
- ◆スマートフォン活用を後押しする取組を行う
- ◆個人ごとの理解度やニーズに応じた学習の場を幅広く市民に提供する
- ◆高齢者等のデジタル技術習得を支援する地域人材を育成する
- ◆市民のインターネット利用率向上を目指す

取組内容

- ◆普及啓発
- ◆初心者向け講座、相談会
- ◆国事業との連携
- ◆地域人材の育成
- ◆インターネット接続環境の充実



令和3年度デジタル活用講座

スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に、スマートフォンの基本操作等を体験する講座を実施

【実施概要】

実施場所：市民センター25館
 実施回数：25回（90分の講座を1館につき1回実施）
 受講者数：計248名
 講師：株式会社ドコモCS九州
 講座内容：スマートフォンの基本操作、スマートフォンの詐欺について
 インターネットの使い方（音声検索、QRコード読み取り等）
 便利なアプリの紹介、防災情報の取得方法等



令和3年度デジタル活用相談会

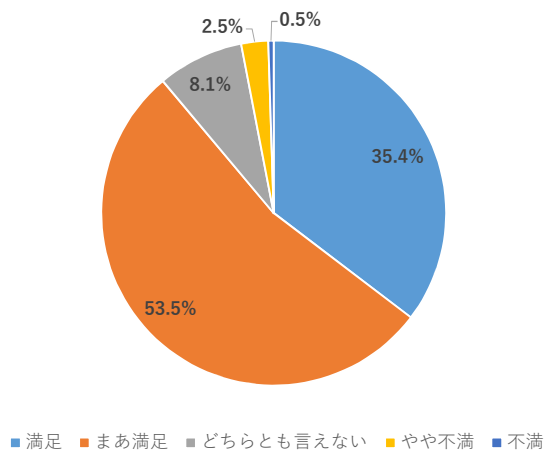
スマートフォンに関して疑問や不安を抱えている方を対象に、個々に相談を受け付ける相談会を実施

【実施概要】

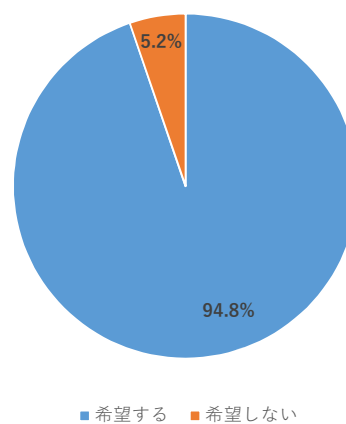
実施場所：リバーウォーク北九州「Q-station」
 実施回数：計3回（11:00～17:00）
 相談者数：計26名
 相談員：株式会社ドコモCS九州
 相談内容：スマートフォンの基本操作、メール・LINE等の使い方
 マイナンバーカードの申請方法、オンライン予約方法等



講座の満足度

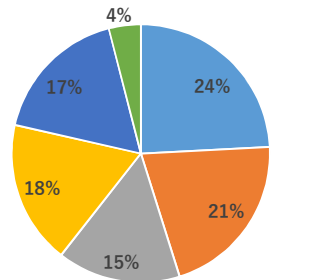


次回の参加希望



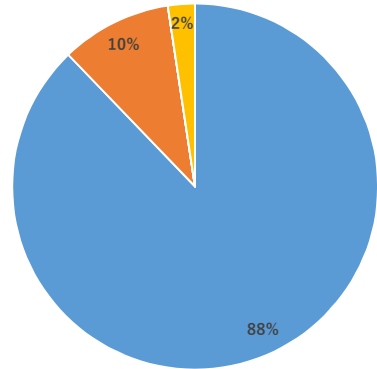
令和3年度デジタル活用講座・相談会のアンケート結果

今後できるようになりたいこと



- 電話、メール、LINEでの連絡
- 天気やバスの時間などの調べもの
- 決済アプリを使って買い物の支払い
- インターネットでの買い物等

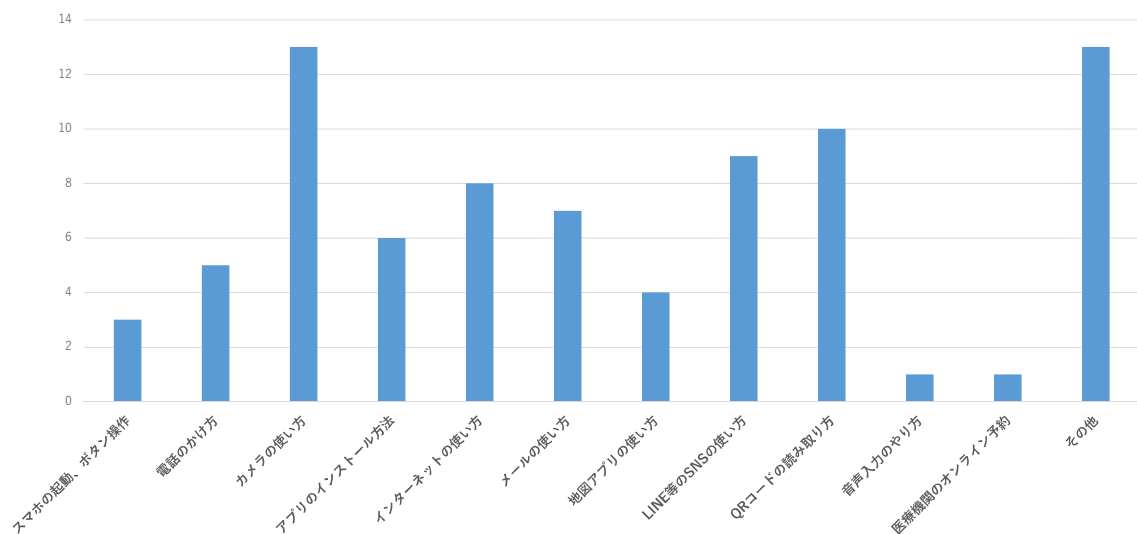
相談会の満足度



- 満足
- まあ満足
- どちらでもない
- やや不満
- 不満

令和3年度デジタル活用相談会のアンケート結果

相談内容



令和4年度デジタル活用講座

【実施概要（予定）】

実施場所：市民センター30館
 実施回数：30回（90分の講座を1館につき1回実施）
 実施期間：令和4年8月頃から令和5年3月まで
 受講者数：各回10名程度
 講座内容：スマートフォンの基本操作、スマートフォンの詐欺について
 インターネットの使い方（音声検索、QRコード読み取り等）
 便利なアプリの紹介、防災情報の取得方法等



令和4年度は「テレビ電話体験」を講座に追加予定

- ご家族等とのコミュニケーション醸成を支援
- リモート窓口等の活用を支援

令和4年度デジタル活用相談会

今年度も同様に相談会実施を予定しているため、内容について検討を行っている

全市民センターへモバイルWi-Fiルーター整備

一般社団法人北九州ネットワークスから130台を無償提供いただき、来館者用に活用予定



企救丘市民センター「デジタル化への対応」に関する取り組み ～コロナ禍での地域づくりとコミュニケーションのあり方～

北九州市立 企救丘市民センター
館長 安倍ゆかり

1 オンライン講座

- ・ ZOOM 講座や動画編集講座で学んだスキルを活かし、オンライン講座を開催！
 - ① 陶芸講座（令和2年11月28日）
 - ② ズンバ講座（令和2年12月5日）
 - ③ 雪印骨カルシウム講座（令和3年10月20日）

2 オンラインを使う上での問題点について

- ・ デジタル・デバイド／情報格差

3 「2021 おしゃべりするカフェ」

- ・ スマホ講座の開催

4 スマホカフェ（スマホのよろず相談）

- ・ スマホ講座終了後、職員が教えるスマホカフェを開設
- ・ 令和4年4月より毎週水曜日開催

5 その他の取り組み

Youtube やホームページを利用した活動

- ・ 多くの人を集められない状況ではあるが、学びや活動を止めない方法を考える
 - ① 人権地域別研修会
 - ② 子育て支援・きくがおかオリジナル絵本を毎月アップ

6 今後の取り組み・課題

- ・ デジタル人材育成（学生・シニア世代の地域参加）

企救丘市民センター 「デジタル化への対応」に関する取り組み

～コロナ禍での地域づくりとコミュニケーションのあり方～

企救丘市民センター館長 安倍 ゆかり

令和4年5月19日(木)

- 1 オンライン講座
- 2 オンラインを使う上での問題点
- 3 2021おしゃべりするカフェ
- 4 スマホカフェ(スマホのよろず相談)
- 5 その他の取り組み
- 6 今後の取り組み・課題

企救丘校区

- 人口 12,662名
- 世帯数 5,807世帯 —令和2年9月—
- 高齢化率 29.9%(北九州市31%)
- 企救丘小学校 692人
- 志徳中学校 598人
- 4月 志井川の桜がとてもきれいな校区
- スローガン 「声かけて子どもの育つきがおか」
- 子育てしやすい街を目指す



1 オンライン講座

令和2年1月から市民センター活動がストップ..
職員がZOOM講座や動画編集講座で学んだ
スキルを活かし、オンライン講座を開催！

①令和2年11月28日

②令和2年12月 5日

③令和3年10月20日

陶芸講座

ズンバ講座

雪印骨カルシウム講座

① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう 「陶芸講座」



① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう 「陶芸講座」

・オンライン講座参加

・ヒアリングシート

- ・ ご自宅にインターネットができる環境はありますか？
- ・ ご自宅にWi-Fiはありますか？
- ・ オンライン講座で使用する機器を教えてください。
- ・ 「パソコン」とお答えした方にお聞きします。カメラとマイクはついていますか？
- ・ ※カメラとマイクが無くても参加はできます。(ズンバ)陶芸はカメラとマイク必要

① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう
「陶芸講座」

・講師のリハーサル



① おうち時間(ステイホーム)を楽しもう
「陶芸講座」



② コロナによる運動不足解消のため
「ズンバ講座」



② コロナによる運動不足解消のため
「ズンバ講座」



③ 企業と地域をつなげる
「雪印 骨カルシウム講座」



③ 企業と地域をつなげる
「雪印 骨カルシウム講座」



2 オンラインを使う上での問題点

- ・「高齢化」と「デジタル化」が同時に進行する社会
- ・コロナ禍でネットに不慣れな人たちが取り残される

デジタルデバイド／情報格差

- ・ コロナ禍で高齢者の方が社会的孤立に陥る人が多いのは若者に比べてSNSやインターネットを利用する人が少ないことが背景にある

* 東京都健康長寿医療センター研究所の全国調査より

- ・ 令和3年5月、コロナワクチン接種予約時の混乱と情報格差解消の必要性

3 「2021 おしゃべりするカフェ」

・令和3年度 シニア対象のスマホ講座開催

ドコモ・・・6/25、7/16、7/30、10/15、10/22、11/19
11/26、12/10、12/17

元気にGOGO!生き生きスマホ講座・・・10/11、10/4

ソフトバンク・・・1/21、1/28、2/4、2/18

計15回開催！令和4年度も開催予定

4 スマホカフェ(スマホのよろず相談)

令和3年9月より毎週水曜日

職員が教える「**スマホカフェ**」開催！





5 その他の取組み

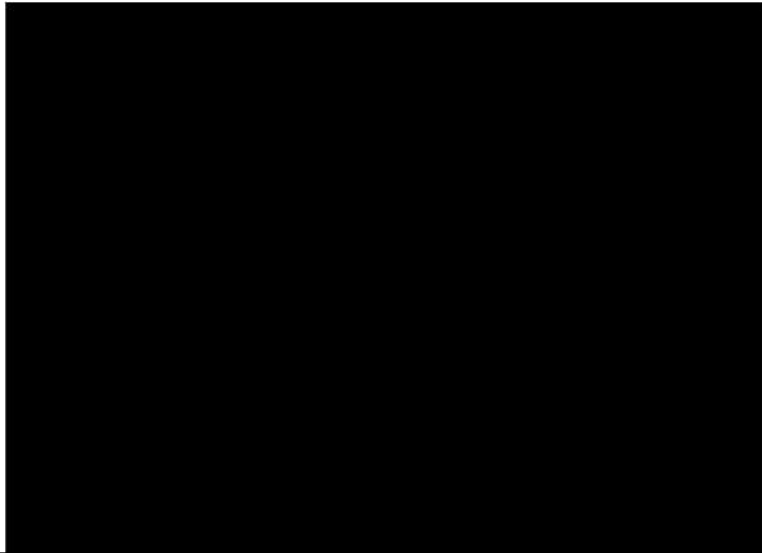
Youtubeやホームページを利用した活動

① 人権地域別研修会

② 子育て支援・・・

きくがおかオリジナル絵本を毎月アップ

② 子育て支援・きくがおかオリジナル絵本
令和2年10月より 毎月1話 アップ



6 今後の取り組み・課題

・デジタル人材育成・

学生・シニア世代の地域参加

高齢者のスマホ利用者を増やすと共に、
学生のデジタルスキルを地域活動へ取り込む

デジタル人材育成(学生の地域参加)

- ・令和3年10月に北九州市立大学の学生が主催の「きっかふえ」を開催
- ・学生が民生委員、青パト、地域防災、環境活動をテーマに地域課題の解決を地域住民と一っしょに探った



デジタル人材育成(学生の地域参加)

- ・学生のキャリア教育
- ・地域活動が若者の目から見たらどのように映っているのかという情報収集にもなる
- ・地域の方々が自然とオンライン体験をしている、**これが重要！！**



デジタル人材育成(シニア世代)



6 今後の取り組み・課題

・高齢者がインターネットやスマホを正しく使用し、
トラブルに巻き込まれないために

デジタルリテラシーをいかにして高めるかが課題



市民講座「ともがき」講座から市民活動への展開

～THE SDGs！市民活動者を育て・つなげて、地域を活性化する館長の取り組み～

北九州市立 西門司市民センター 館長 渡辺 いづみ

1 生涯学習市民講座「ともがき講座」について

大学生と 30 代～80 代の参加者が「共に学び、共に書く」を合言葉に「人生を書き残すことの意義や（聞き書き）ボランティアの重要性」を学ぶ市民講座。

門司は昭和 20 年に空襲、28 年に大災害の被害に遭っている。また戦時中は、多くの兵隊が門司港から戦地へ向かうという兵隊宿营地としての歴史もある。

戦災、水害などを含めた証言記録(自分史)をまとめることにより、新しい「地域史」を誕生させ、市民の関心を地域に向けさせ、新しい地域活動に参加する動機付けを促した企画。

【ともがき講座の展開・連鎖】

- 1 令和 2 年 9 月：聞き書き講座（全 3 回）を開始。その後、自主活動へ移行
- 2 令和 3 年 6 月：証言集「聞き書きでのこす門司の記憶 未来への伝言」発刊
- 3 令和 3 年 8 月：世代間の交流を図る“地域で育もう「未来の種」”事業につなげる
- 4 令和 3 年 8 月：戦没者慰霊祭を開催（令和 4 年 8 月に第 2 回慰霊祭を開催）

2 世代間交流で未来へバトンを渡す取り組み

“地域で育もう「未来の種」”：西門司たんけん隊 「じーもクラブ」（全 5 回）

昭和 11 年開校当初から歌い継がれてきた「西門司小学校校歌」の歌詞に、校区の人々の誇りや願いが込められていることに着目。歌詞の意味を理解し、自分が生まれ育った土地の歴史・地形の特徴・河川の環境を知るために、実際に歩いて「見て・聞いて・感じる」ことを企画したもの。

3 渡辺館長のプロフィール

平成 20 年東朽網市民センター館長に着任。22 年「朽網の郷土史を語る会」を結成し、小倉南区朽網周辺の遺跡、史跡の調査・研究活動を開始。平成 25 年に北九州市市政 50 周年事業の一環で、郷土史「ふるさと朽網今昔」を発刊。25 年平野市民センター館長着任。26 年八幡大空襲を聞き書き記録する活動を開始し、聞き書きボランティア「平野塾」を結成。その後、平和学習への出前講演に大空襲体験者を派遣する事業や語り部同窓会などの交流活動へと展開しつつ活動を継続中。平成 30 年西門司市民センター着任。

4 西門司市民センターのその他取り組み

- ・平和教育の取り組み：家庭教育学級で戦争証言を漫画化した男性の講演会を開催
- ・チャレンジウォーキング（3 か月のウォーキングキャンペーン）：歩数報告することで運動の習慣化につなげる取り組み



9月西門司

市民センターだより

＜北九州市立西門司市民センター＞

〒800-0048 北九州市門司区稲積1丁目3-1
TEL・FAX (093)381-4927
Eメール: dn-cc@ktqc02.net
HP: www.ktqc01.net/moji/dncc/
発行責任者: 渡辺 いづみ



西門司市民センター文化祭(展示部門)

文化の薫る 西門司作品展

11月3日(祝)、4日(金)、5日(土)

西門司市民センター 多目的ホール 他

昨年同様、今年も作品の展示会として開催することになりました。

西門司市民センターで活動続けるクラブの方々や西門司地区にお住まいの方々による作品の展示をします。

文化の秋を皆さんと鑑賞できる催しを予定しています。

主催：西門司市民センター・クラブ協議会

★詳しくは10月の臨時号にてお知らせいたします★

作品展示のみ
ステージ発表は
12月3日予定

地域の方の 作品募集中です！

「西門司作品展」に
あなたの作品を
出展してみませんか？

お手持ちの作品で
絵画・写真・手芸品など

必ず事前にお電話で
お申し込みください！

申込締切り 10月14日(金)

お問い合わせは西門司市民センターまで

9月《行事予定》

現在ほとんどの行事は『事前予約制』です
ご来館前にお問い合わせください

7	水	親子サロン・あひるの会♪	10:00～12:00
16	金	子育て支援「ちひろば」	10:30～12:00
22	木	妊産婦・乳幼児なんでも相談	13:30～15:00
30	金	健康相談	12:00～13:00
30	金	西門司スマイルスクール(高齢者サロン)	13:00～14:00

申込み・お問い合わせは

西門司市民センター 381-4927



結果発表 チャレンジウォーキング

主催：西門司校区まちづくり協議会
地域でGO!GO!健康づくり委員会

記録表提出者数

112名

今回もたくさんのご参加ありがとうございました！

歩数ランキング

1位	2,124,804 歩	73 歳男性
2位	1,781,127 歩	50 歳女性
3位	1,601,578 歩	83 歳男性
4位	1,587,974 歩	67 歳女性
5位	1,567,862 歩	72 歳男性

第3回目のウォーキング
キャンペーン(3カ月間)
が終了しました。
記録することが張り合いになり、とても楽しい
とお声を多くの方からいただきました。

第4回目は10月からキャンペーンを実施する予定です！！
その際はぜひご参加下さい

最高齢で
頑張ったお二人に若さの秘訣も
インタビューしてみました！

男性最高齢

92 歳

乾 信夫さん
1,216,311 歩

毎朝4:30に起床しウォーキングをしています。その後公園で皆さんとラジオ体操をして帰宅。

健康の秘訣は…

- ・適度な運動をすること
- ・十分な睡眠をとること
- ・食事は量を決めて正しくとること

乾信夫さんが趣味で撮られた写真パネルを
西門司市民センターロビーにて展示しています。
お立ち寄りの際はご覧下さい。



GOGO 西門司
チャレンジウォーキングも3回目
が終わりでしたが、お陰で気が付けば
習慣になりました。
一日一万歩を目指しているので出掛
ける時は必ず歩数計をポケットに！！
自分自身の健康の為に頑張ってい
ます。

女性最高齢

87 歳

安藤セツ子さん
975,440 歩



R4年度 夏休み特別子ども講座

「**じーもクラブ**」この夏は、北九州市にオープンした2つの施設を通して「科学」と「平和」をテーマに学習しました。
先ず市民センターで事前学習をしてから施設へ電車やバスで向いました。

第1回目 スペース LABO 【科学】 Science	7月27日(水) 参加者 子ども 15名 大人 8名	第2回目 平和のまちミュージアム 【平和】 Peace
泉 優佳里さん(科学技術コミュニケーション研究所)を講師に迎え、「フシギ」と思う気持ちが「科学の入口」だと学び、ワクワクしながら LABO へ出発!!	科学と平和は隣合わせ。 兵器の開発という「科学の視点」と「平和とのつながり」を子どもたちと共に勉強しました。	元西門司職員の松山道子さんから門司の戦争の説明を受け、八幡大空襲・小倉造兵廠についても座学で事前学習。ミュージアムでは西門司オリジナルのクイズを解きながら、さらに深く理解することができました。
	この絵本で事前学習をしました ジョナ・ウィンター 文 ジャンネット・ウィンター 絵 1943年3月、アメリカが莫大な資金を投じて原爆の研究開発を極秘に行ったマンハッタン計画。 完成した爆弾の投下により、日本は唯一の被爆国となりました。	
		

子育て支援事業

ちひろば

9月16日(金) 10:30~12:00

参加費:無料

場所:西門司市民センター 多目的ホール

対象:未就園児のお子さんと保護者 10組

内容:新聞紙を使った色々な遊び

準備するもの:汚れてもよい服・タオル

水分補給できるもの

申込み受付 9月1日 10:00~ 西門司市民センターまで

主催:西門司校区まちづくり協議会・西門司市民センター

【9月9日に終了します!!】

市民センターワクチン予約専用
窓口設置期間のお知らせ

◆令和4年9月9日(金)まで

【問い合わせ先】※コールセンターでも予約できます。

北九州市コロナワクチンコールセンター
0120-489-199 (全日9時~17時)

令和4年度 門司区

子育てサポーター養成講座

子育てサポーターとは、お住いの地域の市民センターで親子の見守りなどをするボランティアです。無理せず楽しみながら、一緒に活動してみませんか。

・日程:11月1日~29日(毎週火曜日・全5回)
10:00~12:00

・申込開始:9月20日(火)~※定員になり次第受付終了

・会場:門司区役所大会議室・門司生涯学習センター

・定員:15名程度・受講料:無料

申込み・問合せはお電話で TEL:093-331-1883

門司区役所コミュニティ支援課 生涯学習係担当:吉富・西

門司区 食生活改善推進員養成教室のお知らせ

食生活改善ボランティア募集!

食生活改善推進員(通称ヘルスマイト)とは、地域のみなさんの食を通じた健康づくり活動を進めるボランティアです。

◆対象 教室修了後、食生活改善のボランティア活動ができる方

◆日程 【全7回】概ね月1回 9:30~12:00(調理実習時は13時まで)
令和4年 10/28, 11/10, 11/25, 12/23
令和5年 1/27, 2/17, 3/3

◆会場 門司区役所(門司区清滝1-1-1)ほか
※調理実習時は門司区役所別館(門司区清滝3-5-5)

◆内容 食と健康に関する講話、調理実習など

◆費用 無料(※教室修了後、食生活改善推進協議会への入会時に年会費が必要)

◆募集 先着8名

◆申込み方法 9月5日(月)からお電話でお申込み下さい。

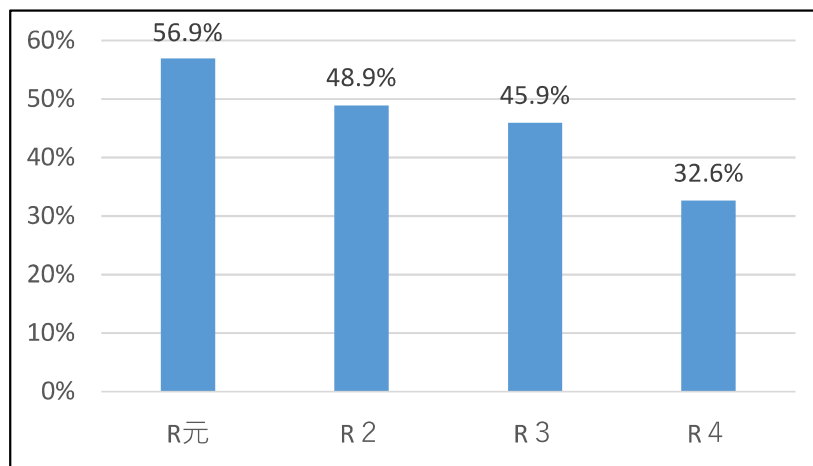
◆申込み・問合せ先 門司区役所保健福祉課 担当:栄養士 TEL331-1888

令和5年1月24日（火）

1 市政モニターアンケート生涯学習に関する意識調査結果

北九州市民である市政モニター150人に対し実施したアンケート調査から抜粋して、令和元年度から令和4年度までの経年変化をまとめた。

- (1) 過去1年間に学習活動（スポーツ、文化、趣味、レクリエーション、ボランティア活動、知識や技術を身につけたり、教養を高めたりすることなど）をした人の比率



(1)－1 学習活動を行った理由

（選択肢は「その他」を含め11、3つまで回答可）

上位3位の経年変化

	R元		R2		R3		R4	
1位	教養を高めるため	37.2%	趣味を深めるため	47.0%	教養を高めるため	41.0%	教養を高めるため	46.7%
2位	健康・体力づくりのため	35.9%	健康・体力づくりのため	43.9%	趣味を深めるため	39.3%	健康・体力づくりのため	40.0%
3位	趣味を深めるため	32.1%	教養を高めるため	36.4%	健康・体力づくりのため	29.5%	趣味を深めるため	33.3%

(1)－2 学習活動を行った場所・施設

（選択肢は「その他」を含め17、3つまで回答可）

上位3位の経年変化

	R元		R2		R3		R4	
1位	市民センター	37.2%	市民センター	34.8%	自宅	44.3%	自宅	44.4%
2位	自宅	23.1%	自宅	31.8%	市民センター	37.7%	市民センター	26.7%
3位	男女共同参画センター	19.2%	生涯学習(総合)センター	18.2%	生涯学習(総合)センター	18.0%	生涯学習(総合)センター	15.6%

※ R4年度「その他」(11.1%)には、「職業訓練学校」や「WEB」という意見があった。

(2) 今後新しく、あるいは今後も引き続いて学習活動したい内容

(選択肢は「その他」を含め12、3つまで回答可)

上位3位の経年変化

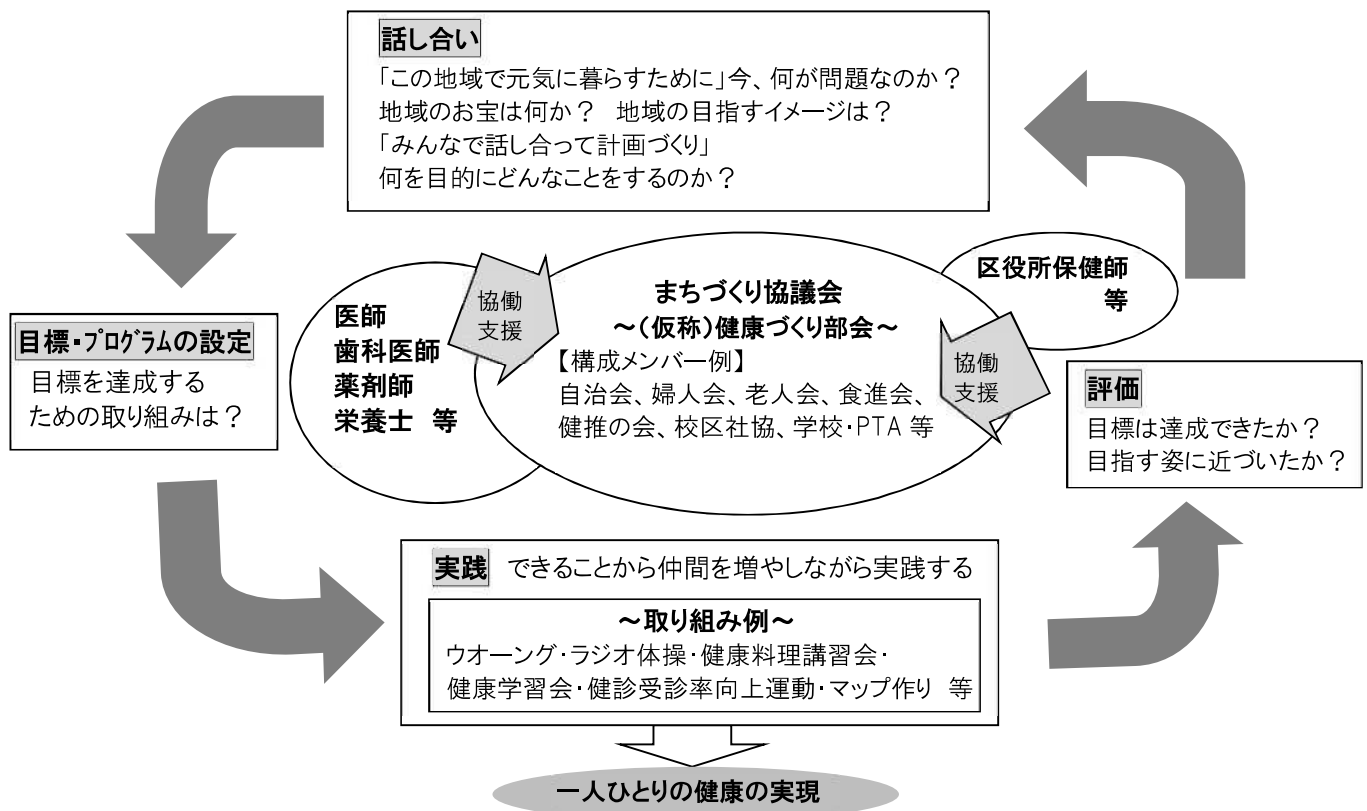
	R元		R 2		R 3		R 4	
1位	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	49.6%	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	45.9%	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	37.6%	趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）	35.5%
2位	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	40.9%	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	40.0%	教養的なもの（文学・歴史など）	34.6%	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	32.6%
3位	教養的なもの（文学・歴史など）	27.7%	教養的なもの（文学・歴史など）	30.4%	健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）	31.6%	職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得、機械、IT関連など）	23.2%

2 「地域で GO ! GO ! 健康づくり」事業について（保健福祉局健康医療部健康推進課所管事業）

市民センター等を拠点として、市民が主体となって、地域の健康課題について話し合い、目標設定、計画づくり、実践、事業評価を一つのサイクルとした健康づくり事業を、まちづくり協議会が健康づくり推進員の会、食生活改善推進員協議会と連携し、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、行政（保健師等）などの協力により行うもの。

平成16年度から事業開始し、令和4年度は全まちづくり協議会137団体中、133団体が実施している。

事業のイメージ



具体的な活動

まちづくり協議会	健康づくり推進員の会等	地域の医療機関・薬局（医師会・歯科医師会・薬剤師会等）	行政（保健師等）	保健・医療・福祉・地域連携推進協議会
- 健康づくり部会等の立ち上げ - 話し合いの開催、健康づくり活動の主催	- 住民へ活動参加の呼びかけ - 健康づくり活動の企画・実践の協力	- 専門的立場からの助言 - 健康学習会の講師	- 部会等の立ち上げ、話し合いの開催支援 - 健康データ・健康課題などの情報提供 - 健康づくりの実践支援 - 関係団体との調整	区の関係団体との情報共有

3 北九州市健康づくり活動表彰（保健福祉局健康医療部健康推進課所管事業）

市内企業や地域の活動団体が行う、従業員やその家族、地域住民の健康増進につながる先進的・効果的な取り組みを表彰し、活動内容を広めることで、個人の健康づくりを支える社会環境を整備していくこととしている。毎年度、企業部門、地域団体部門への応募者から、それぞれの部門で、表彰企業・地域団体（市長賞・優秀賞・健康づくり活動賞）を決定する。

【ニュースポーツ例】

1 ペタンク

南フランス発祥のペタンクはヨーロッパを中心に世界中で親しまれ、日本でも 40 万人以上がプレーしている。ビュットという目標球に金属製のペタンクボールを投げ合い、相手のボールより近づけることで得点を競うニュースポーツ。使用する道具は違うが、ルールは後述のボッチャと似ている。砂地や芝生の上でもプレーできる他、シンプルなルールなので誰でも楽しめる。

2 ドッジビー

人数：1 チーム 13 人

ボールの代わりに、布製のフライングディスクを使用するドッジボール形式のニュースポーツ。

内野と外野の配置人数は自由で、決められた時間内に相手チームよりも多くのプレーヤーが内野に残っていたチームが勝利となる。

3 ボッチャ

パラリンピックの正式種目になっているボッチャは、目標球に向かって色球を近づけられるかを競うニュースポーツ。色球を投げられない場合には、ランプという道具を使って楽しめる。運動量は控えめなので、適度に体を動かして運動不足を解消したい人にもおすすめ。各自治体や小中学校の体育館などで競技ができる。

4 グラウンドゴルフ

ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールインするまでの打数を競う種目。距離やホールポストの数を自由に設定可能で、ルールも簡単である。スタートマットとホールポストを設置するだけで準備完了。プレーヤー数や時間も無制限、審判は自分自身という自由度の高いニュースポーツで、老若男女が楽しめる。

5 カローリング

カローリングは、オリンピック競技にもなっているカーリングからヒントを得て、日本で考案されたニュースポーツである。誕生したのは 1993 年と歴史は浅いが、子どもから高齢者まで気軽に楽しめ、全国で親しまれている。カローリングは体育館や公民館など、室内で楽しむので天候に左右されない。言うなれば、室内のカーリングというところ。

6 ディスコン

杉やヒノキの間伐材を輪切りにしたクラフト用のコースターをヒントに 1997 年（平成 9 年）に岡山市立少年自然の家で発想された、日本生まれのニュースポーツである。

円盤（ディスク）を、操作（コントロール）することからディスク・コントロールを合成して「ディスクコン」と命名された。赤と青の 2 チームに分かれて、1 チーム 6 枚の円盤を投げ、どちらがポイントに近づいているかを競う簡単なスポーツのため、初めての方でもベテランと対等に競技を楽しむことができる。

北九州市民スポーツ大会の競技にもなっている。

4 地域で活躍する人材（学びと活動の環）

（１）健康づくり推進員

- ・まちづくり協議会、市民センター館長、健康づくり推進員等からの推薦を受け、「北九州市健康づくり推進員養成研修」を修了した者（健康づくり・介護予防に関する知識や技能を修得し、地域での健康づくりボランティアに取り組む人材を養成）
- ・保健師やまちづくり協議会等と協働し、市民センター等で地域における健康づくりを推進しているボランティア。養成研修修了後もフォローアップ研修等に参加し、健康意識を高めながら、地域と行政が一体となって行う住民主体の健康づくりを推進している。
- ・令和4年6月1日現在 669名の登録（北九州市健康づくり推進員の会）。

（２）スポーツ推進委員

- ・スポーツ推進委員はスポーツ基本法（第32条）に定められており、地域スポーツの中核的役割を担うことが期待されている。地域のスポーツ・レクリエーションに関する行事の企画・立案、運営及び指導を行う。さらにニュースポーツの普及・振興などを行うため、市及び区単位に協議会を設置して、スポーツ振興のための研究協議、関係との連絡調整を行っている。
- ・スポーツ推進委員は市から委嘱された非常勤職員でまちづくり協議会の推薦による。各校区にほぼ2名配置し、全265名（令和4年4月1日現在）。各地域の実情に合わせ、活動している。
- ・北九州市スポーツ推進委員協議会は、各種委員会を組織し、年2回の広報誌発行を初め、全国・九州・福岡県で開催される研修大会に委員を派遣するなど資質の向上に努めている。

（３）食生活改善推進員（ヘルスマイト）

- ・市が開催する「食生活改善推進員養成教室」を修了し、自らの意思で会員となった者で構成される。令和4年度会員数は1,137名、愛称は「ヘルスマイト」。
- ・スローガンは「私たちの健康は私たちの手で」
- ・「ふれあい昼食交流会」「食生活改善推進員による訪問事業」「減塩普及講習会」「健康料理普及講習会」「おやこの食育教室」「男性料理教室」など、地域等と連携を図りながら健康づくり事業や食育事業にも積極的に取り組んでいる。
- ・平成30年8月に「健康(幸)寿命プラス2歳 北九州サミット」、「ふくおか健康づくり県民会議」に参加し、健康寿命の延伸に向けて食を通じた健康づくりに主体的に取り組んでいる。

5 ニュースポーツについて

ニュースポーツとは、技術やルールが比較的簡単で、だれでも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として、新しく考案・紹介されたスポーツである。その数は数百種目以上あり、一般的に、競い合うことよりも誰もが楽しめることに主眼がある、といわれている。

【具体的な魅力】

1 やさしいルール

最大の特徴は、ルールがやさしく初心者でも楽しめること。なかには、オリンピック競技にもなっている本格的なスポーツをベースに、ルールを変えてニュースポーツとして広まっているものもある。

2 だれでもできる

子どもからお年寄りまで、参加可能な年齢の幅が広いことも特徴。運動量を参加者自身が調節できるものも多く、自分の体力と相談しながら楽しめる。激しい運動を要求しない種目が多いので、運動が苦手な人や、普段あまり運動をする機会がない人にもおすすめである。



令和5年1月24日（火）

地域の課題を地域で考え、地域で解決する

～二つの柱で取組む地域の健康づくり活動～

北九州市立 沢見市民センター 館長 吉弘 清美

1 沢見地区の特徴について

沢見地区は戸畑区のほぼ中央に位置し緑豊かな住宅街である。新旧の商店が点在し、大型医療施設をはじめとした各種の医療施設もあり、また九州工業大学を始めとする学校等に囲まれている。近年代替りが進み、新築の戸建てやマンション建設も多数行われている。

2 沢見まちづくり協議会の活動

（１）地域の活動主体としての役割：地域の課題を地域で考え、地域で解決する

（２）健康づくりに関わる主な団体

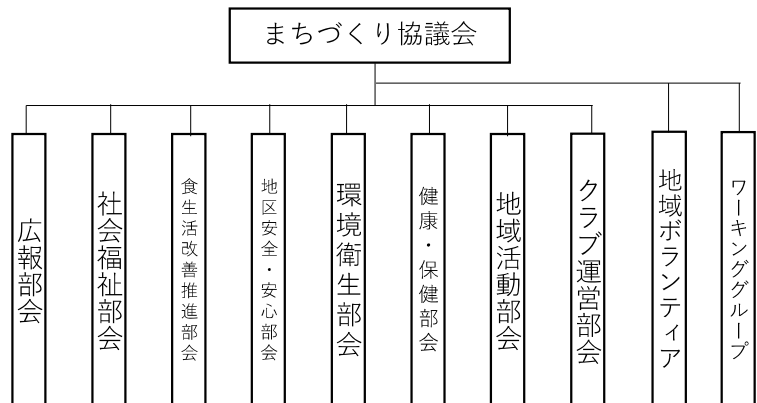
① 健康・保健部会：

まちづくり協議会役員・健康づくり推進員・スポーツ推進委員・北沢見地区友親会・南沢見地区八千代会・社会福祉協議会・地域推薦、まち協推薦の委員・市民センター

② 食生活改善推進部会：

食生活改善推進員協議会

③ 沢見いちご講座（生涯学習市民講座）：戸畑リハビリテーション病院・市民センター



3 一つ目の柱：地域でGO！GO！健康づくり事業

市民センター等を拠点として、市民が主体となって、地域の健康課題について話し合い、目標設定、計画づくり、実践、事業評価を一つのサイクルとした健康づくり事業を、まちづくり協議会が健康づくり推進員の会、食生活改善推進員協議会と連携し、行政（保健師等）などの協力により行うもの。沢見地区は、戸畑区でいち早くモデル事業として「健康づくり」に取り組み、活動を展開してきた。平成27年度北九州市健康づくり活動表彰「市長賞」を受賞している。

【沢見地区 健康・保健部会の取組み】・・・地域担当保健師との連携

- （１） 昨年度のPDCA サイクル図を検証し地域の実情把握を行う
- （２） 年間テーマの設定…減塩
「いつまでも このまちで 自分らしく イキイキと ～手をつなぐまちさわみ～」
- （３） WITH コロナを踏まえての活動計画と実行（感染予防対策の継続）
- （４） 地域担当保健師、看護師を交えての計画実行前の会議と後の振り返り

4 令和4年度沢見市民センターの健康に関する取組みと課題「PCDA サイクル図」



5 二つ目の柱：生涯学習市民講座 戸畑リハビリテーション病院と連携した“いちご講座”

地域の社会医療法人との連携により、様々なプログラムを通じて生活機能全般に関する低下予防を目的とし、市民センターに集うことで繋がりを持ち、引きこもりや孤立を防ぎ、生き生きとした日常生活を過ごす土台づくりとする講座。

令和元年度：沢見市民センタークラブ「沢見いちご会」は、高齢化が進み、自主運営が困難となる。

戸畑リハビリテーション病院が地域包括推進チームを立ち上げ、地域貢献を検討・相談

令和2年度：連携開始（センター職員、クラブ会員および法人との連携についての理解を得る）

コロナ禍により大人数で集まることが困難になり、外出自粛する方が増加。

令和3年度：戸畑リハビリテーション病院「広報課」の協力によるオンライン配信の実現

東戸畑市民センター（令和3年度北九州市健康づくり活動表彰「市長賞」受賞）への配信開始

令和4年度 沢見いちご講座

第2・4木曜日 13:30～15:00

沢見市民センター保管用



氏 名

	日 程	内 容	講 師	血 圧	出 欠
1	4月28日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
2	5月12日	フレイル講座 勝手にウォーキング説明会	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
3	5月26日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
4	6月9日	口腔ケア講座	戸畑リハビリテーション病院 歯科衛生士 坂本 匡子	／	
5	6月23日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 田中 麻衣子	／	
6	7月14日	住み慣れたまちでいつまでも	北九州市社会福祉協議会地域福祉部 戸畑区事務所地域支援コーディネーター 縄手 富美	／	
7	7月28日	風鈴づくり	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
8	8月25日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 岩切 秀文	／	
9	9月8日	オンラインダンス	北九州市立大学地域創生学群 大学生	／	
10	9月22日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 岩切 秀文	／	
11	10月13日	リハビリ栄養講座	戸畑リハビリテーション病院 管理栄養士 斎藤 由佳	／	
12	10月27日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
13	11月10日	在宅医療講座	戸畑リハビリテーション病院 看護師 森 久子	／	
14	11月24日	Let's Walking	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	
15	12月8日	認知症予防講座	戸畑リハビリテーション病院 認知症ケア専門士 君原 啓雄	／	
16	12月22日	体操とダンス	戸畑リハビリテーション病院 メディカルフィットネスR・EX 戸畑スタッフ 原澤 勉	／	
17	1月12日	ACP/終活講座	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹 理学療法士 久保 貴照	／	
18	1月26日	詩吟	沢見市民センタークラブ 玄瑞会 講師 山本 俊一	／	
19	2月9日	お薬について学ぼう	戸畑リハビリテーション病院 薬剤師	／	
20	3月9日	看護師さんからのお話	戸畑リハビリテーション病院 看護師	／	
21	3月23日	振り返り会	戸畑リハビリテーション病院 理学療法士 原田 直樹	／	

黄色はオンライン講座

6 沢見地区の課題と今後の取組み

（１）課題

- ・ 地域、スタッフの高齢化
- ・ コロナ禍での生活の質の低下、気力低下、フレイルの進行
- ・ 健康診断受診の周知、PR
- ・ 参加者の固定化（65歳以下特に児童の参加が少ない）
- ・ コロナ禍で近隣との触れ合いの欠如による運動不足

（２）今後の取組み

- ・ 世代間の交流を中心に、次世代につなぐ参加者を増やす
- ・ 児童と保護者が一緒に参加し活動できる内容を取り入れる
- ・ 声かけと誘い合いで、引きこもり予防活動を展開する
- ・ 簡単にできるニュースポーツを取り入れ参加者を増やす



令和4年11月27日に市民センターの「地域で育もう『未来の種』事業」が北九州市市政ラジオ番組「KITA9PR 部のキタナビ！」で特集されました。放送内容をご紹介します。

○市政ラジオ番組「KITA9PR 部のキタナビ！」「KITA9PR 部」とは
同世代にも北九州の魅力をもっと知ってほしい」との思いで集まった、18歳から20代の学生・社会人グループです。リスナーに本市の魅力や市政情報を伝えようと番組づくりに奮闘しています。



放送局：CROSS FM (FM：北九州77.0MHz)
毎週日曜日 あさ10時～(60分間)

※【聴き逃し配信は】

北九州市広報室広報課のホームページから過去の放送を聴くことができます。
市政情報>広報・広聴>市政テレビ・ラジオ>市政ラジオ番組「KITA9PR 部のキタナビ！」

【放送内容】（※読みやすいように一部加工・修正しています）

市民センターの挑戦、未来の種事業をテーマにお届けします。

PR 部 まず早速だけど、市民センターの印象って何かある？

PR 部 自分は小さいころ、クラブ活動でホールを使わせていただいたり、ダンスをやっていたんですけど、市民センターのイベントの文化祭でちょっと出演させていただいたりしていたので、すごい身近に感じていたという印象があります。

PR 部 僕は、小学生時代に、いきいきこども講座が市民センターであって。今は、こども食堂で、月に1回は市民センターへ行ってます。

（こども食堂のお手伝いを？）そう、ボランティアで、子どもの相手をする感じですね。

PR 部 頼もしいね。

私は、市民センターは聞いたことはあって、それこそ回覧版や市報などで市民センターの行事があっているのは見るんだけど。おもしろそうだなと思ってはいるけど、参加したことはなくて。

でも私のおばあちゃんが参加したり、というのはあるので、市民センターってご高齢の方が集う場所で若い人はあんまり縁がないんじゃないっていうイメージを持ってらっしゃる方がいるかもしれませんね。

そんなイメージが変わるかもしれない北九州市の取組みを今日はご紹介したいと思います。

スタジオにはゲストにお越しいただいています。

北九州市 生涯学習課 菅恒弘（すが・つねひろ）さんと、NPO 法人好きっちゃ北九州 代表 入門真生（いりかど・まさお）さんです。

どうぞよろしくお願いいたします。

そもそも北九州市には、どれくらいの市民センターがあって、どんな役割があるのか、教えてください。

菅 市民センターは市内に現在130館あり、おおむね小学校区に一つ設置されています。地域の自主的・主体的な地域づくり・まちづくり活動などの、地域活動の拠点のような施設になっています。先ほどお話に出ましたが、クラブ活動のような地域の方々の趣味や健康づくりなどの活動や地域での会議があったり、地域の歴史を学ぶような講座があったりと様々な活動が地域の方たちによって行われています。また、子育てサークルもありますので、親子で利用され

ている方もいらっしゃいます。

また、最近災害も増えてきていますので、災害時には避難所としても使われています。

PR 部 130館あるとおっしゃったと思うんですが。

菅 だいたい小学校区にひとつあるぐらいの割合で設置されています。

PR 部 え、北九州って、小学校が130あるんですか。

入門 133だと思います。133校の小学校がある。

PR 部 そうなんだ。すごい、そんなに多いて思ってた。

菅 最近は小学校が統廃合されたりしていることもあるので、小学校と市民センターの数は少し違ってきたりしています。

PR 部 結構地域に密着してあるんですね。ぜんぜん知らなかったです。

菅 ほとんどの方は、歩いて行ける距離に市民センターがあります。

PR 部 たしかに。私も徒歩5分しないぐらいであります。

PR 部 昔、市民センターは（家の）目の前でした。

菅 結構身近なところにあるのが市民センターですね。

PR 部 なるほど。

北九州市の市民センターでは、新たな取り組みとして、令和3年度から『地域で育もう「未来の種」事業』をスタートしています。「未来の種」って素敵なネーミングだなと思いますが、菅さん、どんな事業ですか？

菅 まずネーミングをほめていただき、ありがとうございます。

この「未来の種」事業ですけれども、少子化や地域コミュニティ意識の希薄化によって、地域での子どもたちの活動する機会がどうしても減ってきています。

そこで、「未来の種」事業は、子どもたちは地域の未来の重要な担い手でありますので、子どもたちの健全な発達・育成を目的に、市民センターが中心になって、子育て支援団体、NPO、企業の方々などと協力して、地域の方々と一緒に、世代間交流や体験活動を実施するという事業です。

普通の市民センターの事業では、市民センターの館長さんや職員さんが企画・運営しているのですが、未来の種事業は、NPO法人などの外部の団体が関わって、事業の企画・運営しているところが特徴的です。

PR 部 では、またちょっと新たな視点で、いろいろな活動をしているということになるんですね

菅 そうですね。なかなか普段では出来ないことに、外部の方たちがコーディネーターとして入って、実施するというのが、新しい取り組みの一つとして考えています。

実際どのような内容が展開されているのか気になります。令和 4 年度は如何ですか？

菅 今年度は 20 カ所の市民センターで事業が展開されています。

具体的には、「野外活動やスポーツ、演劇といった体験活動」、「紫川や若戸大橋といった地域の資源を使った学習や体験」「地域の人へのインタビューやまち歩きをして地域の歴史の掘り起こし」、「高齢者の見守り」など。

買い物難民ってご存知でしょうか、近くで買い物をする場所がないというような、地域によって課題があって、そういう環境問題や防災といった地域が抱える課題をテーマにして、地域のことを学んだり、体験したりということを、子どもたちだけでなく地域の方々と一緒になって実施されているものが多いですね。

PR 部 活動内容も幅広いですね。

菅 そうですね。コーディネーターさんが関わることによって、普段の市民センターではなかなか体験できない学習ができるようになっていきます。

実はその中には、地域の方々だけでなく、大学生の方も関わっていただいている事業もあります。

「未来の種」事業で連携する心強い団体の 1 つが、「NPO 法人好きっちゃ北九州」です。代表の入門さん、どのような理念のもと活動している団体ですか？

入 門 ぼくたち「NPO 法人好きっちゃ北九州」は名前のとおり、北九州を好きになってほしいという思いで活動しています。

北九州を好きになってほしいといっても、まさに今の話のように、市民センター単位の小さなまち、自分のまちを好きになってもらうという活動をしています。本当にローカルな、ローカルな、子どもたちの生活範囲でみるような自分のまちを好きになってほしいという活動がメインです。だから、僕たちの活動は市民センターへ行って、地域の方たちと一緒に活動するということになっています。

「NPO 好きっちゃ北九州」さんの Facebook を見せてもらいましたが、防災や郷土愛、さらに、今必要だと思われるテーマについて、市民センターを中心に活発に活動されていることがわかりました。活動報告の内容からも、メンバーの皆さんは、地域や子供たちに対する熱い気持ちが伝わってきますが、皆さんどんなお気持ちで活動されていますか？

入 門 僕たちは、本当にいろんなまちに行かせていただいて、自分の地元ではないまちで活動している、いわゆる外部者としてそのまちに入っていくわけですけども、ぼくたちがメインパーソンにならないように、地域のみなさんが主役になるように、その地域のこどもたちが主役になるように、いわゆる支援する形

を基本だと思ってやっています。いろんなまちに行って、出迎えていただいて、一緒に活動する中で、僕たち自身も第二、第三のふるさとがどんどん増えていくみたいな感覚で、本当に北九州の広がり、深まりをいつも感じて、楽しくやっています。

PR 部 地域の人たちが主役ってすごくいいなと思う。自分たちがその地域をつくっていくというイメージに繋がっているのかな、そこが自分もすごくやる気になるなと思いました。

PR 部 たしかに。

入 門 そうなんですよ。子どもたちにこのまちを好きになってほしいという活動をする中で、僕たちが行って、それを聞き出していった、それってすごいじゃないですかと地域の人に言って、それを子どもに教えてやってください、とけしかける。わざわざ地域のおじちゃんが子どもたちに言うきっかけがないから、僕たちがつなぎ役にやっていくという感じです。防災にしてもそうですけども、ぼくが子どもたちに教えることは無くて、地域の人から教えていただくという感じです。

PR 部 たしかに、自分が住んでいる地区、地域をどんどん知っていくことや愛していくことができそうだなって思いました。そういうのが大切ですよ。

この番組では必ずオープニングで宣言していることがあります。それが「KITA9PR 部の私たちと一緒に、北九州の魅力をたーっぱり知ってもらって、北九州が大好きな人をどんどん増やしていきたいと思います！」です。「未来の種事業」に関わられているお二人は、北九州市の魅力をどのように感じていますか？

菅 実は私は今年 3 月まで観光課にいたので、観光課の職員という感じで言いますと、市の魅力というと「日本新三大夜景」でランキング 1 位になった夜景や小倉城や門司港といった歴史と言いたくなるのですが……。今日は違った観点で。

私は、この「未来の種」事業で今日いらっしゃった入門さんのような素敵な活動をしている方たちがたくさんいることがこのまちの魅力と考えています。私もこの事業を通してそのような方たちと知り合う機会が増えて、それが北九州の魅力なんじゃないかなと思います。

北九州はある程度大きな都市ですので、いろんな人たちがいるんですけども、まちのサイズとして、その人に会いたいなと思えば、実際に会えるんですよ、知り合いの知り合いでつながっていくような感じで。そうやって実際に会って、話を直接聞いたりできるようなまちのサイズ感が、北九州はちょうどいいなと感じています。やはり街の魅力は、そのまちに住んでいる人の魅力だろうなと思っています。

それから個人的なことですが、私は山の中を走るトレイルランニングを趣味にしていますが、そういう場所に車で何分かで行けるという環境がまだ身近に残っています。ある程度大きい都市ですけどそんな環境が残っているのも北九州市のも大きな魅力ですね。

入 門 とても難しい質問ですけど、北九州の好きなところ、ざっくり言うなら自分の生まれ育ったまちだから好きっていうのが一番なんです。

子ども達には、こういった自分のまちが好きだという思いを、とにかく育てていってほしいなと思っています。さきほどいろんな事業の話がありましたが、自分のまちのすごいところなどいろんな魅力を探っていくんですけど、最終的には自分のまちは好きっていうよりも、自分のまちの人たちが好きっていう気持ちに最終的には立ち返ってきたいと思っています。

やはり、「未来の種」事業はまさにそうですけど、子どもたちを温かく包んでくれる環境、このまちで育ってきたんだっていう気持ちを育てて行けたらいいなと思っています。先ほど、おっしゃったように北九州は山あり、谷あり、川あり、海ありで、たしかに産業の発展とともにまちが広がって行って、さきほど、130っていう話もありましたが、ぼくたちいろんなまちに行って、そのまちそのまちで表情が全然違うというのが、とっても面白いところです。山のまちがあって、海のまちもあって、川の近くのまちもあれば、都市のまち、住宅のまちもあって全然違う。

PR 部 同じ北九州市の中でも全然違うということですか。

入 門 全然違う。これがとっても面白くて。そこそこに昔ながらのお祭りがあり、地名や文化があってというのをいろんなまちで見えてきて、それぞれのまちに住む人がいて、それぞれの文化や歴史や風習がある、というのを汲み上げるととっても楽しいなと思います。

そんな、ひとつでなくて、いろんな色があるまちって北九州ならではのかなと思います。

「NPO 法人好きっちゃ北九州」の今年度の活動について教えてください。

入 門 ぼくたちは、いろんな活動でいろんなところに呼ばれて行って、特に最近はコロナ下もあって、なかなかイベント的なことができないけど、最近よく呼ばれるのは、「あそぼうさい」といって、「遊ぼう」と「防災」を掛け合わせた活動です。やはり、コロナ禍でも防災に対するニーズは絶えずに、何かやっていきたい、子どもたちと一緒に何かやっていきたいという声が多くて、12月も「あそぼうさい」は2件入っています。さきほど大学生の話が出ましたが、これは、大学生のメンバーがいっぱい来てくれて、一緒にやっていくという活動です。

特に大学生向けといえば、1月21日にESD協議会の中のあるESDプロモート実習と言って、SDGsのエデュケーションの部分で、ESDというのがある

んですけども、北九州大学の学生を中心に企画をしてくれているものがあります。全都道府県から参加者を募って、全都道府県の話題の中で自然との共存や防災などについて、オンラインで語っていきこうという企画で、今、準備しています。この企画のコーディネーターとして携わらせていただいている、これもとても楽しいイベントです。

PR 部 すごい。

入門さん、本当に伝えたいことを子供たちに興味を持ってもらうために工夫している点がありますか？

入 門 やはり実際に見て、聞いて、体感することが大切なのかなと思っています。学校教育のように、一方的に教わるとか、習うだけでなく、本当に子どもたちとその場所に行って、「あ、これだね」って発見してみたりだとか。

でもその中に面白さや楽しさを混ぜていかないといつも思っていて、やるからには楽しくやりたい。例えば地域の魅力発見で、まちの行ったことが無いようなところを探索するにも、例えばスタンプラリーにしてみたりだとか。防災でも防災を習うだけでなく、遊びに変えてみたりだとかして、体感してもらうことを大切にしています。

PR 部 実際にやってみないとわからないことだったり、実際にやったことの方が大人になっても覚えていますよね。

菅さん、このように、地域で活動する 知識やノウハウ、思いを持った素晴らしい方たちと一緒に市民センターが連携する可能性をどう感じているのでしょうか？

菅 「未来の種」事業では、入門さんのような専門的な知識・ノウハウを持った団体のみなさんに、コーディネーターとして関わっていただくことで、これまでにない魅力的な事業が実施できていると考えています。

「未来の種」事業に限らず、多くの方や団体、企業のみなさんに、市民センターの事業に関わっていただくことで、その事業だけではなく、市民センター全体の魅力も向上していくと思っています。

そうすることで、これまで市民センターにあまり足を運ばれたことがなかった方も、市民センターに来られることで、新たな出会いや気づきがあると思うので、それがまた新しい活動に繋がっていくんじゃないかなと期待しています。

そんな風に、市民センターが活性化していけば、そのセンターのある地域が元気になっていくといった循環が生まれると考えています。

そういった意味からも、入角さんのような専門的な知識・ノウハウを持った団体の皆さんというのは大きな力になると考えています。

PR 部 聞いているだけでも、なんだかわくわくしてきます。私も何か行事に参加したいなと思いました。

PR 部 実際に行ってみたいなと思いました。

菅 市民センターに来られてはじめて、こういうことをやっているんだと気づいたり、もしかしたら、そこに行くことで、自分もこんなことができるよということを知ったり、ということもあるかと思いますので、最初の一步というか最初に行くきっかけをどうやって作っていくかというのは色々考えたりするところですよ。

入門さん、「NPO 法人好きっちゃ北九州」としてこれからも届けていきたいことや、お知らせがありましたらお願いします。

入 門 今日の「未来の種」事業の話題でもそうですが、ぼくたちは、子ども、大人からお年寄りまで幅広い活動をやっているんですが、子どもをターゲットにした活動になると、子どもを真ん中にした地域づくりというのをいつもテーマにしています。

このまちの子どもたちを育んでいこうという気持ちは、地域の中でも共通の理解や認識のあるテーマだろうと思っていて、「子どもたちのために」という声かけをすると市民センターに多くの皆さんが集まって下さる、力を貸して下さるという活動になっていくのかなと思っています。

ぼくたちは火付け役として、いろんな地域に招いていただいて、活動しているという感じです。その中で、さっきも大学生の話もありましたけど、ぼくたち活動し始めたころは、若者、よそ者と言ってたんですが、僕も全然若くなくて、今では、学生の皆さんの力を借りているというのが大いにあって。学生の皆さんと連携しながら、一緒に地域に入っていくという中で、子ども達は歳の近いおにいちゃん、おねえちゃんが来たら、大喜びするんですよ。地域の人達も若い人たちがいっぱい来てくれたと喜んでいただけるんですね。これは、僕がいくら勉強しても、もう、取り返しのつかない力であって、大学生とか若い皆さんの持っているエネルギーであるし、パワーなんだろうと思っています。

学生の皆さんと一緒に協働しながら、いろんな地域に入っていくという活動をやっていますので、是非学生の皆さんと一緒に活動をすると、北九州でも第二、第三のふるさととはどんどん増えていきますし、よりこの北九州への愛着に繋がっていくのではないかなと思っています。

PR 部 子どもと大人だけでなく、そこに大学生が入ることによって、子ども、若者、大人、さらに高齢者、そこに人のつながりが出来そうですし、人の魅力、北九州の良さに繋がっているのかなと聞いて、今、思いました。

入門さんのお話を聴いたり資料を見たりしていると、子どもたちだけじゃなくて、KITA9PR 部世代（Z 世代）の私たちも聴いてみたいと思う内容も多いように感じます。菅さん、若い世代の市民センターの活用も含めて、メッセージやお知らせがありましたらお願いします。

菅 まずは皆さんの暮らしている地域にある市民センターがどこにあるのかをぜひ探してみしてほしいと思います。先ほどお話しましたように、だいたい小学校区にひとつありますので、皆さんが歩いていける校区にきっとあるはずですので、一度、散歩しながらでも探していただけたらなあと思います。

そして、もし、市民センターを見つけたら、勇気をもって市民センターに入っただけだと嬉しいなと思います。実際、市民センターには、特段、講座に参加する、クラブ活動があるというようなことでもなく、用事がなくても立ち寄る方も結構いらっしゃいます。

PR 部 そうなんですね。

菅 なので、そんな感じでふらっと入ってみるという感じで構いませんので、一度市民センターにお立ち寄りいただければいいかなと思っています。

そこでまた、興味ある講座や活動を目にしたら、気軽に参加いただけたらなと思います。

PR 部 こんにちは、ちょっと来てみました！みたいな、そんな感じでいいんですね。

菅 はい、全然それでいいんです。

PR 部 ちょっと、行ってみたい。

菅 お話好きな館長さんがもしかしたらいらっしゃるかもしれませんので、いろいろお話が盛り上がるかもしれません。お立ち寄りいただけると嬉しいです。

PR 部 用が無くて行ったことがなかったので、行ってみようかな。

PR 部 僕も昔は結構市民センターに行って、銀河鉄道999の漫画をただ読むということをしていました。

PR 部 そうですね、本がありますね。

菅 ひまわり文庫という形で市民センターのホールに本があります。そういった本も自由に読めますので、何か目的を持ってとか、勝手に入っちゃいけないんじゃないかと感じられる方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれませんが。そんなことはございませんので。

PR 部 自分もそう思っていました。

ここまで、北九州市 生涯学習課 菅恒弘さんと NPO 法人 好きっちゃ北九州 代表 入門真生さんにお話をうかがいました。ありがとうございました。